

Hanno Municipal Museum
Annual Report 2018

飯能市立博物館館報（実績報告書）

きつとすレポート

第1号

通巻第16号(平成30年度)



飯能市立博物館

あいさつ

飯能市立博物館としてリニューアルオープンした平成30年度の実績報告書である館報第1号をお届けいたします。タイトルも郷土館時代の「郷土館のプロフィール」から「きつとすレポート」へと一新いたしました。

通算で16号となる本報告書は、看板はかけかえたものの、平成28年度に発行した第13号以後のコンセプトを踏襲しています。それは、「当館の外へ向けてその存在価値を納得していただけるようなもの」であり、そのためには、佐々木亨氏が主張されるように、博物館が実施している事業やプログラムが利用者や地域住民の生活にどのような影響や変化をもたらしたのか、あるいはもたらす可能性があるのかを、博物館はもっと積極的に語る必要がある(『新訂博物館経営論・情報論』放送大学教育振興会 2008)、と考えるからです。

以前に比べると「学芸員」の仕事ぶりがマンガやテレビを通して紹介され、博物館に対する社会の理解もずいぶん進んでいるように思えます。しかし、こと地域博物館の活動についてはまだまだ知らない人も多いのではないのでしょうか。

そうした中で博物館の存在価値を訴えるには、まず博物館活動の総体を知ってもらうことが必要です。当館の館報が、これまであらゆる活動を見える化し、その実績をできるだけ数値で表そうとしてきたのはそのためです。この博物館と社会との様々な関わりの中から、人それぞれが接点や自分なりの使い方を見つけることができたなら、博物館は魅力的な、そしてより身近な存在として感じてもらえるようになるのではないのでしょうか。

私たちはリニューアルオープンとともにミッション(使命)を定めました。ミッションとは、「設置目的を再認識し、より社会とのつながりを強調して表した文章」(日本博物館協会『博物館評価制度等の構築に関する調査研究報告書』)であり、博物館の存在意義を広く社会的文脈の中に位置付けたもの、ということもできます。今後は、数値や当館の活動に関わってきた人たちの声などによって表してきたそれぞれの活動の実績を、ミッションが示す当館の目指すべき姿にどれだけ近づいているかを表す指標としても使っていくことになります。

リニューアルに伴い飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能が加わり、自然を愛するみなさんも当館に関わるようになりました。飯能市立博物館きつとすは、これまで以上に多くの方々とともに歩みを進め、時には支えられながら社会に欠くことのできない存在として認められるよう努めてまいります。今後ともみなさまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

飯能市立博物館
館長 尾崎泰弘

目次

あいさつ	1
目次	2
沿革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示	8
名栗くらしの展示室	10

第2章 事業

ミッション(使命)	12
平成30年度の事業	13
平成30年度重点施策とその評価	14
展示	
(特別展)	15
(その他の展示)	21
講座・学習会	26
交流	33
博学連携	40
資料・施設の利用	44
レファレンスの対応	49
講師派遣	50
収集	51
整理・保存	53
調査研究	56
情報発信	59
事業支援	62
博物館協議会	63
博物館実習	64

第3章 各種データ

利用者数	68
歳出予算・決算	69
図書資料寄贈機関	70
飯能市立博物館条例	72
飯能市立博物館条例施行規則	73
各種申請書	74
職員	75
利用案内	76

飯能市郷土館・飯能市立博物館の沿革

年月日	できごと
昭和46(1971)年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄附された1千200万円が予算化される。
昭和61(1986)年3月	(株)丸広百貨店より寄附された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61(1986)年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62(1987)年3月	飯能市文化財保護審議委員会から郷土館建設基本構想・基本計画が答申される。
昭和62(1987)年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62(1987)年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63(1988)年6月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元(1989)年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
平成元(1989)年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
平成元(1989)年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長・学芸員1・主事補1)
平成2(1990)年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物 ー思い出に残る品々ー」開催。
平成2(1990)年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
平成2(1990)年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動をつづける。
平成3(1991)年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回特別展開催となる)
平成3(1991)年7月	郷土館友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成4(1992)年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージⅠ」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成4(1992)年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
平成5(1993)年1月	郷土館友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施。(それ以後は館主催事業として平成29年まで開催)
平成5(1993)年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成6(1994)年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
平成6(1994)年10月	特別展「ジャパン・マイセン ー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
平成7(1995)年7月	常勤職員が4人(館長・学芸員2・主事補1)となる。
平成8(1996)年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8(1996)年8月	常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
平成9(1997)年3月	『館報』第1号発行。
平成10(1998)年9月	「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)
平成10(1998)年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成11(1999)年3月	収蔵品展開催。(これ以降、毎年春に収蔵品展、秋に特別展という枠組みになる)
平成11(1999)年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。

年月日	できごと
平成12(2000)年1月	第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。
平成12(2000)年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成13(2001)年2月	第Ⅱ期市民学芸員養成講座を実施。
平成13(2001)年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13(2001)年9月	これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
平成14(2002)年10月	当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15(2003)年3月	『収蔵資料目録1 写真資料目録Ⅰ』発行。
平成15(2003)年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15(2003)年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16(2004)年2月	第Ⅲ期市民学芸員養成講座実施。
平成16(2004)年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 ーその流域の今昔ー」開催。
平成17(2005)年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成19(2007)年3月	当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19(2007)年4月	開館以来の入館者数が50万人を突破する。
平成19(2007)年4月	第Ⅳ期市民学芸員養成講座実施。
平成19(2007)年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回実施)
平成22(2010)年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22(2010)年5月	第Ⅴ期・Ⅵ期市民学芸員養成講座実施。
平成22(2010)年11月	開館以来の入館者数が60万人を突破する。
平成23(2011)年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23(2011)年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上 ー明治維新・激動の6日間ー」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物増刷は初めて)
平成24(2012)年4月	当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24(2012)年6月	史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25(2013)年10月	収蔵絵画のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)
平成26(2014)年5月	開館以来の入館者数が70万人を突破する。
平成26(2014)年5月	第Ⅶ期・Ⅷ期市民学芸員養成講座実施。
平成26(2014)年6月	名栗くらしの展示室を開設する。
平成28(2016)年8月	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」策定、郷土館協議会で承認される。
平成28(2016)年9月	(株)ムラヤマによる常設展示改装展示設計業務を開始する。(平成29年2月完成)
平成29(2017)年6月	展示改装工事のため休館し(6月1日から平成30年3月31日まで)、常設展示改装工事を開始する。(平成29年12月完成)
平成30(2018)年4月	飯能河原・天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加し、「飯能市立博物館」としてリニューアルオープンする。
平成30(2018)年4月	リニューアルオープン記念写真展「春を告げるものたち」開催(～5月)
平成30(2018)年4月	春の自然観察会「里山の草花をたずねて」開催。
平成30(2018)年5月	開館以来の入館者数が80万人を突破する。
平成31(2019)年3月	年間入館者数が始めて40,000人を超える。(平成31年度の入館者数は41,533人)



入館者80万人達成



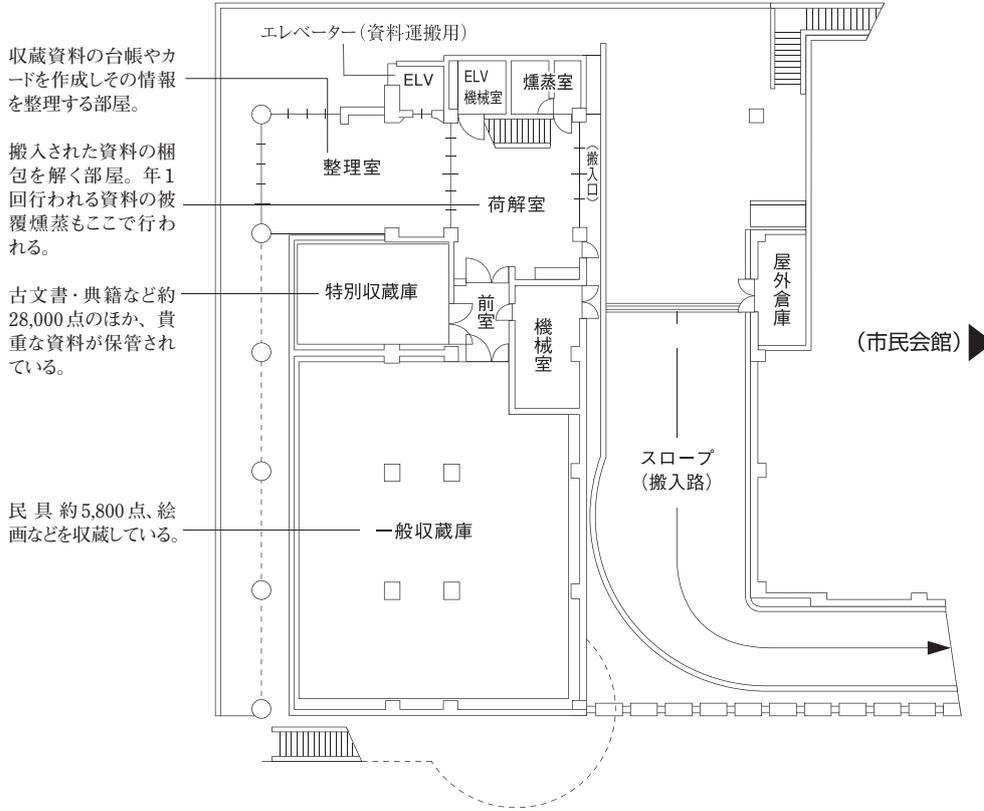
第 1 章

– Chapter 1 –

【 施 設 】

建物平面図

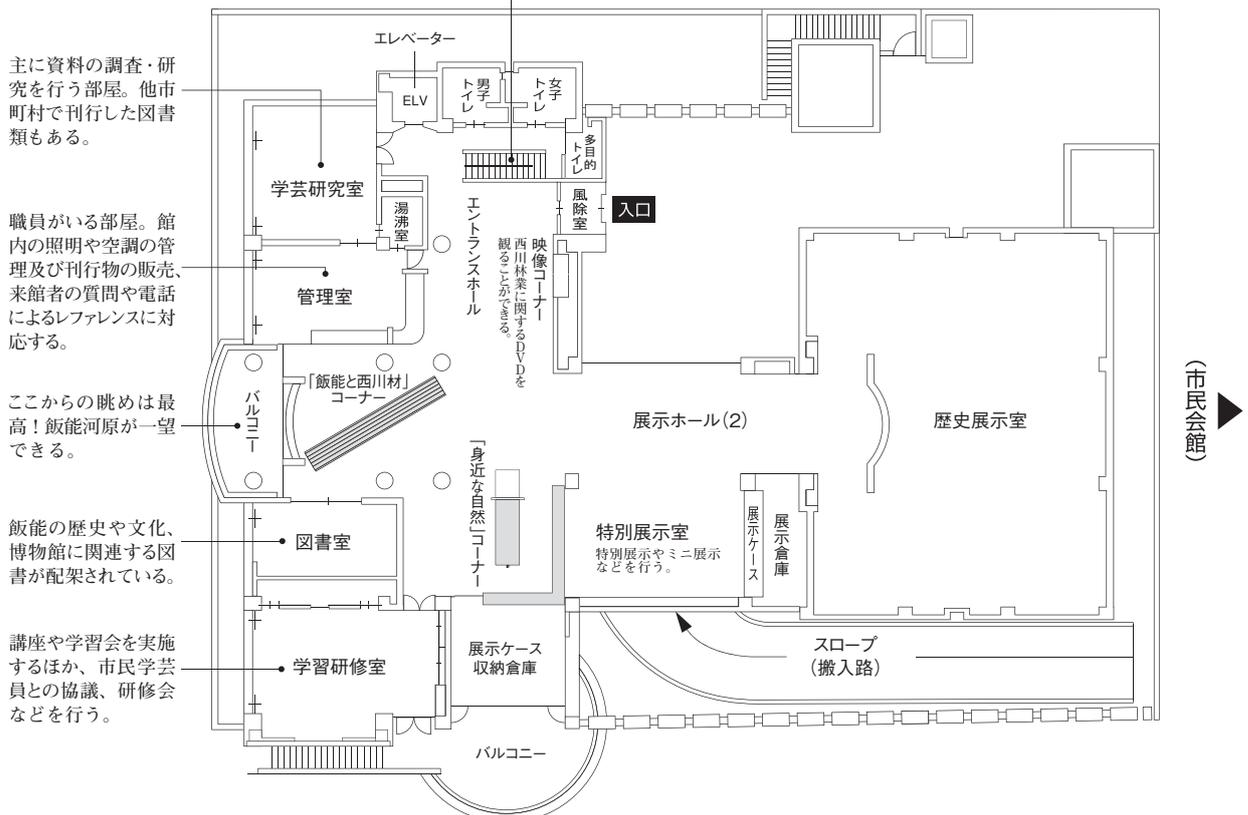
〈1階〉



※〈R階〉

階段をあがると展望台があり、龍崖山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

〈2階〉



面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	「飯能と西川材」コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
2 階	959.774	R階	40.040
歴史展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
「身近な自然」コーナー等	139.750		
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積(㎡)	割合(%)
教育普及	展示(歴史展示室・特別展示室・展示ホール等)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.720	25.2

敷地面積 3,626.12㎡ 建築面積 1,165.999㎡

施設等修繕

- ・ 図書室用椅子の座面・背もたれ交換(4月)
- ・ 展示ホールスライディングウォールクロス貼替え(9～10月)
- ・ 公用車外面ロゴマーク貼替え(4月～5月)
- ・ 学習研修室ブラインド修繕(10～11月)
- ・ 学習研修室移動テーブル修理(6月・3月)
- ・ 駐車場整備(転落柵設置・区画引き直し)工事(2～3月)
- ・ 公用車スタータモーター修理(6月)
- ・ カラーレーザープリンター修理(3月)
- ・ 高圧ケーブル更新工事(6～8月)

常設展示

◇歴史展示室

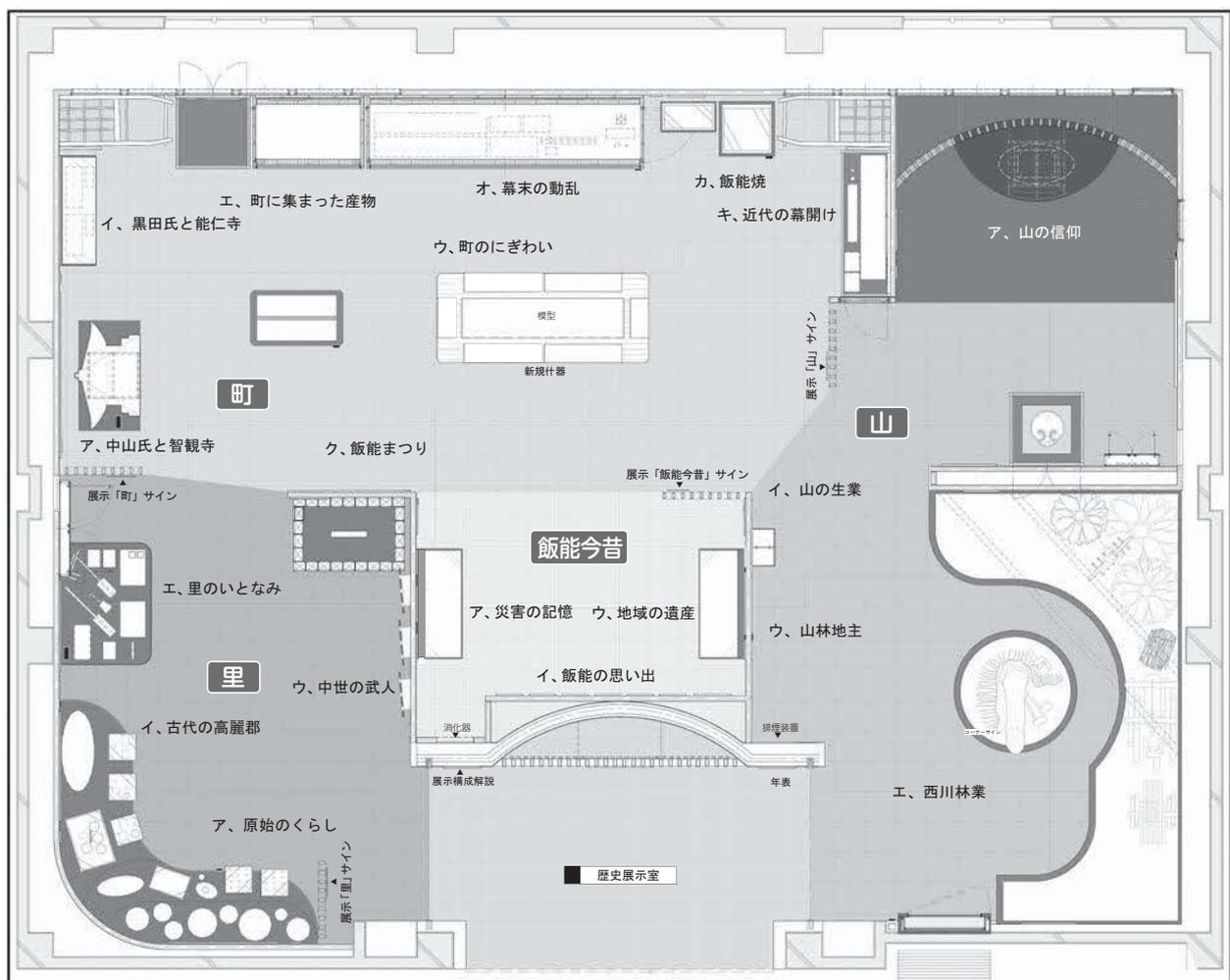
平成30年4月1日、当館は常設展示を改装しリニューアルオープンした。従来の常設展示室は、「里」「町」「山」「飯能今昔」の4つのゾーンからなる歴史展示室となった。この展示室は、最新の情報・知見を常に反映させることができるよう展示替えが容易な構造とし、「更新される展示」を目指している（『常設展示改装に関する計画』平成28年8月）。

歴史展示室では、訪れた来館者をまちなか、山間地へと誘うため「おでかけガイドマップ」と称する歴史文化資源を紹介する地図を提供している。リニューアルオープン時には町ゾーンに「飯能戦争を訪ねるコース」(No.1)を、飯能今昔ゾーンに「旧中山村の魅力を訪ねるコース」(No.2)を備え付けていた。その後、山ゾーンに「飯能市内獅子舞マップ」(No.3)、町ゾーンには「歴史的建造物を訪ねるコース」(No.4)、「町のまつり 山車マップ」(No.5)をそれぞれ9月、11月、2月に作成、配布を開始した。

そのほか展示内容や資料の解説シートである案内カードを3月に5種類作成した。

また地域の情報センターとしての機能をより充実すべく、来館者が自ら情報を選び取ることができるようにするため、館内案内システム「ポケット学芸員」(早稲田システム開発株式会社)を導入した。このアプリには施設ごとにコンテンツの一覧がアップされており、展示室の中に示された番号(サイン)を選ぶと解説を見ることができるようになっている。リニューアルオープン時には12件であったコンテンツはその後15件をアップロードし、当該年度末には27件となった。

さらに常設展示による資料の劣化を防ぐため、里ゾーンの「うちおり」と町ゾーンの引札についてはほぼ2ヶ月に1回の割合で展示資料を取り替えている。当該年度は、うちおりを5回、引札は4回実施した。



歴史展示室平面図

◇ 「身近な自然」 コーナー

リニューアルオープン前にシンボル展示「筏」があったスペースは、飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能を担う「身近な自然」コーナーに生まれ変わった。当館を訪れた人々に天覧山や多峯主山といった身近に広がる自然豊かな里山、そして飯能河原の魅力を体感してもらうためには、季節の移ろいととも姿を変えていく自然の様子を常に伝えていく必要がある。

その中心を担うのがこのコーナー正面にある「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」である。ここには、花や実、紅葉など見頃を迎えた野草や樹木などを、そのスポットを示し写真を掲示することで紹介している。この更新のために数週間に1度現地調査を行い、当該年度は1ヶ月に1回以上のペースで、合わせて15回行った。またこども図書館と連携し、子どもたち向けの自然散策マップ「行って！見て！読んで！調べてみよう！」を2種類(天覧山は7月・飯能河原は3月)作成、配布した。ここには探検MAPとともに自然に関する図書も合わせて紹介することによって、子どもたちが興味・関心をもったものを自ら調べられるように工夫した。その他、季節に合わせ3月に「きつとすミニミニ図鑑 スミレ」を配布した。(10P参照)

さらに観察・体験コーナーでは、子どもたちが自然に興味をもてるよう、観察したり触れたりできるものを用意している。当該年度新たに追加、更新した資料は10Pの表のとおりである。これらは季節感が合わなくなればコーナーから撤去することとしている。また自然に関する図書も備え、その場で見て、調べられるようになっている。



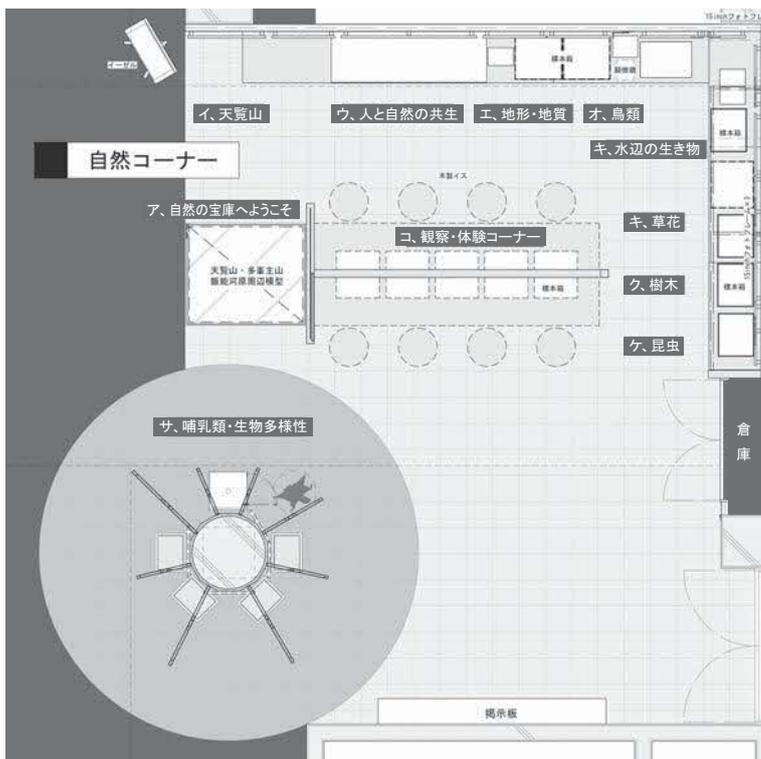
子どもたちに人気の「トチノキ」くん



「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」の更新作業



観察・体験コーナーで楽しむ子どもたち



「身近な自然」コーナー平面図



自然散策マップ
「行って！見て！読んで！」
調べてみよう！天覧山」
A3版

No.	時期	追加資料・パネル	設置場所
1	2018.7.7	セミの羽化（写真パネル）／セミの抜け殻（標本箱）	「昆虫」パネル前
2	2018.10.5	どんぐりと松ぼっくり（標本箱）	「樹木」パネル前
3	2018.10.5	松ぼっくり どのように入れたのでしょうか？（資料）	観察・体験コーナー
4	2018.10.5	ドングリ何個入っているかな？（資料）	観察・体験コーナー
5	2018.10.5	どんぐりくらべシート（資料）	観察・体験コーナー
6	2018.10.5	どんぐりの赤ちゃんど〜こだ？（資料）	観察・体験コーナー
7	2018.10.20	トチノキくんをつくってみよう！（クラフト体験）	観察・体験コーナー
8	2018.11.1	さわって実！こぼれおち種！（タッチコーナー）	観察・体験コーナー
9	2018.11.1	天覧山・多峯主山の動植物たちの写真（フォトアルバム）6・7・8月	観察・体験コーナー
10	2018.11.6	天覧山・多峯主山の動植物たちの写真（フォトアルバム）3・4・5月	観察・体験コーナー
11	2018.11.15	天覧山・多峯主山・飯能河原周辺模型凡例・解説追加	自然の宝庫へようこそ
12	2018.12.6	葉っぱカード6点	観察・体験コーナー
13	2018.12.14	森のリース2点（～12/25）	観察・体験コーナー
14	2019.1.23	葉っぱカード36点	観察・体験コーナー
15	2019.3.1	「自然の宝庫へようこそー天覧山・多峯主山ガイドマップー」凡例追加	自然の宝庫へようこそ

「身近な自然コーナー」
展示資料等追加・更新一覧

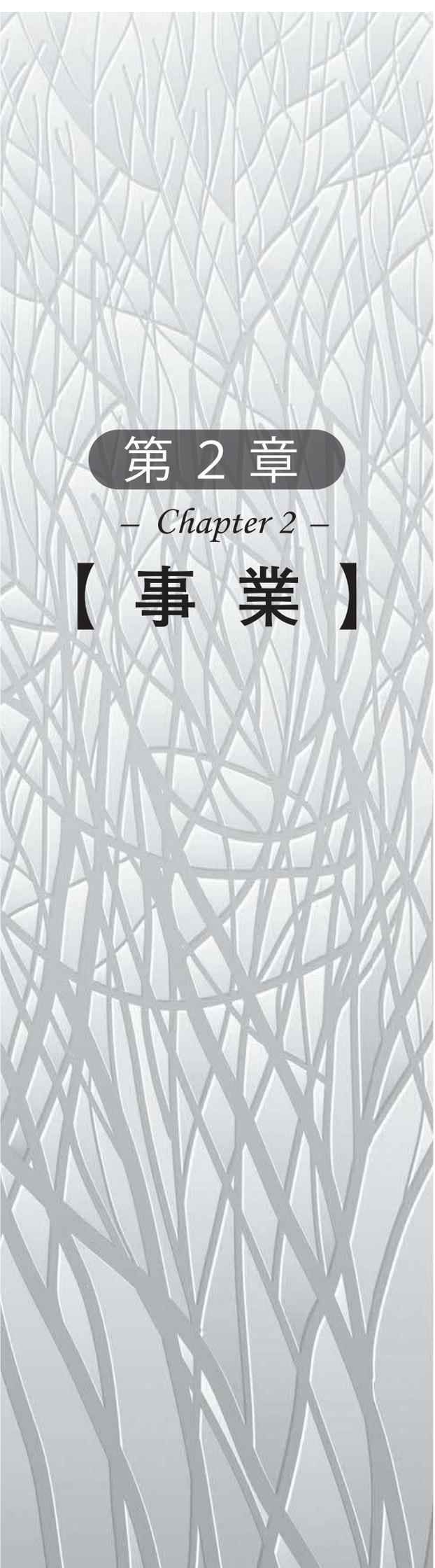
名栗くらしの展示室

名栗くらしの展示室は名栗地区行政センターの2階にあり、名栗村時代より収集されてきた民具の活用と、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果を展示することを目的としている。

平成30年度は、9月30日に名栗地区で行われた「なぐり見聞食ぶらさんぽ」当日に、職員が常駐して事業参加者への案内を依頼されたが、台風24号接近のため当該事業は中止となった。



名栗くらしの展示室「西川林業」コーナー



第 2 章

– Chapter 2 –

【 事 業 】

飯能市立博物館ミッション(使命)

博物館には3つの価値があります。1つは知的な体験をするという一般的な人々にとっての「個人的な価値」、2つめが資料を集積し調査研究の成果を発信していることによる専門家にとっての「学術的価値」、3つめは、博物館の活動がその時の社会、経済、教育、文化などに影響を与えることによって生じる「社会的価値」です。飯能市立博物館は、これら3つの価値を意識しながら、以下に掲げるミッションを達成することで、市民文化の向上と社会の発展に寄与していきます。

■ 飯能の新たな魅力に出会える博物館をめざします。

古くからの歴史と多彩な自然を有する飯能には、まだ知られていない魅力(宝物)がたくさんあります。当館は資料の収集・保存及び調査・研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、展示や学習活動などを通してそれらをストーリーとして発信し続けることで、人々の知的な好奇心に応えていきます。またその魅力を活かして個性豊かで活力のある地域づくり・人づくりに取り組んでいきます。

■ 「学び」の入口となる博物館をめざします。

当館は、着実な博物館活動を通してさまざまな「学び」への欲求に応え、支援していくとともに、学習者の交流の場となることを目指します。そのために情報の蓄積を進め、図書館などの社会教育施設や地域の団体、企業などと連携・協働していきます。

■ 常に広い視野を持って活動し、資料の価値を高めていく博物館をめざします。

当館が収蔵する資料は市民共有の財産として永く継承され、市民の学習活動に活用されますが、同時に学術研究の資料でもあります。それら資料を用いた研究者による学術研究を支援するとともに、当館学芸員の研究と交流させることで、広い視点から資料の価値を高めるとともに、地域の特色を明らかにし、市民の地域への愛着を育んでいきます。

■ 学校教育と連携し、質の高い学びを提供する博物館をめざします。

当館と学校が連携して、収蔵資料などを活用しながら、子どもたちが自ら体験・観察することができる学習プログラムを作り、質の高い学習活動を支援します。それにより自らの頭で考え、見て、確かめることの大切さを伝え、変化の激しい時代を生き抜くために必要な学びへとつなげていきます。

■ 歴史や文化を現在、そして未来へと活かしていく博物館をめざします。

歴史・文化とは、はるか昔から続く人々の営みの積み重ねであり、そこには先人たちの知恵や教訓がたくさん含まれています。当館は、地域文化発信の核として、地域の歴史・文化情報を積極的に発信するとともに、例えば災害記憶を伝承し安全なまちづくりに寄与するなど、歴史・文化を現代そして未来に活かすことに努めていきます。

■ 飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめざします。

当館が所在する飯能河原・天覧山周辺地域は、豊かな自然に恵まれ、多くの方が来訪します。当館は、この地域における自然のビジターセンターとしての機能も果たし、自然環境についての情報を集め、提供していくことにより、自然と人間との共生に貢献していきます。

(2018年3月23日策定)

平成30年度 飯能市立博物館の重点施策とその評価 (ミッシェン対応)

教育振興基本計画の項目	事業名	目標	目指す達成点・到達点	達成指標と目標値	達成結果とその成果	達成率	評価分野	項目	博物館ミッション(項目)	価値
① 地域の情報センター機能の充実	地域情報の積極的な発信手段の一つとして、吾野地区の歴史をテーマとした特別展を開催し、内容の充実を図り、吾野地区の地域特性、魅力を明らかにする。	特別展の充実 ・ 吾野地区の歴史や文化の魅力を見せ、市外の人々に向けても発信し、展示を見た人たちが、現地を訪れたくなるような内容の特別展とする。 ・ 吾野地区まちづくり推進委員会と連携しながら、エコツアーで活用してもらったり、マップづくりを行うなど、現地に人を誘うようなかけを作。	・ 吾野地区の歴史や文化の魅力を見せ、市外の人々に向けても発信し、展示を見た人たちが、現地を訪れたくなるような内容の特別展とする。 ・ 吾野地区まちづくり推進委員会と連携しながら、エコツアーで活用してもらったり、マップづくりを行うなど、現地に人を誘うようなかけを作。	・ 特別展の1日平均入館者数110人以上であること。 ・ 入館者のアンケートによる満足度75%以上であること。	特別展「吾野 未来へつなぐ地域の記録―」は、49日の期間中、8,560人の入館者があり、1日平均で174.7人と平成2年の開館以来、5番目に多い数字であり目標を大きく上回った。また、入館者のうち吾野地区に対する興味をもった方が9割以上であり、目標に達した。	110%	S 展示	1	飯能の新たな魅力に出会い、博物館をめぐります。	個人
	② 市民、小中学校、大学、他の教育機関等と連携した博物館活動の推進	地域の子どもたちと地域の子どもの歴史や文化の奥深さ、当館周辺の自然の豊かさを伝えるため、図書館、市民会館と連携した事業を実施する。	子ども図書館と連携して、自然分野の「調べ方案内とセット」なる、飯能河原・天覧山周辺の子ども向けの自然散策マップを作成する。作成にあたっては、環境録木録で提供している資料などを参考に、子どもたちが使ってみようと思えるような、楽しいものにする。	子ども図書館と連携して、自然分野の「調べ方案内とセット」なる、飯能河原・天覧山周辺の子ども向けの自然散策マップを作成する。作成にあたっては、環境録木録で提供している資料などを参考に、子どもたちが使ってみようと思えるような、楽しいものにする。	子ども向けの自然散策マップ「行って！見て！読んで！調べてみよう！天覧山」を7月下旬に、同じく飯能河原を3月中旬に発行し、博物館と図書館で配布を開始した。イラスがふんだんに用いられており、子どもたちの興味をひくものとして、好評を博している。	子ども向けの自然散策マップ「行って！見て！読んで！調べてみよう！天覧山」を7月下旬に、同じく飯能河原を3月中旬に発行し、博物館と図書館で配布を開始した。イラスがふんだんに用いられており、子どもたちの興味をひくものとして、好評を博している。	105%	S 教育	2	「学び」の入口となる博物館をめぐります。
③ 天覧山・飯能河原周辺の魅力の発信	地域情報の積極的な発信と地域活性化支援	リニューアルした常設展示を飯能の魅力を発信する拠点として機能させるため、地域の見どころや歴史、文化遺産などを紹介し、展示室に備える。また、館内案内システムのコメンテントを充実させる。	入館者が展示を見て、現地に行きたいと思えるようなマップやリーフレットを昨年夏発行したものと仕様を合わせて新たに作成する。また、館内案内システムのコメンテントを追加して、地域の魅力発信機能を強化する。	・ 地域の魅力や見どころを紹介したマップやリーフレットを新たに5種類以上作成し、展示室に備える。 ・ 館内案内システムのコメンテントを10項目追加する。 ・ 1年間で展示解説を20回以上実施し、飯能の魅力を知らせてもらう。	・ 歴史展示室のおおかけガイドマップは、9月に獅子舞マップ、11月に「まちにぎわい」(歴史的建造物を訪ねるコース)、2月に「町のまつり 山車マップ」の3種類、また案内カード(はがきサイズ)を5種類制作し展示室に備えた。 ・ 館内案内システムは、民俗分野で5項目、歴史分野が10項目、自然分野で9項目の計24項目追加した。 ・ 館内の案内(展示解説)は年間77回実施し、飯能の魅力を発信した。	100%	A 教育	1	飯能の新たな魅力に出会い、博物館をめぐります。	個人
	④ 地域情報の積極的な発信と地域活性化支援	当館がリニューアルした常設展示を飯能の魅力を発信する拠点として機能させるため、地域の見どころや歴史、文化遺産などを紹介し、展示室に備える。また、館内案内システムのコメンテントを充実させる。	博物館を拠点として、飯能河原・天覧山周辺の自然の魅力を発信し、周知するための観察会を企画運営する。 ・ 関係する専門家の意見を開き、自然の愛好家の協力を得ながらすすめる。	飯能河原・天覧山周辺の自然の観察会を3回以上開催すること。 ・ うち1回は子どもを対象としたものとする。 ・ 達成指標は以下のとおりとする。 ・ 観察定員以上の申込みがあること。 ・ 入館者のアンケートによる満足度が75%以上であること。	自然の観察会は、4月、7月、9月の3回実施し、うち7月の「飯能河原の石の歴史づくり」は子どもを対象に開催した。申し込みはそれぞれ24人(20人募集)、12組(12組募集)、23人(22人募集)といずれも定員以上であり、満足度は90%、100%、89.5%であり、いずれも75%を大きく超えた。	100%	A 教育	6	飯能河原・天覧山周辺地域の自然の情報発信拠点としての機能もあわせもつ博物館をめぐります。	社会

吾 野

—未来へつなぐ地域の記録—

期 間	平成30年10月14日(日)～12月9日(日)					
開館日数	49日間					
入館者数	8,560人 (1日平均174.7人)					
展示点数	107点					
総 経 費	1,668,161円 (入館者1人あたり194.9円)					
(内 訳)	印 刷 費	670,032円	写真関係費	12,547円	展示委託料	293,436円
	通信運搬費	430,484円	消耗品費	48,788円	報 償 費	72,000円
	非常勤報酬	133,500円	旅 費	7,374円		

1 趣 旨

吾野地区は飯能市の北西部、高麗川上流域に位置する。飯能の代表的な名産品「西川材」の産地であり、市域の約2割を占める広大な土地に多彩な歴史や文化を有している。しかし、多くの山間地域同様、同地区においても少子高齢化や人の流出などによって人口は年々減り続けており、人びとが培ってきたそれらの歴史や文化は現在、喪失の危機に瀕していると言わざるを得ない。

このような状況の中、平成27(2015)年に自治会連合会吾野支部から飯能市長に宛てて、旧吾野村の歴史や文化等をまとめた特別展の開催と、冊子の刊行について要望書が提出された。この要望書にこたえる形として開催したのが本展である。

以上の経緯から展示では、綿々と積み重ねられてきた吾野の歴史をたどり地域の記録として未来へ伝えるとともに、地域の人びとによって大切に受け継がれ今に息づく文化などを紹介することを目指した。

2 展示の構成と内容

展示を作るにあたっては、以下の3点を特に意識し、目的とした。

- ①吾野がどのようなところでどういった歴史を有しているのかを市内外の人々に知ってもらう。
- ②吾野の歴史の中でも特に誇るべき事蹟を、地域の偉業として伝える。
- ③地元(吾野)の方が見た時に「懐かしい」と感じられる要素を組み込む。

以上の点をふまえ、本展は原始の時代から現代に至るまでの通史を主軸とした。その中で、特に近世から近代にかけては生業・医療・学校といった生活に深く関わる小テーマを設け、人

びとの生活の歴史を紐解くことを試みた。また、獅子舞や地区内に存在する指定文化財など、現在も現地で目にすることができる歴史や文化の紹介も行った。

各コーナーの内容は、以下の通りである。

I 吾野の地理

本章では、通史に繋がる導入として吾野の地形や地質について解説した。

吾野は、隆起が比較的穏やかな山が分布する外秩父山地にその全域が含まれている。また地質的には、主に付加体で構成された秩父帯という地帯区分の上に位置しており、色々な地質が混ざり合った複雑な地質構造を見ることができる。

これらの地形・地質的特徴を『新編武蔵風土記稿』や『武蔵国郡村誌』といった書物に照らし合わせたところ、100年以上前の記録にも関わらずとても理にかなった記述であることが確かめられた。

II 原始・古代～吾野の夜明け～

本章は、人びとがくらし始めた先史時代から古代の吾野についてとりあげ、遺跡からの出土資料を展示した。なお、吾野地区内で存在が確認されている遺跡はいずれも報告書がまだ刊行



展示風景 IV近世・V近代

されていないため、本展では隣接する西川小遺跡(東吾野地区内)の出土資料を展示した。

西川小遺跡では縄文時代早期から後期、そして古代の遺構・遺物が見つまっている。その中で特徴的といえるものは、縄文時代の遺構から出土した黒曜石を多用した石器と、古代の遺構から出土した南比企窯跡群産の須恵器である。これらはいずれも、当該地域にくらすびとが周辺地域と交流していたことを示すものである。

Ⅲ 中世～「吾那」の成立と武蔵武士の活躍～

本章では、文書史料を中心に、文書の記述から見る中世の吾野と、吾野に所縁のある中世武人について紹介した。中世は、吾野を示す語が初めて記録として史料に登場する時代である。法恩寺文書からは「吾那(吾野の古称)」の成立と吾那氏の事蹟を、そして秩父神社文書からは中世における林業の一端を知る事ができる。また、吾野では現在も法光寺をはじめ地区内の各所で武蔵武士岡部氏の事蹟を見ることができる。

Ⅳ 近世～村のくらし～

本章は主に江戸時代の吾野について、分村過程、生業、そして医療という小テーマを設けて展示した。吾野は江戸時代の初めに上吾野村から7つの村へと分村する。その際、なぜか南村・坂石村・坂石町分・坂元村は村境や飛び地が複雑に入り組み合う形となった。この様子は近世の文献でも「犬牙」と表現されている。

吾野における生業は、多くの山方の村と同じく林業や養蚕業などが主ではあるが、本展では漁猟や筏流しといった高麗川の利用を、主に文書から紹介した。また医療のコーナーでは、吾野で日本初の帝王切開手術が行われたことを顕彰するとともに、近世から近代初めにかけての在村医療を医療器具や典籍などをもとに紹介した。



関連講座(現地見学会)「吾野宿の街並みを歩く」(11/18)

Ⅴ 近代～統合と発展～

本章では村々の統合と生活基盤の発展、そして学校を小テーマとして展示を構成した。

明治時代になると、吾野は再び1つにまとまり、吾野村となる。その後、長きにわたる郡域変更運動を経て、吾野村は秩父郡から入間郡へと編入された。

近代における吾野の発展を象徴するのが吾野水力電気株式会社の設立と武蔵野鉄道の吾野延伸である。昭和の初めに電気供給事業が武蔵野鉄道へ譲渡されると発電所に代わって変電所が吾野に設けられ、電気事業と鉄道事業が一体となって吾野の発展を支えた。

明治時代、吾野にはほぼ旧村ごとに6つの学校が設立された。これらの学校は時代の流れと共に名称変更や統廃合を繰り返しながら、現在の吾野小学校、西川小学校、吾野中学校に至っている。そして来年度、この3校に東吾野小学校を加えた4校が統合し、「奥武蔵創造学園 奥武蔵小学校 奥武蔵中学校」として新たな教育の形へと踏み出す。

Ⅵ 文化～受け継がれてきた「宝物」～

通史展示はⅤ章までで一区切りとし、本章では文化財に焦点をあてた。吾野の指定文化財を紹介するとともに、北川の獅子舞で使用されている獅子頭と太鼓、撥および江戸時代から引き継がれている帳面を展示することで、地域の文化が過去から現在、そして未来へと受け継がれるものであることを示した。

Ⅶ 吾野逍遥～未来へ活かす吾野の歴史～

本章では、現在の吾野の様子を伝えるために吾野の風景を切り取った写真を展示し、「吾野宿」についても紹介した。

3 印刷物

ポスター (B2判カラー)	400枚
ちらし (A4判カラー)	8,000枚
展示図録 (A4判カラー56ページ)	800部

4 関連事業

◎関連講座

- ①「吾野の建築遺産を学び、その魅力を楽しむ」
- | | |
|-----|------------------------|
| 日 時 | 11月10日(土)午後1時30分～3時30分 |
| 講 師 | 羽生修二氏(東海大学名誉教授) |
| 会 場 | 学習研修室 |

参加者 19名

②「吾野宿の町並みを歩く」※現地見学会

日 時 11月18日(日)午後1時30分～4時

講 師 羽生修二氏(東海大学名誉教授)

会 場 吾野宿(飯能市坂石町分)

参加者 22名

③「生業に見る吾野の歴史～武州山方地域の中で考える～」

日 時 11月25日(日)午後1時30分～3時30分

講 師 加藤衛拓氏(筑波大学教授)

会 場 学習研修室

参加者 17名

◎担当学芸員によるギャラリートーク

日 時 ①10月27日(土)

②10月28日(日)各日とも午後2時～3時

解 説 金澤花陽乃(当館学芸員)

参加者 ①13名 ②15名

◎タイアップエコツアー「特別展「吾野ー未来へつなぐ地域の記録ー」吾野散策」

日 時 12月1日(土)午前9時～午後4時30分

主 催 休暇村奥武蔵

参加者 12名



担当学芸員によるギャラリートーク(10/27)

5 評 価

本展の来場者数は、1日あたり約174人であった。これは、開館以来40回にわたって開催してきた特別展の中で5番目に多い人数である。もちろん、リニューアルオープンした年の特別展という事情は差し引かねばならないだろうが、その点を考慮しても、これだけ多くの方に来ていただけたことは評価できるであろう。アンケートの集計によれば、来館者のうち飯能市民は約半数であった。展示の内容が地域に特化したものであったためもう少し市民の割合は高くなると想定していた

が、結果として例年と変わらない数値となった。このうち地元吾野の方がどれくらい来館していたのかを把握できるような設問をアンケートに入れなかったのは反省すべき点であるが、展示を見た方から「懐かしい物がたくさんあり、写真に自分が写っていて昔を思い出した」といった感想をいただいたり、展示室で「ブツタイ(魚取り)がある！こういうの使っていたんだよ」「私たちの時はまだ学校の机と椅子は確かにこんなだった」と話しながら見ている様子を見かけたりもしたため、目的の1つであった「地元の方に懐かしんでもらう」という点については達成できたのではないだろうか。また、その他の2つの目的についても、「来館者の声」(20p)で見られるように概ね達成できたと考えて良いだろう。

しかし展示内容そのものに目を向けると、手放しに成功したとは言えないのも事実である。その大きな要因は、資料調査の時期が遅れたことと、文書史料に固執するあまり他の資料へのアプローチが不足してしまったことである(資料調査については56p参照)。

地域の歴史や文化を明らかにしようとするとき、すべてが記録されている文書がその地域に残っているとは限らない。むしろそのような史料が残っていることの方が稀である。その場合は別の資料から明らかにしていかなければならないが、本展ではその切り替えがうまくいかず、文書が残存していなかったり調査が及ばなかったりした部分(たとえば主要な産業であるはずの養蚕や林業など)が展示から漏れてしまった。この点については来館者アンケートでも指摘された。

これは、「文書に載っていない歴史は失われる」という事態に繋がりがかねない問題である。歴史・文化の喪失は人々がそこに暮らした証の消失であり、特に人口流出の激しい地域においてはときに地区そのものの消滅をも意味する。

最初に記したように、数値的な結果などを見れば本展はおおむね成功といえる。しかし展示担当者としては、学芸員による資料の偏った選択などにより、あるはずの歴史が無いものになってしまう、つまり地域の歴史を現在・未来へ継いでいくはずの地域博物館が自らの手でそれを失ってしまう危険性や責任を自覚し、あらゆる資料に真摯に向き合わねばならないことを改めて考えさせられる展示となった。

◆展示資料目録

名称	点数	所蔵者	形態	備考
第二章 原始・古代～吾野の夜明け～				
土器片(前期諸磯式)	3	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
石鏃	2	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
打製石斧	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
深鉢(連弧文)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
浅鉢(連弧文)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
須恵器坏(南比企窯)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
須恵器坏(東金子窯)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
須恵器皿(東金子窯)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
須恵器壺(東金子窯)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
須恵器壺(南比企窯)	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
土師器甕	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
紡錘車	1	飯能市教育委員会	原資料	西川小遺跡
第三章 中世～「吾那」の成立と武士の活躍～				
法恩寺年譜	2	法恩寺	原資料	越生町指定文化財、箱共
秩父神社文書	1	秩父神社	原資料	埼玉県指定文化財
第四章 近世～村の暮らし～				
上吾野御なわの上そう向高辻之事	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.177
相定申後商売仲間証文之事	1	采澤伸之氏	原資料	采澤菊平家文書
坂元村村差出明細帳	1	采澤伸之氏	原資料	采澤菊平家文書
北川村村差出明細帳	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.62
御年貢可納割付之事	1	采澤伸之氏	原資料	采澤菊平家文書
御本丸瓜□木□□	1	当館	原資料	岡部家文書 No.17
覚(本丸瓜木割合)	1	当館	原資料	岡部家文書 No.78
高麗川材木商組合鑑札	1	当館	原資料	
箱めがね	1	当館	原資料	
漁業鑑札	1	当館	原資料	
びく	1	当館	原資料	
ヤス	1	当館	原資料	
投網	1	当館	原資料	
魚とり	1	当館	原資料	
上我野村々網札仲間定書	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.56
漁獵仲間議定書一札之事	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.205
写 梶出入濟口為取替書	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.47
梶出入諸願書并相手方詫書等写	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.55
及門姓名簿	1	埼玉県立文書館	写真	No.6424
及門姓名録	1	埼玉県立文書館	写真	No.6425
乍恐以容体奉申上候	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
和蘭全軀内外分合図	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
薬方分量帳	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
医学雙木秘宝書写	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
岡部均平肖像画	1	岡部常高氏	原資料	
岡部静海肖像画	1	岡部常高氏	原資料	
『産科発蒙』	1	岡部常高氏・吉田豊氏	原資料	
『女科集成』	1	岡部常高氏	原資料	
医療道具などを描いた軸物	1	岡部常高氏	原資料	
薬籠入	1	岡部常高氏	原資料	
ランビキ	1	岡部常高氏	原資料	
薬研	1	当館	原資料	伝岡部均平使用
帝王切開術発祥の地記念碑除幕記念切手	1	当館	原資料	
水銃	2	岡部常高氏	原資料	
天秤	1	栗原知司氏	原資料	
薬匙	1	栗原知司氏	原資料	
口演	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.480
書状(種痘について)	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
(未痘人発痘人取り調べ通達)	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
証(種痘証書)	1	吉田豊氏	原資料	吉田豊家文書
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.481
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.482

展
示

名称	点数	所蔵者	形態	備考
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.483
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.484
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.485
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.486
証(種痘証書)	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.487
証(種痘証書)	1	采澤伸之氏	原資料	采澤菊平家文書
第V章 近代～吾野村の誕生と発展～				
吾野村全図	1	当館	原資料	
吾野変電所新築記念 鐘	1	佐野敏夫氏	写真	
卒業証書	1	当館	原資料	岡部家文書
(吾野尋常高等小学校建築費の寄付に対する 木杯の下賜状)	1	当館	原資料	吉田信夫家文書 No.1
学校手帖	1	当館	原資料	柳戸家文書 No.524
入学願	1	当館	原資料	岡部家文書 No.826
給食用食器	1	当館	原資料	
給食用食器	2	当館	原資料	
給食用食器	2	当館	原資料	
同窓会報 第三号	1	当館	原資料	岡部家文書 No.784
同窓会報 第四号	1	采澤伸之氏	原資料	采澤菊平家文書
同窓会報 第六号	1	当館	原資料	岡部家文書 No.782
北川尋常小学校校旗	1	当館	原資料	
生徒用学習机	1	当館	原資料	
生徒用学習椅子	1	当館	原資料	
壁掛け用温度計	1	当館	原資料	
小学地理二	1	当館	原資料	岡部家文書 No.419
高等小学読本卷三	1	当館	原資料	岡部家文書 No.408
小学読本一	1	浅海久氏	原資料	浅海公介家文書 No.529
吾野尋常高等小学校	1	吉田とよ子氏	写真	
吾野第三国民学校	1	行平福太郎氏	写真	
吾野第二国民学校	1	行平福太郎氏	写真	
第二国民学校職員会議	1	行平福太郎氏	写真	
坂石小学校朝礼	1	行平福太郎氏	写真	
高山小学校	1	当館	写真	
南小学校	1	中村桂子氏	写真	
吾野中学校	1	個人	写真	
東吾野中学校	1	行平福太郎氏	写真	
第VI章 文化～受け継がれてきた宝物～				
獅子頭(男獅子)	1	北川獅子舞保存会	原資料	
獅子頭(女獅子)	1	北川獅子舞保存会	原資料	
獅子頭(太夫)	1	北川獅子舞保存会	原資料	
太鼓	1	北川獅子舞保存会	原資料	撥2本共
享保20年笹等入用割合覚	1	北川獅子舞保存会	原資料	
平成30年祭礼役者附	1	北川獅子舞保存会	原資料	
平成30年鎮守祭礼花請帳	1	北川獅子舞保存会	原資料	
乍恐以書付御届ケ申上候	1	常楽院	原資料	常楽院文書
一山五流仕方帳	1	常楽院	原資料	常楽院文書

107点

展示風景 入口



| 来 | 館 | 者 | の | 声 |

- ありがとうございました！子ども時代を吾野の南川で過ごしたので今回の特別展は思い入れ強く見させてもらいました。(山歩きのついでに久しぶりに立ち寄ってみたら、「吾野展」を知り、なつかしく見学)資料の収集～整理～展示へのご努力に敬服・感謝です。(所沢に住む姉たちにも見に来るように伝えます) (70代・男)
- 帝王切開の手術が初めて行われたとのこと。ただただびっくりしています。死んだ赤ちゃんを産むことの苦しみを感しました。(70代・女)
- 飯能に住み40年。飯能市内とは思えぬ歴史や文化のたくさんあることが一部分ですがわかり、昔をもっと深くしらべてみたいと思います。(70代・女)
- とても興味深く拝見させていただきました。吾野地区をよく知り得ることができ、感謝します。友人の子どもたちの写真が良かったです。今後の吾野地区を支える子どもたちの笑顔に力をいただきました。地味ながらも、私はこのポスターがとても気に入り、見に行こうという気持ちにさせていただきました。今後ぜひ伺いたいです。(60代・女)
- 吾野(南川)で育ち、28年。その後結婚して板橋、練馬へ。吾野のよさ、飯能、奥武蔵の良さを練馬の方へ伝えています。ハイキングで行ったよ、お祭り行ったよ、東郷公園紅葉きれいだね…。相手の方も笑顔でこたえてくれます。実家はおかいこを2階でしていました。今日は主人と実家の母と3人吾野の歴史、自然を再発見。丸広百貨店だいすきです！タイトル「吾野～未来へつなぐ地域の記録～」いいですね！先祖に感謝し、これからも大事にしたいと思いました。(50代・女)
- 知人が吾野に住んでいるので興味があって来てみました。特に医療のコーナーなどは勉強になりました。小中学校の統合ということで若い世代が減少しているとのこと。自然を大切にしつつ、魅力ある地域として活性化していくといいな、と思いました。(40代・女)
- 地元の良さを再確認というか改めて文化や伝統を大切にしていきたいと思いました。このような企画をありがとうございました。(50代・女)
- 私の親が吾野出身であり、私も長く市内で勤務しておりましたので、吾野は私の故郷との感が強いですが、ここ30年くらいは人(若い方)が地域に残るこ
- とが少なくなっているようで、残念に思っています。そんな折、このような企画に接し改めて吾野の良さを認識しました。吾野地域についてはまだまだ研究が進んでいない分野もあるかと思えます。学芸員の皆様のご苦心が察せられます。これだけの展示をなさっていただいたことにお礼申し上げます。(50代・男)
- 吾野には興味があって時々遊びに行くのだが、神社もご本尊がなかったり、カフェも閉まったままで活気がない。今回の展示を見て吾野の歴史を知り、今のさびれ方をさびしく思った。が、また吾野が好きになったので、また遊びに行こうと思う。(50代・女)
- 林業について、もう少し詳しい展示があると良いと思いました。全体的にとてもわかりやすい説明ありがとうございました。(40代・男)
- 吾野で重要景観建築に指定されている3棟について、もっと詳しく知りたかったです。あと、秩父御嶽神社も…。吾野地区はうち(川越)から秩父に行くときにいつも通りますが、いつも素通りになっているのが淋しいところです。サーベラスの危機も去ったし、折角他の山間部と比べたら交通至便なところなのに頑張ってほしいところです…。道の駅とかあっても良いんですよ。(30代・男)
- もう少し吾野の良い所等を教えて欲しい。(中略)子どもにもきょう味を持てるような、かんたんな説明も欲しい。(小学生・女)
- 吾野の地理や歴史・生活・教育と全般にわたってわかりやすく展示してあり、吾野について全般的に知ることができました。これだけの準備をするのは大変だったことでしょう。教育コーナーの説明文について、国民学校…「小国民」ではなく「少国民」です。GHQ指導のもと教育基本法とありますが、1947(昭22)日本国憲法が制定され、それを基に教育基本法が制定されたのです。(60代・女)
- 旧正丸峠を介して秩父との交流があったと思っていた。その辺の事が不足していたのかな、と思った。(80代・男)
- 吾野は国道で通過する地域でした。飯能の市域で最奥に位置しどのような歴史文化があるのかは常に感じていました。漁獵についての言及はありましたが、狩獵はどうだったのでしょうか？冊子も興味深いです。(40代・男)
- 他の地区の展示も是非お願いします。(70代・女)

その他の展示

リニューアルオープン記念写真展 春を告げるものたち

期 間 平成30年4月1日(日)～5月27日(日)
開館日数 50日間
入館者数 8,900人(1日平均178.0人)
展示点数 40点

1 趣 旨

当館のリニューアルにともなって飯能河原・天覧山周辺の魅力を発信するビジターセンター的機能が付加されることとなり、市民の方々から数多くの自然に関する写真資料を提供していただいた。その中には「身近な自然」コーナーで使うことができなかつた写真も多い。

そこで、リニューアルオープンを記念して、天覧山・多峯主山の春の草花・鳥・蝶など生きものの生命力あふれる写真を展示し、その自然の魅力を知ってもらうことを目的とした。

2 展示の構成

展示写真は、4～5月に撮影されたものから選定した。早春から始まり初夏へ移行する様子を伝えるため、基本的には撮影日の順に特別展示室の壁面に展示することとした。さらに展示ホール側の壁面の一部まで展示を広げ、展示ホールからも展示室内の雰囲気がわかるようにした。

展示は、葉がまだつかず、地面まで日差しが



展示入口

届くわずかな時期に見られる花の写真から始めた。そこから次第に桜などの花が満開になり、やがて生き生きと活動し、花の蜜を吸う鳥の姿が見られるようになる春の盛りへと展開させた。さらに多くの動植物が生息していることを伝えるため、冬眠から目覚めた爬虫類や両生類も交えながら、徐々に緑が濃くなる様子を感じることができるようにした。また、子育てをする鳥や、落ち葉の中で咲く腐生植物の姿など、普段見ることが難しい場面も積極的に展示に組み込んだ。

3 印刷物

ポスター (B2判カラー)	400枚
チラシ (A4版カラー)	10,000枚
展示目録 (A4版白黒2ページ)	300枚

4 評 価

○入館者について

リニューアルオープン記念式典当日から開始したということもあり、多くの方にご来場いただいた。アンケートには169の方に記入していただいたが(記入率は1.9%)、回答者の年齢層は70代の方が26.6%と一番多く、その次が小学生21.3%であり、全体的に年齢層の幅が広いという結果になった。また、市外から来館した方が約半数を占めた。新聞、テレビの広報の影響もあると考える。

○展示内容について

回答者のうち78.7%が「よい」と答え、概ね好評であった。展示点数としては「ふつう」との回答が65.7%を占めた。横一列の展示方法のためとも考えられる。また、「テーマがよかった」、「見ごたえがあった」との回答が半数以上であった。今回の季節感があるテーマと、展示した写真の質が上手くマッチしたとも考えられる。

印象に残った写真としてはキンランが特に多かった。実際に出会う機会が少なく華やかな植物、または普段よく見かけるが写真として見たときに美しさを再認識するようなものへの注目が見られた。

○展示方法について

キャプションについて、複数のものが写り込んでいる場合その名前を併記することや、種の正確な名称、あるいは詳しい解説などを求める声があった。そのほか他の季節の写真展開催を望む声や、展示した以外の生き物の写真も見てみたいという要望も寄せられた。

展示を見て動植物の名前を知ったという感想もあったので、今後はそうした興味により応えていけるような写真展を目指したい。

来場者の声

- どれもすばらしい写真でした。(60代・男)
- 動植物の生息を知ることができて、大変参考になりました。(20代・男)
- 今回の展示は、季節に沿ったもので良かった。今後も続けてほしい。(70代・男)
- 夏・秋・冬の写真も今後見てみたいです。博物館がキレイになって嬉しいです。(20代・男)
- 飯能河原に住む水生昆虫や魚の写真を見てみたいです。(15~19歳・女)
- トカゲやヤモリなどの爬虫類の写真をもっと展示してほしい。(中学生・男)
- もう少し写真をてんじしてほしい。(小学生・女)
- 写真の動物・植物の説明をかいてほしい。(よくみかける時期や食べる物は何か?など)(小学生・女)
- 写真の展示に花の名前と鳥の名前がほしいです。(70代・女)



ニオイタチツボスミレ

○全体評価

写真展を見て「天覧山・多峯主山に行ってみよう」と答えた方が半数以上で、「機会があれば行ってみたい」と答えた方と併せて、8割の方に興味を持っていただいた。多くの方に「身近な自然」コーナーで紹介している天覧山・多峯主山の自然の魅力を知っていただけたというのが大きな収穫であっただろう。



入館状況

◆展示資料目録

No.	種別	種名	撮影年月日	撮影者(敬称略)
1	植物	カタクリ	2013.4.1	河合 裕
2	鳥類	イカル	2016.4.12	河合 裕
3	植物	ニオイタチツボスミレ	2014.4.5	河合 裕
4	鳥類	シジュウカラ	2016.4.1	河合 裕
5	植物	イチリンソウ	2015.4.18	大石 章
6	昆虫	ツマキチョウ・セリバヒエンソウ	2009.4.18	大石 章
7	昆虫	ヤマトシジミ	2014.4.26	河合 裕
8	植物	ササバギンラン	2013.5.3	河合 裕
9	鳥類	ヒヨドリ	2013.4.1	河合 裕
10	植物	ヤマツツジ	2014.4.27	河合 裕
11	植物	フデリンドウ	2013.4.27	関口 実
12	植物	イヌザクラ	2013.4.27	関口 実
13	昆虫	ハナムグリ	2015.5.3	関口 実
14	昆虫	キアゲハ	2013.5.3	関口 実
15	昆虫	キチョウ	2015.5.17	大石 章
16	両生類	シュレーゲルアオガエル	2013.5.3	河合 裕
17	植物	ギンリョウソウ	2016.5.3	河合 裕
18	植物	ジュウニヒトエ	2016.5.4	関口 実
19	爬虫類	アオダイショウ	2016.5.24	河合 裕
20	昆虫	ナミテントウ	2013.5.18	関口 実
21	昆虫	アカシジミ	2015.5.24	大石 章
22	昆虫	テングチョウ幼虫	2015.5.6	大石 章
23	昆虫	モンシロチョウ	2013.5.31	河合 裕
24	昆虫	ウスギヌカギバ	2016.5.3	河合 裕
25	鳥類	キビタキ	2015.5.15	河合 裕
26	昆虫	カラサアゲハ	2012.5.3	大石 章
27	鳥類	コゲラ	2016.5.18	河合 裕
28	昆虫	アオスジアゲハ	2014.5.19	河合 裕
29	昆虫	スミナガシ	2012.5.26	大石 章
30	昆虫	マドガ	2013.5.31	関口 実
31	植物	エゴノキ	2015.5.3	大石 章
32	植物	アズマイチゲ	2014.3.27	大石 章
33	植物	サルトリイバラ	2014.4.12	大石 章
34	植物	キンラン	2015.5.3	関口 実
35	植物	チゴユリ	2013.4.27	関口 実
36	昆虫	スジグロシロチョウ	2016.4.29	関口 実
37	昆虫	オナガアゲハ	2013.5.3	河合 裕
38	植物	ムラサキサギゴケ	2013.5.5	関口 実
39	鳥類	コチドリ	2013.5.24	河合 裕
40	昆虫	ヒメキマダラセセリ	2009.5.23	大石 章

飯能の匠

期 間 平成30年6月10日(日)～6月24日(日)
開館日数 15日間
入館者数 2,026人 (1日平均135.1人)
展示点数 39点

1 趣 旨

飯能市には様々な職人が在住している。この企画では、普段あまり目にすることのない飯能の職人技について紹介した。そして、飯能市民に飯能の職人について知ってもらい、ものづくりの素晴らしさに気づき、飯能市の良さについても再認識してもらいたい。

2 展示の構成

(1) プロローグ

展示趣旨を示した。

(2) ナイフ/WHEEL WORKS 宮尾真氏

1994年頃ハンドメイドナイフメーカーに転身した宮尾氏について、なぜ飯能で活動するのか、ハンドナイフメーカーに転身しようと思った理由などについてパネルを用いて紹介・展示した。

(3) 染物/草木染工房さくらいろのいえ 春田香歩氏

身の回りにある植物を使い、様々な色を出すことのできる草木染め作家の春田氏について、パネルを用いて展示した。

(4) 畳/木下畳店 木下忠雄氏

地元で開業して37年の畳店店主木下氏について、仕事内容や開業してからの苦労などを展示した。

(5) ガラス/ガラス工房すみれ 竹野潤吉氏

一つ一つ心を込め、細やかな飾りにいたるま

ですべて手作りで制作している竹野氏について、また「心の伝わる」アイテムとはどのようなものなのかを展示した。

(6) ギター/ギター工房 赤城昌孝氏

学生時代からギターに興味をもち、母校がある飯能に戻り工房を開き活動している赤城氏。職人として飯能にどのような利点があり、それがまた飯能に影響するのか展示を行った。

(7) 鍛鉄/Leaf工房 加成幸男氏

江州屋で作られる商品を全てオーダーメイドで作り、一つとして同じものがない鉄の造形美がある加成氏の作品。

日本でも稀な鍛鉄アーティストである氏の作品ができるまでを、映像で説明・インタビューし、鍛鉄作品を展示した。

(8) 機織り/クマクラ織機 黒澤博昭氏

独学で学び全国各地から依頼を受けている黒澤氏。飯能で活動する理由や機織り機が完成するまでの様子を、パネルや実物資料を用いて展示した。

(9) ストーブ 浅見照雄氏

『「仕事」も「遊び」も、何をするときでも「遊び心」を忘れないようにしたい。』を信条とする浅見氏に、仕事とは何をし、遊びとどのように繋げていくのか、職人の目線について展示を行った。

(10) おわりに

今までの展示をダイジェストとしてまとめ、飯能には素晴らしい技術をもった職人がいることを知り、飯能が魅力的な場所であることに誇りをもってもらうことを目指した。

3 印刷物

ポスター・チラシ

12枚



展示風景



学生と来館者とのコミュニケーションの様子

4 関連行事「藍の葉の叩き染め体験」

日時 ①6月17日(日) ②6月24日(日)

いずれも午後2時から

参加者 ①12名 ②17名



関連行事「藍の葉の叩き染め体験」

5 反省と展望

・前回の「伝統染物～飯能大島紬・村山大島紬」より来場者が減った。

→前回の報告書によれば、一番宣伝効果があったものに新聞社をあげていたので、もっと早い段階で新聞社に宣伝を依頼した方がよい。また、SNSを通して宣伝しても良い。

- ・飯能にいる職人を紹介しきれなかった。
 - 来場者から他にも飯能に職人はいると紹介される事があり、来場者が満足できる展示が十分に出来なかった。今回はインターネット上のみで職人を探したので、十分な取材ができなかった。
- ・購入したいという要望が多かった。
 - 今回は職人の情報(住所など)の資料を事前に準備していなかった。
- ・アンケート記入用に老眼鏡を準備しておけば良かった。
 - アンケートの用紙の文字を大きくするなどの改善等を考える必要がある。
- ・展示品や映像をもっと増やして欲しいという声があった。
 - 展示室にはスペースがなかったので、展示の方法を工夫することで少しは改善できる。また今回は一つの作品の映像しか用意できなかった。
- ・教育事業の「藍の葉叩き染め」は好印象であった。
 - 参加者には全員満足していただいた。当日来館してから体験できるイベントがあっても良いと思う。

飯能の匠

展示期間
6月10日(日)～6月24日(日)
9:00～17:00
月曜日休館

教育事業
藍の葉の叩き染め体験(事前予約)
日時: 6月17日・24日 両日とも14:00から
予約方法: 電子メール: zemi.nomu252@gmail.com
往復ハガキ: 〒357-8555 飯能市阿須698
駿河台大学メディア情報学部野村研究室宛

場所
飯能市立博物館 〒357-0063 埼玉県飯能市飯能258-1
電話: 042-972-1414

「飯能の匠」ポスター

【野村ゼミナール】

石井純一郎・井上友貴・浦崎孔史・唐澤文菜・古澤光



FM茶笛に電話で出演する学生

〔その他の展示〕

○新収蔵品展

期 間 4月24日(火)～6月3日(日)
開館日数 36日間
入館者数 5,779人(1日平均160.5人)
展示点数 43点

○埋蔵文化財出土品展

期 間 7月15日(日)～8月26日(日)
開館日数 37日間
入館者数 4,131人(1日平均111.6人)
展示点数 156点

○小学3年生見学対応展示

「むかしの暮らし～民家の台所再現～」
期 間 1月8日(火)～2月11日(月)
開館日数 31日間
入館者数 3,838人(1日平均123.8人)
展示点数 53点

◇関連事業

「火のし・炭火アイロン／石臼体験」
(日 時) 2月10日(日)
午前10時～正午・午後1時～3時
(参加者) アイロン 63人／石臼 47人

○ミニ展示「ひなまつり」

期 間 2月23日(土)～3月10日(日)
開館日数 15日間
入館者数 2,637人(1日平均175.8人)
展示点数 4点

◇関連事業

「折り紙でおるおひな様」
(日 時) 3月3日(日)
午前10時～正午・午後1時～3時
(参加者) 25人

○飯能焼の陶工・岸道生の世界

期 間 2月23日(土)～4月7日(日)
開館日数 38日間
入館者数 5,895人(1日平均155.1人)
展示点数 174点



「飯能焼の陶工・岸道生の世界」展入館状況

◎今月の一品

エントランス入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示しているもので、収蔵資料の活用場というだけでなく、最近の資料整理や調査研究活動など日ごろの地道な資料研究の成果を発表する場にもなっている。併せて地元の文化新聞にも掲載していただいている。

◆資料展示一覧

月	タイトル	資料番号等	担当者
4月	郷土館開館記念の品々	飯能市郷土館開館記念式典次第・開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」リーフレットなど	金澤
5月	テ(手)	民具No.1060・1061	引間
6月	武蔵野電車御案内	平成29年度購入資料No.1	尾崎
7月	うちわ	民具No.3654・3655	引間
8月	夏の装い カンカン帽	民具No.4015	引間
9月	初期の社会科教科書	柳戸勲家No.328・666・667・669～671	引間
10月	犬牙する坂元村	采澤菊平家 B-ア-a-1-2	尾崎
11月	岩殿観音(岩殿山観音院)境内図	采澤菊平家 B-ア-a-27-1	尾崎
12月	羽子板	民具No.4176～4178	引間
1月	初春! 処女ハイキング!!	柏木正之家No.180	金澤
2月	裁縫雛形	民具No.3028	引間
3月	御大典記念 奉額俳句集	清水茂家No.58	金澤

夏休み子ども歴史教室

はじめまして、日本刀!

日 時 平成30年8月2日(木)
①午前9時30分～11時30分
②午後1時30分～3時30分
対 象 小学4年生～中学生
参加者数 ①12人 ②11人
会 場 学習研修室
講 師 松田佳代氏(フリーキュレーター)
指 導 者 博物館実習生(4人)

1 趣旨

近年、ゲームやアニメの影響により青少年や女性の間で刀剣がブームとなっている。例えば、名刀をイケメンに擬人化したゲーム『刀剣乱舞』は、アニメや漫画、ミュージカルなど幅広く展開され一大ブームの様相を呈している。その影響はバーチャルな世界にとどまることなく、3次元のリアルな刀剣に魅入られる人々も続出している。かつて博物館における刀剣の展示といえば中高年男性の独壇場といった感があったが、近年では「刀剣女子」と呼ばれる若い女性がお目当ての刀剣をじっくりと鑑賞している姿が当たり前となり、以前よりも展示室内が華やかであるような印象すら覚えるほどである。

『刀剣乱舞』以外にもアニメや漫画、ゲームなどを通じて、刀剣を目にしない日は無いと言っても良いほどであり、青少年層の刀剣に関する興味・関心は高いものがあると考えていた。ただ、青少年層がリアルな刀剣と直に接する機会は、まず無いと言えよう。家で刀剣を所有していることは稀であろうし、博物館で見学したとしてもガラスケース越しの鑑賞となってしまう、その重さや質感を実感することは難しい。

アニメや漫画では、登場人物が軽々と刀剣を振り回しており、その描写からも鉄の塊である刀剣の重量感や質感を感じとることは難しいであろう。実物を手に取ってみれば、あのような動きは困難であること、また斬られれば痛みを伴うことは容易に想像することができるはずである。

そこで子どもたちに本物の刀剣と直に接する機会を供することで、アニメなどのバーチャルな世界から一歩進んでリアルな歴史や文化への興味関

心を高めることを目的として本事業を企画した。

2 内容

本事業は、刀剣を子どもに触らせるという、冷静に考えればかなり危ない企画であり、実施に際しては例年以上の準備が必要と考えた。そこで、刀剣に造詣が深く各地の刀剣鑑賞教室で指導歴もある日本刀文化振興協会会員でフリーキュレーターの松田佳代氏に講師を依頼し、企画段階から指導を頂きながらプログラムを構成した。松田氏の「ただ触れたり歴史を学んだりするだけでは無く、刀剣に接する際の礼儀やマナーひいては刀剣への敬意を身に付けさせたい。そうすることで事故も防ぐことができる」との意見に沿い、知識を得ることよりも刀剣に接する際の態度を養うことに重点を置いて企画することとした。また、子どもたちが観察する刀剣についても、容易に扱えるよう小ぶりなものを選ぶこととし、その選択については松田氏にお願いした。

その他の細かい点についても松田氏と相談しながら組み立てていった。例えば、参加者を少なくした方が子ども一人ひとりに目が行き届き、しっかりと指導をすることができることから、1回の受講者数の上限を12人に絞ることにした上で、長時間では集中力が途切れてしまうことから1回当たりの時間を2時間に抑えることとした。ただ、それでは限られた人数のみしか参加できないことになってしまうため、普及という観点からは問題ではないかと感じ、午前・午後の2回実施することとした。また、内容からして低学年よりも高学年のほうが興味があるものと考え、対象範囲を中学生まで広げて参加者を募集することとした。

この様にして作成した当日のプログラムは、以下のとおりである。



ワークシート

① 開会及びガイダンス

館長あいさつの後、注意事項、指導者及びスタッフ紹介を行った。そして、刀剣を扱うことは危険を伴うので指導に従い文字通り「真剣」に取り組むよう念を押した。

② 講義

事業の導入として、松田氏に刀剣の歴史や産地についての講義をしていただいた。かなり本格的な内容であったが、クイズを入れるなど子どもにも理解できるような工夫がなされていた。また、松田氏は玉鋼や刀装具などの実物を用意されており、これらを交えた講義となったことで、子どもたちにとって具体的で興味の湧く内容となっていた。

③ 休憩

この間に鑑賞用の机を配置するなど会場内のレイアウトを整えつつ、実際に子どもたちが触れる刀剣を準備した。最初から置いておくと子どもたちの集中力が削がれると考えたためである。

④ 鑑賞に際しての説明

松田氏から刀剣の取り扱い方や鑑賞のマナーについて説明を受けた。刀は人をあやめる武器であり取り扱いを誤れば危険を伴うものであるが、むやみに恐れるばかりではなく、先人たちから受け継いだ貴重な宝物として敬意を持って接するようにとの話があった。特に、礼儀として鑑賞前後には刀剣に一礼をすることを念入りに指導した。

⑤ 鑑賞

松田氏の指示に従って実際に刀剣を手にとって鑑賞した。その後、各自でその刀剣を観察させ、「学習ノート」にスケッチや特徴の記入といった観察記録の作成をした。最後に、「おかわりタイム」と称して、まだ手に取っていない刀剣の中で興味のあるものを選び、じっくりと鑑賞した。

⑥ 質疑応答



ワークシートを使って学習する参加者



講師の松田佳代氏による実物を使っての解説

事業の締めくくりとして質疑応答の時間を設けた。「本当に日本刀は強いのか？」や「なぜ刀剣を集めるのか？」など、かなり鋭い質問が出されていた。

⑦ 閉会

担当者からまとめのあいさつをした後、松田氏に参加者全員でお礼を言って解散とした。

3 反省・評価

先述のとおり、本事業は、子どもたちにとってアニメやゲームでなじみの深い刀剣について実際に触れるという体験を通して、歴史への興味・関心を高めることを目的として開催した。

刀剣への興味はあるとしても難しい内容であるので集客は危惧されたが、広報への掲載に加えチラシの全校配布などにより周知した甲斐もあってか、ほぼ定員と同じ人数の応募があった。定員を超える申し込みには至らなかったが、固いテーマにもかかわらず、これほど多くの申し込みがあったことは喜ばしい限りである。また、申し込み時に「何が何でも受講させてほしい」と熱く電話口でアピールする子がいるなど、例年には見られない独特の熱気を感じた。

当日の運営に関しては、危惧された事故もなく概ね順調に進行することができた。一部、飽きてしまった子もいたが、ほとんどが熱心に受講していた。特に、実際に刀剣を手にして鑑賞する際には、ふざけた行動をする子は皆無で、全員が魅入られたかのようにじっくりと鑑賞していたのが誠に印象的であった。一礼をして刀を手取るという、まるで儀式めいた所作が、参加者に一種の緊張感と特別な体験という感覚を与えたのかもしれない。



刀を鑑賞する姿はまさに「真剣」そのもの

一方、講義に関しては、講師からレベル設定の難しさが感想として寄せられた。対象が歴史をまだ学んでいない小学4年生から既に一通り学んでいる中学生までと幅広かったため、レベル設定がかなり難しかったとのことであった。また、同じ小学生でも、刀匠の名前が次々と出てくるような大人顔負けの知識を有する子から「江戸時代」がいつごろかすら分からない子まで幅が広がったこともあり、難解に感じた子もいれば物足りなく感じた子もいた。近年では、興味があればネットを通じてどこまででも知識を深めることができることもあってか、その差は以前にも増して開いていると感じることも多い。このような事業における内容・レベルの設定については、もう少ししていね

いな検討が必要であったと感じた。

博物館実習生4名がサポートスタッフとして参加したことにより、子どもたちにしっかりと目が行き届いたことも大きかった。危険な刃物を扱う以上、通常の事業よりもより手厚い人員配置が必要であり、子どもたちをサポートする実習生がいたからこそ実施することができたとも言えよう。

本事業は、子ども向けの刀剣入門講座というチャレンジングな内容ではあったが、実物と触れ合うという点において、また、アンケートに見られる参加者の満足度の高さや、何よりも無事故で終わったという点などからも、一定の成果を収めた事業であったと言えよう。ただ、レベルの設定などについて事前の検討が不十分であったことなど反省すべき点も多い。何よりも本事業は、松田氏という指導者の存在と博物館実習生というマンパワーが無ければ企画の実現も安全な運営も困難であった。つまり裏を返せば、当館の職員単独で気軽に実施できる事業ではないということであり、本事業の更なる展開という点では大きな課題であろう。

今後も、収蔵資料を活用して子どもたちに実物を通してしか味わえない体験を提供するとともに、歴史や文化への興味・関心を高めていくような博物館ならではの事業を模索していきたい。

参加者の声

- ・最初、日本刀って面白いのかなと思ったけど、不思議で面白かったです。(小4・女)
- ・刀にさわられてよかった。説明をもう少し簡単にしてほしい。(小4・男)
- ・重たかったです。(小4・女)
- ・刀で人を傷つけるのはとても嫌です。(小4・女)
- ・刀に興味があったので機会があってよかった。(小4・女)
- ・日本の刀を初めて知ったので楽しかったです。(小6・男)
- ・日本刀のいろいろなことが分かったので勉強になった。(小6・男)
- ・刀の重さや形が分かって良かったです。(小6・女)
- ・日本刀をさわったり書いたりしてすごく楽しかったです。また日本刀を見たいと思いました。(小6・女)
- ・刀を持つときに一礼しないといけないなんて知らなかった。(小6・男)
- ・すぐくためになる授業だった。(中学生・男)
- ・直にさわれたのがすごく良かった。まとめ方もわかりやすかったです。(中学生・女)
- ・刀について詳しくなかったが、詳しい説明でいろいろな刀の部分の名前について知る事ができた。(中学生・男)



熱心に刃文を観察する子どもたち

春の自然観察会

里山の草花を訪ねて

日 時 平成30年4月21日(土)
午前9時30分～午後2時45分
対 象 一般
参加者数 20人
行 程 博物館→天覧入り→雨乞池→谷津田
→博物館
講 師 山下裕氏(元日本薬科大学特別講師)

1 趣旨

当館は、飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能を付加し、当年4月にリニューアルオープンした。新しくできた「身近な自然」コーナーでは、天覧山・多峯主山の多様な環境が広がる里山の魅力を紹介している。リニューアルして最初の自然観察会は、この展示を活かして自然環境を説明し、実際に植物観察をしながら歩くことで天覧山・多峯主山の自然環境への理解を深めることを目的とした。また、希少種の盗掘の問題などについても触れ、豊かな自然を守っていくためのマナーについても伝えることとした。

2 内容

行程は、湿地環境、草地、明るい雑木林、そして人工林を通るようにし、天覧入りから雨乞池で折り返し本郷へと下ることとした。

出発前に「身近な自然」コーナーの「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」を使って当日のルートを説明し、その前のジオラマでコースの地形や植生を確認した。さらに「自然を守り、自然に親しむためにー8つのお願いー」のパネルの前で、山

を歩く際の基本的なマナーと、注意事項を伝えた。

参加者には、「天覧山・多峯主山散策ガイドマップ」を印刷したものと下見調査に基づき作成した資料を配布した。資料は4月上旬にコースの下見を行い、その時に咲いていた花の写真と、確認した植物種のリストを掲載した冊子である。

3 反省・評価

アンケートでは、「満足」したとの回答が9割にのぼった。また年間を通しての観察会や、秋の観察会を望む声もあり、自然分野のスタートとして上々の滑り出しであった。参加者の年齢層は60～70代の方が多くほとんどが市内在住の方であった。仕事をリタイアしてからこうした地域のイベントに参加するようになった方が多いのではと考える。

今回、自然観察会を開催する場合の準備と当日の流れの基本が出来上がったが、実施してみて分かったこともいろいろあった。特に、大勢に解説するときは、参加者が足元の植物を踏み付けないよう注意しなければならないということである。そのためは、解説者が参加者の見やすい位置で解説するということはもちろん、観察するときは場所を交代していただき、なるべく踏み込まないようにする等の配慮が必要であった。参加者からも、後方では声が聞こえないといった課題をご指摘いただいた。

また、当日は時間内に予定のコース全てを通ることが難しいと判断し、雨乞池到着後天覧山を通して折り返すルートに変更した。アンケートでは、今回コースの長さを「ちょうど良い」と答えた参加者がほとんどであったが、今後の自然観察会では無理のないコース設定と、後方のフォローが大切だと考える。



ジオラマを使ったコース解説



フィールドでの観察

夏の自然観察会

飯能河原の石の 標本づくり

日 時 平成30年7月28日(土)
午前9時30分～正午
対 象 小学3年生～6年生の親子
参加者数 12組(大人12人、子ども13人、同伴3人)
講 師 久津間文隆氏(大東文化大学講師)
指 導 者 長谷川裕子(当館学芸員)
本橋綾香(当館非常勤職員)
協 力 者 荻野翔太氏・博物館実習生4名

1 趣旨

飯能河原の石を観察することによって、岩石の種類やでき方、飯能の大地の成り立ちを学び、飯能の自然に親しむことを目的とした。また、科学的な見方や考え方を養い、夏休みの自由研究のヒントとなることを目指した。

2 内容

当初の予定では飯能河原へ行って、河原の様子をスケッチしたり、実際に拾った石で標本を作ったりする予定だった。しかし、当日は台風の影響のため、雨天の場合に備えて用意しておいたプログラムに切り替えて学習研修室で実施した。会場は1つの長机に1組を割り当て、講師の説明と子どもの作業をはさみながら進めた。進行は下記のとおりである。

- ・説明① 飯能市の地形・地質の特徴、川原の特徴
- ・作業① 飯能河原の様子スケッチ
- ・説明② 石の特徴、見分け方
- ・作業② 石の分類
- ・作業③ 標本づくり



当館での石の観察

作業①では、飯能河原の写真をスクリーンに写し、その形状や特徴をスケッチした。作業②では、手の感触や色合いなどで岩石の違いを確認できるよう、事前に7種類の岩石(泥岩・砂岩・れき岩・粘板岩・石灰岩・チャート・緑色岩)を各机に用意した。作業③では、事前に拾っていた川原の石を2箇所を広げ、子どもたちに実際に石を探して拾ってもらった。標本作りに使った箱は仕切りが移動できる100円ショップのプラスチックケースを用いた。

3 反省・評価

今回の自然講座は大変人気があり、受付開始日に12組の定員に達した。参加者の子どもの9割が、小学3～4年生で、参加者全員が飯能市内在住であった。また子どもたちは、保護者や講師、博物館実習生に話しかけながら、自身で好きな石を拾い、6種類の石を見分けてオリジナルの標本箱を作ることができ、趣旨に掲げた目的は概ね達成できたと考えられる。

アンケートは小学生と保護者にそれぞれに別の様式のもの配布した。小学生は「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて100%の回答であった。また飯能河原の石へ関心を持ち、見分け方がわかったという意見が全体から寄せられた。

一方保護者の回答も同様で「満足」と「やや満足」を合わせると100%であった。ただし、「実際に河原で石を拾ってみたかった」などの意見も寄せられ、雨天の場合は開催を順延するなど、参加者の期待に応えられるよう今後は対応を柔軟に考えていきたい。また、博物館実習生が事前準備と当日の運営に携わってくれたため、手厚く指導できた。子どものアンケートにも「学生さんも一緒に考えてくれてよかった」という感想が寄せられた。

さらに広報についてであるが、今回は夏休みが始まる前に、当館の展示やイベントについての記載したチラシを市内すべての学校に配布した。アンケートを見ると、小学生はチラシで知った割合が最も多く、保護者はチラシと広報はんのうが同程度であった。このことから小学生向けのイベントは、チラシなどによって対象者に直接知らせることが大切だとわかった。

次年度以降も、今回の反省をふまえて子どもたちを対象とした夏休みの自然観察会を企画し、飯能河原・天覧山の自然の魅力を伝えていきたい。

飯能戦争150年記念講座

戊辰戦争と飯能

日 時 平成30年5月27日(日)・6月10日(日)・
7月1日(日) 午後2時～4時
対 象 一般
会 場 当館学習研修室ほか
参加者数 のべ79人
講 師 5/27 牛米努氏(明治大学兼任講師)
6/10・7/1 尾崎泰弘(当館館長)

1 趣 旨

平成30(2018)年は、戊辰戦争の地域戦である飯能戦争が起こってちょうど150年目の年にあたる。この戦争により、飯能の町では170軒を超える民家と能仁寺など四ヶ寺が焼失した。そこで、飯能戦争を改めて振り返り、この戦争に飯能の人々がどのように関わったかを見ることで先人の思いに触れ、その意味を考えることによってこれからの飯能のまちづくりを考えるきっかけとする。

2 内 容

第1回(5/27)「幕末の多摩の組合村」

田無で活動を開始した振武軍による軍資金調達、改革組合村の触の廻達システムなどを利用し

て行われた。それを可能にした多摩の改革組合村について解説した。

第2回(6/10)

「特別展「飯能炎上」以後にわかったこと」

平成23年度に開催した特別展「飯能炎上」以後新たにわかったことを、同年に発行した『飯能戦争関係史料集』などに収録されている史料を繙きながら解説した。

第3回(7/1) 現地見学会

飯能戦争が起きた7月(旧暦5月)に合わせ、歴史展示室で配布しているおでかけガイドマップ「飯能戦争の跡を訪ねるコース」を手にも実際に戦場となった地域や寺院を歩き、当時の状況をイメージしてもらった。



飯能戦争150年記念講座(5/27)

現地見学会

戦国の中山と 「天神様のお祭り」を訪ねて

日 時 平成31年3月31日(日)
午前9時30分～正午
対 象 一般
参加者数 12人
行 程 博物館→鶴舞地藏→智観寺→中山家範館跡→中山陣屋故地→涙橋→中山三叉路→加治神社
案 内 伊藤美津江・大野正一・嶋崎季子・
清水芙美子・関根秀俊・遠山光保・
富澤武男・中山功・松田早苗・
渡邊雅子(当館市民学芸員)
協 力 者 石原紀子(当館市民学芸員)

1 趣 旨

当館歴史展示室の「飯能今昔」ゾーンに地域を大字単位で紹介する「地域の遺産」コーナーがある。ここでは、中世から近世にかけて文化財などが多く存在している中山地区をとりあげているが、この展示は市民学芸員(古文書整理)と協働で作成し、その成果はおでかけガイドマップ②「旧中山村の魅力を訪ねるコース」としてまとめ展示室内に備えている。

本事業は、このおでかけガイドマップを基に市民学芸員が、実際に現地を案内しながらこれまでの学習の成果を参加者に伝えるものである。

2 内 容

当館から加治神社まで歩き、途中の史跡、寺社などで市民学芸員が解説を行った。

秋の自然観察会

秋を彩るものがたり

日 時 平成30年9月22日(土)
午前9時30分～午後3時
対 象 一般
参加者数 22人
行 程 博物館→天覧入り→谷津田→見返り坂
→博物館(昼食)→講義「奥武蔵の植生
と特色ある植物」
講 師 山下裕氏(元日本薬科大学特命講師)

1 趣 旨

秋の天覧山・多峯主山は、果実も含め多種多様な植物が楽しめる。染色に利用された植物や万葉集で歌われている植物を観察することもでき、そのようなエピソードから一つ一つの草花に目を向ける場を提供し、地域の自然への関心を高める

きっかけとなることを目的とした。

2 内 容

前日の下見で土砂崩れや大きな水たまりを確認したので、雨が上がったとしても小雨の場合に用意したプログラムを実施することとした。当日は曇りであったが午前を観察会、午後を講義とした。



秋の自然観察会風景

講演会

里山の動物たち ～生きものとの共生～

日 時 平成30年9月9日(日)
午後2時～午後4時
対 象 一般
会 場 学習研修室
参加者数 46人
講 師 古谷益朗氏
(埼玉県農業技術研究センター担当部長)
岡登伸一氏
(NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会)

1 趣 旨

博物館周辺の天覧山・多峯主山を中心に、飯能市内の野生動物の生態を伝え、身近な自然の魅力を知ることが目的とした。また、野生動物の現状や飯能市が抱える課題を理解し、今後どのように共生していけば良いのかを考えるきっかけづくりとすることも目的とした。

2 内 容

講演会は二部構成で、前半は天覧山・多峯主山の動物について岡登氏が解説した。後半は野生動物の現状や鳥獣被害対策について古谷氏が講義を行った。また講演会の開催に合わせ、古谷氏が撮影した飯能市内の動物たちの写真を展示ホールに記念写真展として展示した。

◆平成30年度共催事業

学習会名	実施日	時間	対象者	参加者数	講師
日曜地学ハイキング「平野と山地にまたがる飯能① —平野と山地の境界をみる—	4月15日(日)	9:30～15:10	一般	43	地学団体研究会埼玉支部
日曜地学ハイキング「秋の「子ノ権現」を訪ねて —ジュラ紀の海溝をのぞく—	11月18日(日)	9:30～15:10	一般	39	地学団体研究会埼玉支部

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきている。博物館でも市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では、市民参加活動を博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動ととらえている。平成10年度に活動を開始した定点撮影プロジェクトが平成26年度いっぱいまで休止となり、現在は市民学芸員だけになっている。

市民学芸員

1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている（当館『研究紀要』第1号）。当館の場合、教育活動や資料整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

平成30年度末現在で活動しているのは、博学連携、古文書整理、麦作文化探求の3分野合わせて47名で、前年度と変わりはない。2分野以上にまたがって活動をしている方もいるので、その各分野の内訳は、博学連携が35名、古文書整理が12名、麦作文化探求が15名である。

2 活動の概要

◎全体の活動

当館の市民学芸員の活動は、基本的に博学連携、古文書整理、麦作文化探求といった活動分野ごとに行われるが、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会などを全体で行っている。当該年度は下の表のとおり実施した。

このほか、実験的な活動や当館のイメージアップをはかるなど、養成分野にこだわらずやりたいことを自由に、気軽に行える場（サークル活動）も設定している。現在実施されているのは、以下の2つである。

(1) 花サークル



全体研修会・大山阿夫利神社(伊勢原市)の見学(6/28)

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気を表そうとするもので、次の生花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

当該年度は、5月25日午前には日々草、千日草、葉鶏頭の株に植え替えた。それ以後の植え替えは職員で行った。

(2) 生花サークル

このサークルは、当館入口風除室に生花を展示するものである。展示は1週間(火曜日の朝から日曜日まで)を単位とし、市民学芸員4人が交代で担当した。ただし例年生花が傷みやすい7月から9月までは展示を行っていない。当該年度活動した日数は83日で、のべ86人である。

◎博学連携事業参加型の活動

「博学連携事業参加型」の活動の中心は、毎年1月～2月に実施している小学3年生社会科見

◎平成30年度市民学芸員全体研修会一覧

回	活動日	曜日	時刻	テーマ	講師・担当	内容	参加人数
1	6/28	木	8:00～17:00	館外研修会	相模原市立博物館学芸員 加藤隆志氏	相模原市立博物館視察、JAXA(宇宙科学研究所)交流棟、大山阿夫利神社(伊勢原市)見学	21
2	3/30	土	13:30～16:05	研修会活動報告会	青梅市文化財保護指導員 角田清美氏	研修会「江戸に文化を送った飯能と青梅」各分野の活動報告	24

のべ 45人

学対応(以下小3対応)である。したがって通常は上半期に研修や講座を実施し、下半期は同事業の準備にあてている。しかし、当該年度は常設展示改装によって小学3年生の見学プログラムの実施場所も変更を迫られたため、上半期から同事業に向けての準備を開始した。

最初に、実施場所の変更が必要な「火のし・炭火アイロン体験」「石臼体験」「昔の遊び」について、市民学芸員と協議を重ね、現場検証を行った上で新たな配置を決めた。またその際、小学生の荷物置場やガイダンスを行う位置についても決定した。

次に、実施場所を変更したことにともないプログラム内容の修正を行った。まず、場所や展示資料の変更により従来のマニュアルではそぐわなくなってしまう部分を洗い出し、それをふまえ展示室でシミュレーションしながら検討した。その結果をマニュアルに反映させるとともに、緊急時の避難ルートについても見直しを行った。

小学3年生見学対応以外の活動としては、自然に関わる講座と館外研修会を1回ずつ実施した。これは、今年度から当館に自然のビジターセンター的機能が加わったことを受けてのものである。講座は「土壌のひみつ」と題し、自然担当学芸員が専門の土壌学について講義を行った。館外研修は、元日本薬科大学特命講師の山下裕氏にサ

ポートしていただき、天覧山・多峯主山を歩きながら主に植物について学んだ。

このほか、毎年恒例の活動として、ミニ展示「ひなまつり」開催期間中に配布するおひな様



博学連携型・館外研修会 (11/25)



博学連携型・小学3年生見学対応準備 (1/8)

◆平成30年度市民学芸員(博学連携)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内容	会場	参加人数
1	4/25	水	10:00~12:00	4月定例会	尾崎・長谷川・金澤	写真展「春を告げるものたち」展示解説、「市立博物館のリニューアルについて」(館長)、年間予定の確認	学習研修室	16
2	5/30	水	10:00~12:00	5月定例会	長谷川・金澤	小3対応現場検証に向けての話し合い、研修会「土壌のひみつ」(長谷川学芸員)	学習研修室	15
3	6/29	金	10:00~11:30	6月定例会	長谷川・金澤	小学3年生見学対応現場検証	学習研修室 展示室	11
4	7/19	木	10:00~11:30	7月定例会	尾崎・長谷川・金澤	小学3年生見学対応について	学習研修室	12
5	8/24	金	10:00~11:45	8月定例会	尾崎・長谷川	小学3年生社会科見学対応、博物館ミッション、市民学芸員パネルについて	学習研修室	14
6	9/21	金	10:00~11:40	9月定例会	尾崎・長谷川	小学3年生見学対応、11月の館外研修について	学習研修室	7
7	10/19	金	10:00~11:40	10月定例会	長谷川・金澤	小学3年生見学対応、11月の館外研修について	学習研修室	11
8	11/2	金	10:00~11:00	11月定例会	長谷川・金澤	小学3年生見学対応、11月の館外研修、折り紙でおひな様について	学習研修室	10
9	11/11	日	13:00~15:30	折り紙でおひな様準備	金澤	折り紙でおひな様事前準備	学習研修室	5
10	11/25	土	10:00~15:35	館外研修	長谷川・金澤	能仁寺・天覧山・多峯主山めぐり	現地	8
11	12/7	金	10:00~11:30	12月定例会	長谷川・金澤	小学3年生見学対応について	学習研修室	13
12	12/21	金	10:00~12:00	民家の台所設営	尾崎・引間・金澤	民家の台所設営	特別展示室	8
13	1/8	日	10:00~11:30	小3対応最終確認	金澤	小3対応直前の最終確認	歴史展示室ほか	11
14	2/10	日	10:00~15:00	石臼・昔のアイロン体験会	引間・金澤	石臼及び昔のアイロンの体験会	展示ホール	8
15	2/15	金	13:30~15:30	2月定例会	尾崎・長谷川・金澤	小学3年生社会科見学対応の反省会、全体研修会について	市立図書館	11
16	3/3	日	10:00~15:00	折り紙でおひな様	長谷川	ミニ展示「おひなさま」関連事業「折り紙でおひな様」運営(麦作分野によるさつまいも粉配布会同時開催)	飯能と西川村コーナー	3
17	3/15	金	10:00~11:40	3月定例会	長谷川・金澤	平成30年度の反省と来年度への要望	学習研修室	11

合計 のべ 174人

◆平成30年度市民学芸員(古文書整理)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内 容	会場	参加人数
1	4/12	木	10:00～11:50	4月例会①(今年度の活動協議)	学習研修室	8
2	4/26	木	10:00～11:20	4月例会②(今年度の活動協議)	学習研修室	10
3	5/10	木	10:00～11:20	5月例会①(旧中山村の魅力案内事業検討)	学習研修室	10
4	5/24	木	10:00～11:30	5月例会②(市民学芸員対象「旧中山村の魅力案内」事業準備、赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成方法説明)	学習研修室	8
5	6/7	木	9:00～12:00	市民学芸員対象「旧中山村の魅力案内」実施・同反省会	(現地)	11
6	6/21	木	10:00～11:30	6月例会②(旧中山村の魅力案内事業の改善点協議)	学習研修室	10
7	7/12	木	10:00～11:40	7月例会①(旧中山村の魅力案内事業の改善点協議・赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成①)	学習研修室	10
8	7/26	木	10:00～11:35	7月例会②(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成②・特別展「吾野」関連文書の翻刻①)	学習研修室	6
9	8/23	木	10:00～11:45	8月例会(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成③・特別展「吾野」関連文書の翻刻②、当館ミッション説明)	学習研修室	7
10	9/13	木	10:00～11:35	9月例会①(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成④・特別展「吾野」関連文書の翻刻③)	学習研修室	8
11	9/27	木	10:00～11:40	9月例会②(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成⑤・特別展「吾野」関連文書の翻刻④)	学習研修室	8
12	10/11	木	10:00～11:32	10月例会①(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成⑥・特別展「吾野」関連文書の翻刻⑤など)	学習研修室	8
13	10/25	木	10:00～11:37	研修会(特別展「吾野」展示解説)	学習研修室ほか	7
14	11/8	木	10:00～11:32	11月例会①(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成⑦・特別展「吾野」関連文書の翻刻⑥)	学習研修室	11
15	11/22	土	9:00～11:50	地域巡り⑧ 岩沢地区巡見	(現地)	11
16	12/13	木	10:00～11:37	12月例会(赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成⑧・特別展「吾野」関連文書の翻刻⑦)	学習研修室	10
17	1/10	木	14:00～15:20	1月例会(旧中山村の魅力案内事業内容準備①)	中央地区行政センター	9
18	2/3	日	9:30～12:00	2月例会①(旧中山村の魅力案内事業準備②下見など)	(現地)	8
19	2/14	木	10:00～11:40	2月例会②(旧中山村の魅力案内事業準備③)	学習研修室	10
20	2/28	木	10:00～11:40	2月例会③(旧中山村の魅力案内事業準備④・赤沢村浅見讓二家文書「御用留」件名目録作成⑨・吾野地区関係文書の翻刻⑧)	学習研修室	10
21	3/14	木	10:00～11:30	3月例会①(旧中山村の魅力案内事業準備⑤)	学習研修室	11
22	3/28	木	10:00～11:30	3月例会②(旧中山村の魅力案内事業準備⑥)	学習研修室	7
23	3/31	日	9:00～12:00	「戦国の中山と「天神様のお祭り」を訪ねて」(旧中山村の魅力案内事業)	(現地)	11

合計 のべ 209人

カードを作成し、同展の関連講座である「折り紙でおのおひな様」を実施した。

◎古文書整理型(第Ⅵ期)の活動

「古文書整理(参加)型」の市民学芸員は、平成23年度に活動を開始し参加者の多くがくずし字を読めるようになってきた。平成28年度からは例会以外に自主活動を開始し、各自で赤沢村浅見讓二家の御用留翻刻などを行うなどして、学習成果を当館の事業に関わる形で還元すること



古文書整理型・岩沢地区巡見(11/22)

に活動の中心がシフトしてきている。

そこで平成30年度は、常設展示改装の中で展示制作を担当した「飯能今昔」ゾーンの「旧中山村の地域遺産」の内容を多くの人に知っていただくため、市民向けに中山村の魅力案内事業を実施することとした。まず6月に他分野の市民学芸員を対象にシミュレーションを行い、その反省をふまえて3月に博物館主催事業「戦国の中山と「天神様のお祭り」を訪ねて」を担当した。

また、翻刻を行ってきた浅見讓二家文書の赤沢村御用留をさらに活用できるようにするため、その件名目録を作成するとともに、当館特別展「吾野」に關係する史料の翻刻を行った。

このほか、市民学芸員が自ら住んでいる地区の歴史を調べ案内する地域めぐりを1回、研修会(特別展「吾野」展示解説)を1回実施した。当年度は23回の活動で(上表)、のべ209名が参加した。

◎麦作文化探求型(第Ⅷ期)の活動

平成27年度から活動している「麦作文化探求型」市民学芸員の活動目標は、次の3点である。

◆平成30年度市民学芸員(麦作文化探求型)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	内容	会場	参加人数
1	4/11	水	13:30~15:40	麦の土入れ、サツマイモの苗床づくり、ノラボウの収穫、カボチャの植え付け	西側畑	7
2	4/18	水	13:30~16:00	麦の土寄せ、大豆の播種、ノラボウの収穫	西側畑	8
3	4/25	水	13:30~17:00	麦の土寄せ、ジャガイモの手入れ、今後の活動についての打合せ	西側畑・学習研修室	8
4	5/9	水	13:30~17:00	ジャガイモの手入れ、畑の手入れ、今後の活動についての打合せ	西側畑・学習研修室	8
5	5/23	水	13:30~16:00	サツマイモ・コスモスの植え付け、次回活動準備	西側畑・1階スロープ	8
6	5/27	日	9:00~11:45	大麦の刈り取り、サツマイモの植え付け	西側畑	9
7	6/3	日	9:00~11:10	小麦の刈り取り、サツマイモの植え付け	西側畑	8
8	6/13	水	9:30~12:00	大麦の脱穀、畑の手入れ	西側畑・1階スロープ	7
9	6/20	水	9:30~12:00	小麦の脱穀	西側畑	6
10	7/8	日	9:30~12:00	じゃがいもの収穫、畑の手入れ	西側畑	6
11	7/25	水	9:30~11:45	苗床の解体、畑の手入れ、今後の活動についての打合せ	西側畑・学習研修室	4
12	8/5	日	9:30~12:00	大麦こがし、今後の活動についての打合せ	1階スロープ・学習研修室	6
13	8/22	水	9:30~12:30	除草、サツマイモのツル返し、今後の活動についての打合せ	西側畑・学習研修室	4
14	9/9	日	9:00~11:30	小麦の製粉	1階スロープ	6
15	9/19	水	9:30~11:30	小麦の製粉	1階スロープ	6
16	9/30	日	9:30~12:00	小麦の調理(たらしもちづくり)	中央地区行政センター	7
17	10/10	水	13:30~16:00	サツマイモの収穫、ノラボウの播種	西側畑	7
18	10/24	水	13:30~16:00	畑の手入れ、堆肥づくり、サツマイモの水洗	西側畑・1階スロープ	7
19	10/31	水	13:30~16:00	畑の作付状況まとめ	学習研修室	4
20	11/7	水	13:30~15:00	大麦の播種、ノラボウの植え付け、堆肥入れの手入れ	西側畑	6
21	11/21	水	13:30~15:00	小麦の播種、ノラボウの植え付け、堆肥づくり	西側畑	6
22	12/5	水	13:30~16:00	サツマイモの水洗・スライス、畑の手入れ	西側畑・1階スロープ 3階屋上	4
23	12/19	水	13:30~16:00	サツマイモの製粉、麦踏み	西側畑・1階スロープ	5
24	1/9	水	13:30~15:30	麦踏み、来年度活動計画についての打ち合わせ	西側畑・学習研修室	6
25	2/13	水	13:30~16:00	サツマイモ粉配布準備、来年度活動計画についての打ち合わせ	学習研修室	7
26	3/6	水	13:30~14:50	麦の土入れ、畑の手入れ	西側畑	6
27	3/20	水	13:30~15:30	麦の土入れ、今後の活動についての打合せ	西側畑	6

合計のべ 172人

- ①伝統的な麦作及び加工等に係る技術を身に付け、伝承する。
- ②麦に関する知識を深め、地域の麦作文化を探求する。
- ③活動や調査の成果を、館の教育事業の中で積極的に活用する。

平成30年度の活動では、通常の農作業に加え、上記の目標をより意識した更なる事業展開を目指して準備や検討を行った。

農作業に関しては、麦やイモ類のほかノラボウなど昨年と同様の作物を栽培した。猛暑の影響で生育が危惧されたものもあったが、いずれも収穫をすることができた。

農作業以外の取り組みとしては、目標達成のため学習活動及び教育活動に着手したことが挙げられる。

学習活動としては、麦についての知識を深めるため、市立図書館が所蔵する関連図書をリスト化した。今後、これら参考資料を基に学習活動を進め、知識を深めていく予定である。

教育活動としては、麦に関する農作業を他分

野の市民学芸員に体験してもらう機会を設けた。また、活動を広く周知するため、収穫した作物や種子などを来館者に配布した。例えば、ひなまつり期間中の3月3日(日)には、サツマイモ粉を小分けにしたものを市民学芸員が直接来館者に配布し、とても好評であった。

次年度以降については、連作障害防止の観点から畑を休ませるために農作物の栽培を抑える一方で学習活動などにより注力し、活動目標に近づくことができるよう努めていきたい。



麦作文化探求型・サツマイモ粉配布準備 (2/13)

地域の歴史を次の世代に伝えていきたい。

双木幸三さん（第Ⅴ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

長男がちょうど小学3年生になったことがきっかけです。その前から子どもを連れて国立科学博物館や科学未来館に行っていました。そのガイドさんがとても楽しそうに活動していたのが印象的でした。ただ仕事があって平日の活動はほとんどできないためどうしようかになって迷っていたら、館の職員の方が「できる時に参加していただければ大丈夫ですよ！」とってくれたことが背中を押してくれました。

○そもそも博物館の魅力とは何だと思えますか？

前から博物館は大好きで、1人の時は上野の東京国立博物館や美術館にもよく行っていました。博物館に行けば自分が知らなかったことをモノを通して知ることができるからです。大学の時に市内で発掘調査のアルバイトをしていたことがありましたが、その時に発掘調査を担当していた柳戸さん(現図書館長)や熊澤さん(現生涯学習課文化財担当リーダー)から聞いた話が面白く、その後東京国立博物館の考古の展示を見

に行った時は本当に感動しましたよ！歴史系の博物館は、昔の物に触れることによって、地域に人が住み続けている歴史の中に自分も存在しているんだ、ということがわかることですかね。



○地域との関わりについて

私の家は元々古くからの商家で、子どもの時から地域の人にそれを言われるのが嫌で嫌で仕方がなかったんです。大学に入っても地域と関わりあいを持つとは思いませんでした。それが子どもができたことと親が年を重ねていくことによって意識が変わりました。墓にある古い墓石を見ると先祖を意識せざるを得ませんし、もっと地域のことを知らなくちゃ、ってね。

○市民学芸員のやりがいは？

養成講座に参加している間はあまり感じなかったのですが、市民学芸員になって活動や研修会に参加して地域の歴史や文化を学んでいくなかで、過去の記憶や生活の様子などを自分の世代がつなげていかないと、次の世代に伝わっていかないのではないか、と思うようになりました。市民学芸員の中には飯能生まれの飯能育ちの方もいるので、その方々のもっているものを伝えること、それが自分たちの役割なんだと。

○今後の市民学芸員の活動について

以前は「竹の水鉄砲で遊ぼう」や、「まゆだま作り」がありましたが、今はそれも無く休日の活動の機会が減っています。それだと自分が活動できる機会があまりないので、月1回でもいいから何かできないかと考えています。そういう場があった方が逆に若い人を取り込めるのではないのでしょうか。その意味でいうと、子どもたちを対象とした事業にその保護者をどのように巻き込むかがポイントなのではないかと。今は地域の活動になかなか若い世代が参画しないようなので、そういった活動に関わってくれるようになれば地域の歴史を学ぼうという人も増えてくると思いますよ。



石臼の体験で子どもたちの話を引き出す双木さん

事務局から

毎年、数日は仕事を休んで小学3年生の見学対応に参加して下さっている双木さん。本当にお忙しいところありがとうございます。建築にもとても詳しく、私たちはとすると古ければ古いほどよい、というふうに思っていますが、街並みの景観の中でのその建物の意味をもっと考えるべきだとのお話は、多様な視点から地域を見ることの大切さに気づかせて下さいました。男性の市民学芸員では最年少ながら、博物館の楽しさをとてもよくご存じの双木さん。市民学芸員としてそれを来館者にどんどん伝えていって下さい！

地域の成り立ちがよくわかる巡見は最高！

嶋崎季子さん（第Ⅳ期博学連携型・第Ⅵ期古文書整理型）



○市民学芸員に応募した理由は？

最初に博学連携型(Ⅳ期)に応募した時は、退職した後も社会との関わりを持ちたかったから。子どもも好きだったので、

小学生が社会科学習で郷土館(当時)に見学に来た時に、その相手をするのが活動の中心とのことだったので応募しました。古文書の方(第Ⅵ期)は、実家から古い文書が出てきて父から読めるか？と言われたんですけど読めなくて。それを読みたい、っていうのもありましたし、元々市役所の市民課にいて改正原戸籍を見ていてわからない文字もあったりして、昔の文字は前から気になっていました。

○市民学芸員の魅力は？

古文書の方は少しずつ読めるようになってくると、ロマンというか昔の人とつながっていると

いうか、会話をしているような感覚になってくるところかな。それぞれの時代の出来事を知ることができるというのもおもしろいんですが、やはり巡見が最高に楽しいですね。特に矢風は子どもの頃によく遊び行ったところだったので、原風景に知識が加わって驚きとともに感動がありました。滝沢良顕さんの筆塚とか八坂神社など古文書に出てくるところがそのまま実際に残っているんですよ！すごくないですか。飯能生まれで行政にも長らく関わっていたのにまるで地域のことを知らない、ということに気づきました。雑学的な知識も増えて家族や友達などいろいろな人に伝えることができるのも楽しいことです。

○まだ市民学芸員になっていない人に

博学連携の方の市民学芸員でいえば、普段触れあうことのできない子どもたちと交流できて、教える楽しさ、学ぶ喜びを体感できますよ。子どもたちからは伝えたことに対する反応とか感謝の気持ちが帰って来るので、新たな生きがいになります。それと仲間づくりかな。人生の先輩たちとの交流ですか。いろんな分野で活躍されてきた人たちと触れあえる。違う分野の人だからこそ得られる知識もあります。まだまだ成長できるし柔軟な考え方も持つことができるようになりますよ！

○市民学芸員としてやりたいこと

もう少し子どもと深く関わる時間をもてたら楽しいと思います。小学3年生の見学プログラムの場合は、1サイクル40分という短い時間の中でこなさなければならないことが決まっていますが、もっと聞きたそうにしている児童を見かけると教えてあげたくなりますね。市民学芸員とは別ですが、小学校6年生の総合学習で生花を体験してもらっていますが、アドバイスすると納得してくれる。そうなるたとえば市民学芸員で学校に行って授業をしたりできるといいですよ。そのためには私たちももっと勉強しないといけません。



古文書整理型の活動で打合せ中の嶋崎さん

事務局から

博学連携、古文書整理と2つの分野でご活躍の嶋崎さん。博学連携の方により力をいれて活動しているようにお見受けしていましたが、古文書整理の方の巡見のおもしろさを熱く語っていただき、こちらの方も大切に考えて下さっていることがわかり少し安心しました。そのほか4人の方と交代で入口の風除室に生花を活ける生花サークルや、入口外の花壇にある花の苗を植え替える花サークルにも積極的に関わり、当館の雰囲気作りにお気遣いをいただいています。もしかしたら年間を通して最も当館においでいただいている市民の1人かもしれません。今後ともよろしくをお願いします。

「憧れる飯能」から「誇れる飯能」へ。

福嶋信子さん（第Ⅴ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

以前は入間市に住んでいたんですが、飯能は故郷の秩父に近く憧れの場所でした。10年前に飯能に住むようになり、飯能のことを知りたいと思って市民学芸員に応募したんですが、活動の内容が小学生の見学対応だと知って、ちょっと引きました。自分としては伝えることは考えていなかったんです。

○でも観光のガイドもされていますよね？

エコツアーでガイドを始めたのも市民学芸員と同じ頃で飯能のことを知りたかったから。でも市民学芸員と観光ガイドは全く違って、市民学芸員は館の方針とずれないようにしなければなりません。エコツアーの場合は客さんに合わせる事が大切です。また飽きられないようにできるだけ砕けた感じで話すことを心がけています。

○博物館は観光に貢献できるのでしょうか？

市民学芸員をしていると知識が深まります。博物館には（本務）学芸員がいて、相談するとはっきりした回答をしてくれます。そうすると自信をもってエコツアーのお客さんに対応できます。博物館には資料とか情報の提供をお願いしたいです。

○当館について期待することは？

市民に身近な博物館であってほしいです。博物館に来ると実物を見ることができる、いろいろな体験ができる、というのがよいと思います。リニューアルオープンしてから自然のコーナーはよく変わるし、歴史展示室の方も「うちおり」（着物）とかが時々替わっていて、前に見た時とは違う資料が出ている、というのがわかればまた来てくれるのではないかな。展示替えをしていることをもっと一般の人にアピールすべきだと思います。

○市民学芸員の魅力とは何ですか？

小学3年生のプログラムを市民学芸員の仲間といろいろ議論しながら一緒に作り上げていったことが忘れられないですね。その中には（本務）学芸員も加わっていて。また麦作文化探求型の

場合、最初はサークル活動から始まって、西側の敷地を開墾して畑を作り、そこで収穫された大麦が小学3年生の石臼体験に使われてひとつの分野に昇格できた。自主性が重んじられているところも魅力ですね。



○まだ市民学芸員になっていない人に

市民学芸員は活動を通していろいろなことを知ることができて嬉しいです。この年になって知る楽しさを今味わっているところです。また、現地研修会や講演会などによって専門家の話が聞けることや、他の地域のことも学べるのがよいところかな。また市民学芸員は年齢も経験も様々なので、視野が広がり楽しい活動になります。市民学芸員の活動に参加するようになってから「憧れの飯能」から「誇れる飯能」へと変わりました。



歴史展示室で小学3年生の児童に説明する福嶋さん

事務局から

現在の博物館には観光の拠点としての役割も求められていますが、それを10年も前から実践されている福嶋さん。前に福嶋さんたちが主催するエコツアーに参加しましたが、お客さんを惹きつけるためいろいろな工夫をされていて、自分が普段している展示の説明を反省しました。いろいろなことに興味をもち、矢継ぎ早の質問にたじたじとなる場面もしょっちゅうで、われわれの勉強不足を感じさせてくれるありがたい存在です。観光と博物館の橋渡し役として期待しています。その旺盛な好奇心でこれからもどんどん飯能の魅力伝えていって下さい！

博学連携

博学連携とは、博物館と学校が相互に連携・協力して、子どもの教育にあたる取り組みのことである。当館の場合、その中心となるのは、小学3年生の社会科学習の見学受け入れと小・中学生の社会科の自由研究を展示する「社会科研究展」である。

そのほか学校への資料の貸出も行っているが、これは「収蔵資料の利用」(44～47p)に含めた。

小学3年生見学対応

ついに吾野小学校が来館、市内すべての小学校が当館プログラムを体験！

現行の学習指導要領では、社会科の第3学年の学習内容のうちの1つとして、

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例と定められている。

これに対応するため、本市では「市の人々のくらしのうつりかわり」の単元が設けられている。それに合わせ、当館では例年1月から2月にかけて「むかしのくらし」展を開催し、各学校に対し市民学芸員とともに、①常設展示室見学(飯能の宝物＝文化財、紙芝居、西川材の3つから2つを選択)、②昔の道具探しクイズ、③石臼と昔のアイロン体験の3種類のプログラムを実施している。こ

のうち、①常設展示見学の中の、「飯能の宝物」と「西川材」(埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川地方関係用具」)の解説がイに、それ以外がアに向けたものと位置づけられる。また、3・4年生が使用する社会科副読本『はんのうし』は、当館の見学プログラムに準拠した形になっている。

当館までの移動手段は、市のバス2台を中心に、足りない部分を民間事業者から乗合バスを借り上げて確保している。当日は、クラスを複数の班に分け1つのプログラムを40分ほどかけて行い、決められた時間枠の中ですべてのプログラムが体験できるように予定を組んでいる。

さて、当該年度においては10月16日付で各小学校宛てに見学希望日や人数などを把握するための調査票を配布し、11月1日から11月25日にかけて当館にて先生方との打合せを行い、見学内容や移動手段などについて協議した。

今回、学級閉鎖のため加治東小学校の見学が中止となったものの、吾野小学校が閉校となる最後の年に来館したことで、市内すべての小学校がこのプログラムに参加することとなった。

◆小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択
1	1/11(金)	精明小	1	19	市バス	9:10	11:45	155	11	宝物・紙芝居
2	1/17(木)	富士見小	3	89	借上バス・市バス	9:18	12:00	162	11	宝物・紙芝居
3	1/18(金)	飯能二小	1	9	市バス	9:06	11:45	159	7	宝物・林業
		名栗小	1	1						宝物・林業
4	1/22(火)	加治小①	2	67	借上バス・市バス	9:00	11:57	177	10	宝物・林業
5	1/23(水)	加治小②	1	36	借上バス	9:00	11:50	170	10	宝物・林業
		加治東小	1		借上バス					(学級閉鎖)
6	1/24(木)	東吾野小	1	5	市バス	9:00	11:35	155	6	宝物・紙芝居
		西川小	1	4						宝物・紙芝居
7	1/29(火)	飯能一小①	1	36	徒歩	9:05	11:36	151	9	宝物・紙芝居
8	1/30(水)	原市場小	1	31	市バス・公用車	9:10	11:47	157	9	紙芝居・林業
9	1/31(木)	飯能一小②	2	71	徒歩	9:10	11:58	168	9	宝物・紙芝居
10	2/1(金)	双柳小	3	76	市バス・借上バス	8:55	11:38	163	10	宝物・紙芝居
11	2/6(水)	南高麗小	1	9	市バス	9:00	11:25	145	7	宝物・紙芝居
12	2/7(木)	美杉台小①	1	36	借上バス	9:00	11:35	155	12	宝物・紙芝居
13	2/8(金)	美杉台小②	2	71	市バス・借上バス	9:05	12:00	175	10	宝物・紙芝居
14	2/13(水)	吾野小	1	6	公用車	10:02	11:50	168	5	紙芝居・歴史展示室

合計13校

合計児童数 566人

市民学芸員延べ人数

126人

小・中学校社会科研究展

1 趣旨

小・中学校では、夏季休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭科、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がない。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より飯能市教育研究会社会科部会と共催で行っているのが本事業である。出典された作品のうち優秀な研究に対し、右に掲げた基準に基づき教育長賞、館長賞及び学芸員賞を選んでいる。ただし、当該年度においては、小学生の部の教育長賞、中学生の部の教育長賞・博物館長賞は該当がなかった。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることができるようにするため、会期中の金曜日(2日間)、開館時間を午後7時まで延長した。



社会科研究展入館状況 (市民会館)

◆博物館長賞

No.	題名	児童名	学校名	学年
59	またまたやるぞ！ みいのおかいこお世話日記	井関美耀子	精明小学校	4

◆学芸員賞

No.	題名	児童名	学校名	学年
24	バリアフリー ～飯能駅から宮沢湖までのバリアを探せ！～	中島 莉咲	飯能第一小学校	6
72	富士見小だよ！ 全校集合！	太平 楓 太平 颯太	富士見小学校	2 5
97	点字・点字ブロック・もうどう犬について	関田 莉子	加治東小学校	3
12	飯能市の土石流・危険渓流について	宮本 竜希	飯能第一中学校	1

2 展示概要

期 間 平成30年9月15日(土)～9月30日(日)
 開館日数 14日間
 入館者数 2,593人 (1日平均185.2人)
 展示点数 小学生147点 (153人)
 中学生 68点 (68人)
 会 場 当館特別展示室・市民会館展示室

3 関連事業「研究発表会」

日 時 平成30年9月29日(土)午後2時～3時
 発表数 5点(6人)
 会 場 市民会館会議室202
 参加者数 26人



研究発表会風景

■特別賞の基準は以下のとおり

○教育長賞

例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。

○館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。

○学芸員賞

- ・地域を対象としている
- ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
- ・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
- ・調査結果がわかりやすくまとめられている。

以上に該当する作品で小・中学校合わせて4点まで。なお、作品が展示された全ての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られる。



博物館長賞

「またまたやるぞ! みいのおかいこお世話日記」
井関美耀子さん (精明小学校4年)



学芸員賞

「飯能の土石流・危険渓流について」
宮本竜希さん (飯能第一中1年)

【講評】

3年間ぶれることなく着実におかいこさんたちと向き合ってきた「みいちゃん」のひたむきさに、ただただ頭が下がります。紡いだ絹糸も昨年に比べてとても上手にできていて、3年間取り組んだ成果がしっかりと表れていると思いました。単なる生き物の飼育・観察日記にとどまらず、織物や染物など幅広く関心を持ち、実際に手と体を動かして取り組む実践的な姿勢が高い評価につながりました。最近、インターネットで簡単に知識を得ることができそうですが、自ら汗をかいて学ぶことの大切さを、この作品は教えてくれているように思えてなりません。



社会科研究発表会の発表者

【講評】

小学校の時には、水との関わりについて、テーマを変えながら自由研究に取り組んでくれました。中学生になり昨年の調査で気づいたことを基に、今回は土石流危険渓流を取り上げています。目的、調査方法を明確にして研究を進める手堅さは相変わらずです。また自ら現地に立ち、付近の様子を観察しまとめていますが、それは、看板とセットでその写真を付けることでより説得力のあるものになっています。研究成果も読みやすくまとめられており、宮本君の確立された手法を感じることであります。「水」に関わる研究は続くのか、別のテーマへと向かうのか、今後が楽しみです。

その他の博学連携事業

出張授業の件数は5件と漸減傾向が続いている

○出張授業

平成29年度の出張授業は9件であったが、当該年度は平成28年度とほぼ同じ水準の5件に戻った。件数は平成18年度の17件(受講者数936人)をピークに全体としては漸減傾向が続き、特に中学校は平成27年度から29年度までの3年間は全く依頼がなかった。

一方、小学校では4年生社会科の「きょう土を

ひらく」の単元で武蔵野鉄道(西武池袋線の前身)が取り上げられているため、ここ5年ほどは例年1～2件の実績がある。この授業には、平成27年度の特別展「武蔵野鉄道開通」の成果が活かされているが、平沼専蔵の位置づけについての理解が当館と副読本の内容とでは異なっている点が課題となっている。

◆平成30年度出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	6/15(金)	原市場中学校	3	総合	「昔の原市場を調べる(江戸時代の家族)」	原市場地区の概要や歴史的なトピック、昔の原市場地区を調べるための方法について説明した。	尾崎	47
2	7/5(木)	飯能第一小学校	5	総合	「伝えよう 飯能の昔発見」	飯能第一小学校区の出来事や昔の文化に興味をもってもらうため、広く浅く説明し、調べ学習の導入とした。	尾崎	109
3	10/5(金)	加治小学校	4	社会	「武蔵野鉄道」	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	尾崎	85
4	11/6(火)	飯能第一小学校	5	総合	「伝えよう 飯能の昔発見」	飯能の市街地の出来事や昔の文化・生活についての10のテーマを用意し、説明した。	尾崎 引間 金澤	108
5	11/7(木)	原市場小学校	4	社会	「武蔵野鉄道」	鉄道開通に対する飯能の人々の思いと、武蔵野鉄道の開通後のまちの変化について説明した。	尾崎	31

合計 のべ 380人

○中学生社会体験チャレンジ

「社会体験チャレンジ」は、本市の中学1年生が勤労の尊さや働く意義を学び、正しい職業観を身につけるために、市内の事業所や公共機関

等で3日間、職場体験をするものである。本人はもちろん、保護者にも当館の役割や学芸員の仕事の内容が伝わることを望むものである。

◆平成30年度中学生社会体験チャレンジ受入一覧

No.	実施日	学校名	人数	内容
1	12/4(火)～12/6(木)	飯能西中学校 美杉台中学校	7	館内外の清掃と小学3年生見学学習ノートの作成・仕分け、自然調査
2	12/11(火)～13(木)	加治中学校	4	館内外の清掃、特別展「吾野」の片付け、収蔵資料(典籍)の移動、「身近な自然」コーナーの展示作成
5	1/23(水)～25(金)	飯能第一中学校	3	館内外の清掃、小学3年生見学対応の補助や収蔵資料(典籍)の移動、「身近な自然」コーナーの展示作成

合計 14人



原市場中学校3年総合学習「昔の原市場を調べる」



社会体験チャレンジ風景(飯能西・美杉台中学校)

資料・施設の利用

収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

資料利用件数はやや漸減傾向ではあるものの例年並みの利用を維持
利用点数はこれまでで最高を記録！

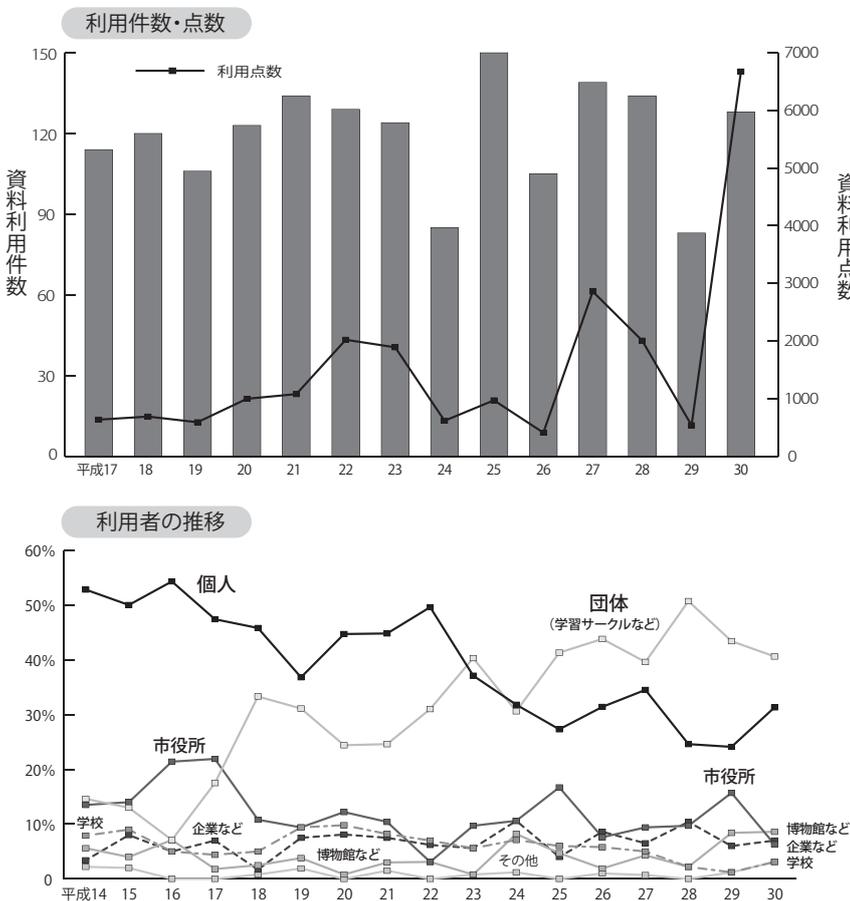
博物館が資料を収蔵している目的のひとつは、将来の世代にそれを伝えていくことにある。それとともに博物館の資料は、本質的には利用するために保管されているともいうことができる。

博物館資料の中には、光を当てることもはばかられ、温湿度を一定にした中で管理すべきものもあるが、民俗資料や考古資料の中には、そこまで神経を使う必要のないものもある。また、アーカイブズ(文書館)はそもそも文書の閲覧を前提としている施設であるが、当館も多くの文書や写真を収蔵し、アーカイブズ的な機能も有しているため、専門家や研究者にとどまらず市民などが学習のために資料を利用する機会を積極的に提供している。収蔵資料の利用件数は、地域に関わる実物資料を保存する意味を裏付けるものであり、今後新たな収蔵スペースを確保していくための根拠ともなる。

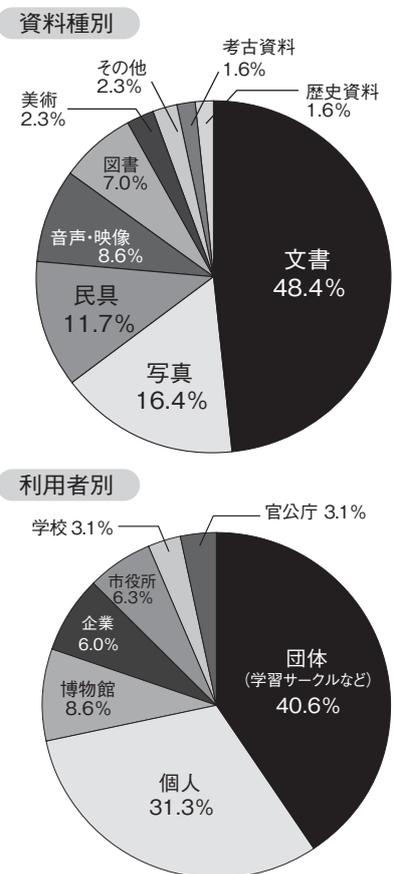
当館の場合は、文書を含めすべての資料について利用を希望する方には、資料利用許可申請書を提出していただき、資料の状態を判断し閲覧（熟覧）場所を確保した上で許可をしている。

平成30年度は128件の利用があり、平成17年度から14年間で平均すると1年あたり119.6件なので、ほぼ平年並みといえる。1回の申請で利用する点数が多い傾向のある研究者が多かったため、利用点数の合計はこれまで最高の6,675点に達した。このうち文書・写真が全体の6割以上を占め、民具、図書、映像・音声は10%前後とそれに続く状況は例年通りであるが、図書の漸減傾向は続き、データのある平成14年度から最も低い割合(7.0%)となっている。これはインターネットの普及によるものと考えられる。

平成17～30年の資料利用の推移



平成30年度の資料利用



◆平成30年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	写真「中央通りを走るバス」など	10	飯能まちなかを元気にする会	路地看板の作成	4/1
2	レコード「武蔵機織歌」など	5	「飯能の“みんよう”」保存会	4/27の催物準備	4/5
3	須田省一郎家文書「安政七年申年日記」	1	古文書同好会	コピー教材の欠損部や不鮮明箇所を確認	4/14
4	須田省一郎家文書「安政七年申年日記」	1	古文書同好会	コピー教材の欠損部や不鮮明箇所を確認	4/18
5	写真「大通りの風景」	1	個人	「飯能情緒」の製作	4/19
6	レコード「武蔵機織歌」など	5	「飯能の“みんよう”」保存会	催物の資料	4/27
7	須田省一郎家文書「安政七年申年日記」	1	古文書同好会	コピー教材の欠損部や不鮮明箇所を確認	4/28
8	太織など	6	「飯能の“みんよう”」保存会	催物の資料	4/29
9	写真「千歯こぎ」	1	一般社団法人日本著作権教育研究会	2018-2019年度入試大阪府立公立高等学校特別・一般選抜入試問題集への掲載(継続)	5/7
10	天保十三年飯能村絵図(複製)など	3	個人	調査研究	5/8
11	須田省一郎家文書「安政七年申年日記」	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	5/12
12	写真「張摩久保遺跡出土銅鏡」	1	一般社団法人高麗1300	「渡来文化古代東国史跡マップ」の発行(7月発行)	5/12
13	須田省一郎家文書「萬延二年酉年日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	5/17
14	レコード「加治音頭」など	4	「飯能の“みんよう”」保存会	催物の時の資料として	5/25
15	須田省一郎家文書「安政七年申年日記」	1	古文書同好会	コピー教材を原文書と照合	5/26
16	写真「子どもたちで賑わう夏の飯能河原の堰」	1	黒田デザイン事務所	フリーペーパー「飯能情緒」発行	5/28
17	平沼宏之家文書「変事出来ニ付心得覚記」	1	個人	研究	6/5
18	田中勝久家文書「母病気の為心ならず御無沙汰ニ付詫状」	1	熊谷市教育委員会	熊谷市史の編さん	6/5
19	須田省一郎家文書「万延二年酉年日記」	1	古文書同好会	コピー教材を原文書で確認	6/9
20	山川義太郎家文書「日記(天保9)」	1	個人	卒業論文作成	6/13
21	レコード「飯能小唄」など	4	「飯能の“みんよう”」保存会	催物の内容をよりよく理解する	6/22
22	須田省一郎家文書「万延二年酉年日記」	1	古文書同好会	コピー教材を原文書で確認	6/23
23	平沼宏之家文書「変事出来ニ付心得覚記」	1	個人	研究	6/24
24	衣料切符など	6	加治東小学校	小学4年国語「一つの花」の授業	6/29～7/14
25	岡部とよ子家文書「秩父木炭同業組合事件演説要旨」など	80	個人	研究	7/1～3/31
26	体験用石臼	1	入間市博物館	主催事業「ALITお茶大学研究生コース」開催	7/11～7/26
27	レコード「あゝ振武軍」	1	「飯能の“みんよう”」保存会	資料として	7/13
28	須田省一郎家文書「万延二年酉年日記」	1	古文書同好会	コピー教材を原文書で確認	7/14
29	「聖天宮」など現地案内用A3パネル	6	飯能まちづくり推進委員会	まちづくり推進委員会まち案内	7/16～7/19
30	山川義太郎家文書「文政十二丑二月 十一月迄上州吾妻郡本宿村砥山仕入出入金帳」など	251	個人	研究	7/18
31	須田省一郎家文書「文久二年戌日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	7/18
32	山川義太郎家文書「文政十二丑二月 十一月迄上州吾妻郡本宿村砥山仕入出入金帳」など	1406	個人	研究	7/19
33	浅見讓二家文書「天保三年宗門人別書上帳扣」など	658	個人	研究	7/20
34	須田省一郎家文書「万延二年酉年日記」	1	古文書同好会	コピー教材を原文書で確認	7/21
35	浅見讓二家文書「天保三年宗門人別書上帳扣」など	1626	個人	研究	7/21
36	南村岡部家文書「武州秩父郡上吾野内中[]詰帳」など	1504	個人	研究	7/22
37	『飯能市土地宝典』など	2	個人	研究	7/22
38	写真「双木本家飯能焼コレクション 梅樹文壺」など	11	株式会社ブラネットライツ	月刊誌『男の隠れ家』10月号(8月27日発売)発行	7/24
39	図書『飯能地方のわらべうた』	1	個人	わらべうたの研究	7/28
40	天保十三年飯能村絵図レプリカ	1	飯能市立図書館	展示	7/31～8/8
41	図書『博物館経営論』	1	個人	研究	8/3～8/7
42	写真「久留里城風景の図」など	5	君津市立久留里城址資料館	平成30年度久留里城址資料館企画展の開催	8/4
43	図書『武蔵国郡村誌』など	5	個人	研究	8/6～12/22
44	堂ノ根遺跡・張摩久保遺跡出土遺物	5	個人	研究	8/9
45	16mmフィルム「遠足江ノ島安全週間永田道ぶしん」(丸中織物(株)制作)	1	藤沢市役所郷土歴史課	藤沢市の歴史研究	8/10

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
46	教科書「小学読本 巻一」	42	個人	東吾野小学校閉校記念誌発行	8/11
47	大久保久衛家文書「飯能郷土の誌」	1	個人	研究	8/16
48	井上章治家文書「天明四年午恐書付を以奉願上候」	1	個人	調査研究	8/18
49	護符「(白澤図)」	1	個人	研究	8/21
50	平沼宏之家文書「変事出来ニ付心得覚記」	1	個人	研究	8/22
51	写真「一丁目の山車建造時祝詞を宣る」など	3	一丁目囃子保存会	100周年記念誌発行	8/23
52	開眼薬師堂旧蔵木造薬師如来坐像	1	個人	調査	8/30
53	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」(コピー)	1	古文書同好会	複写	9/4
54	振武軍旗	1	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	特別展「幕末」(仮)調査	9/5
55	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	9/5
56	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	9/8
57	『飯能絹織物』	1	個人	調査	9/13
58	「総合学習ハンドブック①調べてみよう ふるさと飯能・加治」など	2	個人	大学のレポート作成	9/14
59	飯能市岩沢地内採集の石槍	1	岩宿博物館	第66回企画展「石槍」の開催	9/14～12/27
60	DVD「“みんな”」「南高麗小唄」物語」など	3	飯能の“みんな”保存会	飯能の“みんな”を楽しむ	9/28
61	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	9/29
62	特別展図録「飯能炎上」図11「飯能の「町」における戦いとその被害」	1	川越学舎	本会創立10周年記念誌(学習記録集)の発行	10/5
63	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	10/6
64	写真「久留里城風景之図」など	5	君津市立久留里城址資料館	平成30年度企画展「久留里藩の記憶と象徴の行方」に展示	10/10～12/2
65	脱穀機など	4	環境緑水課(はんのう市民環境会議)	はんのう市民環境会議谷津の里づくりプロジェクト脱穀作業	10/14
66	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	10/14
67	教科書『大むかしの人々』	1	個人	研究	10/14
68	森田永雲作お面	10	市民活動センター	平成30年度第48回飯能まつり展の開催	10/16～11/6
69	須田省一郎家文書「文久三年亥日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	10/17
70	CD「お手玉唄採録」	1	飯能まちなかを元気にする会	第3回飯能路地まつり「昔あそび・お手玉」開催	10/19～10/23
71	砲弾	1	個人	駿河台大学公開講座「彩・ふるさと喜楽学」	10/20
72	写真「飯能の西川材関係用具」集合写真(『飯能の指定文化財』掲載)	1	ふじ野市立大井郷土資料館	特別展「大地に生きる一埼玉県指定畑作用具の世界」開催	10/23～12/9
73	千歯こき	1	加治東保育所	脱こく体験	10/25～11/1
74	くるり棒など	3	飯能の“みんな”保存会	昔のくらしの資料	10/26
75	原市場役場文書「明治二十二～三十四年迄壮丁名簿」など	61	個人	研究(計量体格史)	10/28
76	写真「縄文土器 深鉢」	1	縄文ZINE編集部	「縄文ZINE」9号発行	11/1
77	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	11/3
78	レコード「西川音頭」など	3	飯能の“みんな”保存会	展示	11/9
79	写真「東飯能駅」など	5	飯能市上下水道部下水道課	はんのう生活祭出展にかかる写真パネルの展示	11/11
80	「飯能市史編さんだより」第24号など	2	個人	研究	11/15
81	「岩瀬村村誌」(コピー)	1	個人	岩瀬村の歴史調査	11/17
82	原市場役場文書「明治二十二～三十四年迄壮丁名簿」など	61	個人	研究(計量体格史)	11/18
83	半田実家文書「[相撲番付表]」	1	個人	幕末期の地域文化の運営に関する研究	11/18
84	写真「振武軍旗」	1	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	『特別展 激動の幕末 in 練馬』図録作成	11/21
85	開眼薬師堂旧蔵木造薬師如来坐像	1	入間市久保稲荷公民館	仏像鑑賞講座入門編で熟覧	11/21
86	軍服など	7	自由の森学園高等学校	社会科の授業	11/22～12/5
87	須田省一郎家文書「文久二年戊日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	11/24

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
88	中村正夫家文書「乍恐以書付奉願上候」など	9	個人	卒業論文作成	11/28
89	南村岡部家文書「乍恐以返答書奉申上候」など	283	個人	調査研究	11/28
90	白子村中村武雄家文書「死体投棄届」など	218	個人	調査研究	11/29
91	レコード「白ひき唄」など	4	飯能の“みんよう”保存会	資料	11/30
92	平沼宏之家文書「古今稀成年代記」など	3	東村山ふるさと歴史館	古文書パス見学実施	12/1
93	原市場役場文書「明治二十二～三十四年迄壮丁名簿」など	61	個人	研究	12/2
94	浅見譲二家文書「武州高麗郡原市場村申御繩打水帳 七冊之内 深谷喜右衛門」など	38	個人	研究	12/6
95	須田省一郎家文書「文久三年亥日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	12/8
96	原市場役場文書「明治二十二～三十四年迄壮丁名簿」など	61	個人	研究	12/9
97	原田雅義家文書「明和五年小作證文之事」など	13	個人	卒業論文作成	12/13
98	女物給長着	1	「飯能の“みんよう”」保存会	子の山近くの人たちの“はたおり”学習	12/14
99	須田省一郎家文書「文久四年甲子日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	12/19
100	羽子板など	4	市民活動センター	お正月展開催	12/20～1/17
101	須田省一郎家文書「文久三年亥日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	12/22
102	写真「トチ」など	39	飯能市教育センター	平成31・32年度版社会科副読本「はなのうし」の制作	12/26
103	写真「振武軍旗」など	3	深谷市渋沢栄一記念館	尾高惇忠生家を紹介するDVDの制作	12/27
104	田中鎮次家文書「母病気の為心ならず御無沙汰ニ付詫状」	1	熊谷市教育委員会	『熊谷市史資料編8近代・現代3(妻沼地域編)』の発行	1/5
105	須田省一郎家文書「文久三年亥日記」など	2	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	1/9
106	ひな御殿など	2	絹甚運営委員会	飯能ひな飾り展の開催	1/9～4/3
107	振武軍旗	1	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	特別展「激動の幕末in練馬」開催	1/18～3/21
108	写真「吾野駅周辺の土砂災害」	1	JSL株式会社	所沢市教育委員会発行社会科副読本「わたしたちのまちとところざわ」発行	1/22
109	図書「名栗の伝説」など	2	テレビ朝日	テレビ朝日「帰れマンデー見つけ隊!!」番組制作	1/23
110	須田省一郎家文書「文久四年甲子日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	1/25
111	写真「中藤中郷のソリ道」など	7	生涯学習課	文藝飯能第39号発行	1/29
112	写真「飯能町大通り」	1	個人	百年未来パンフレット製作	1/29
113	糸車	1	加治東小学校	国語学習「たぬきの糸車」(1年生)の体験資料として	1/30～2/13
114	黒電話など	4	原市場小学校	授業の教材	2/1～2/22
115	写真「加藤木材店での製材作業」など	3	テレビ朝日	テレビ番組「帰れマンデー見つけ隊!!」制作	2/11
116	須田省一郎家文書「文久四年甲子日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	2/16
117	須田省一郎家文書「慶應二年寅歳日記録」など	8	古文書同好会	コピー教材に欠落頁が無いかを確認	2/20
118	写真「高麗人が携えてきた土器」	1	埼玉新聞社	埼玉新聞企画「地名は語る」上(3回続き)	2/20
119	須田省一郎家文書「元治二年丑日記」など	2	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	2/20
120	須田省一郎家文書「文久四年甲子日記」	1	古文書同好会	コピー教材の不鮮明箇所を原文書で確認	2/23
121	須田省一郎家文書「元治二年丑日記」(コピー)	1	古文書同好会	古文書学習教材の作成	2/27
122	須田省一郎家文書「元治二年丑日記」など	2	古文書同好会	日記原本の体裁(年度途中で別冊に?)を確認	3/7
123	長着など	10	「飯能の“みんよう”」保存会	織物で栄えたまちの歴史を伝える	3/8～3/9
124	レコード「飯能よいとこ」など	2	「飯能の“みんよう”」保存会	みんようの冊子作成	3/13
125	写真「宮寺与七郎宛北条氏照判物」(大江家文書)など	4	青梅市郷土博物館	企画展「甲冑武具展」開催	3/22
126	都市計画課文書「トーベ・ヤンソン書状」など	3	株式会社ハウフルス	5/4(土)放送のテレビ東京系列「出没!アド街ック天国」制作	3/23
127	図書「飯能の伝説」など	5	個人	研究	3/23
128	図「昭和11～12年頃の飯能駅前」(常設展示ガイドブックp.43)など	3	(株)柏書房	書籍『娯楽する郊外』刊行	3/27

合計 6,675点

施設の利用

市民の学習サークル活動による利用回数、人数は減少傾向 市民の学習活動支援のあり方は大きな課題に

飯能市立博物館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を博物館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成30年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室の利用状況を把握するため、目的により以下の4つに分類した。

- ①地域の歴史や地域文化に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどへの貸出（「恒常的活動」）
- ②市内の小学生や市外からの団体の見学、視察の対応や資料の閲覧（「見学・閲覧」）
- ③市役所内各課の事業での使用（「他団体の主催事業等」）
- ④当館主催の講座・学習会、市民学芸員といった交流事業など（「当館の主催事業」）

これらの件数と人数を集計したのが下の表である。

社会教育機関としては、学習サークルによる恒常的な学習活動が多様に展開されることが望ましく、その育成、支援も重要な役割であるが、その利用回数・人数は、ここ数年漸減傾向にある。また平成30年12月には、平成7年1月以来23年間にわたって活動を続けてきた石仏談話会が会員減少などの理由で解散している。

自主的な学習活動を展開するサークルの衰退は、学習者の交流機会が減少することでもあり、地域文化発信の核をめざす当館としては、見過ごせない課題といえる。戦後の社会教育活動を担ってきた学習サークルという形態が現代の情報社会において適当かどうかも含め、市民の学習活動支援のあり方を真摯に模索していくべき時を迎えているといえよう。

なお、当該年度の学習研修室の利用率（日単位）は65.9%であった。この値は、平成25年度からの直近6年間の利用率の平均とほぼ同じである。

◆平成30年度学習研修室利用実績

利用種別	年度		平成28(2016)年度		平成29(2017)年度		平成30(2018)年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数		
団体等の利用	①恒常的活動（学習サークル）	68	1,151	15	303	61	1,185	
	②見学・閲覧	22	107	2	3	26	188	
	③他団体の主催事業等	10	199	2	18	18	323	
	小計	100	1,457	19	324	105	1,696	
④当館の主催事業	140	1,681	17	105	122	1,522		
合計	240	3,138	36	429	227	3,218		
年間利用日数	223日		33日		195日			

◆平成30年度末現在で活動している学習サークル

団体名	会員数	活動日	目的	代表者名	設立
古文書同好会	20	毎月第1・第3土曜日 第2金曜日	飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及び活字化	中里和夫	平成3(1991)年4月
多聞の会 (仏教美術学習会)	14	毎月第3木曜日	仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。	綾部光芳	平成6(1994)年11月
飯能郷土史研究会	65	年6回の例会	郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。	大野亮弘	昭和48(1973)年7月
飯能の“みんよう”保存会	22	毎月第1・第4金曜日	民謡をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。	石井英子	平成8(1996)年

レファレンスの対応

レファレンス対応件数はこれまでで最高の359件を記録！
リニューアルによって自然分野が加わったことが要因と考えられる

レファレンスの件数は、博物館が保有している情報の多さと実物等資料、複製等資料のほか図書や地域の情報まで含まれる資料の多彩さ、そして学芸員に対する信頼の証と考えられる。

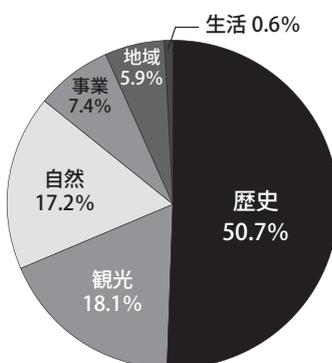
今年度のレファレンスサービスの件数は、窓口・電話・E-mail合わせて337件である。そのほか、調査が必要で回答に時間がかかった場合に記録している「レファレンス対応記録票」の件数が22件あるので、実数としては359件となる。これは、これまで最も多かった平成27年度の260件に比べ38%増加したことになる。右表に示したとおり、当該年度の自然に関するレファレンスの件数は大幅に増えており、地域についての問合せの25%に達した。リニューアルオープンによって当館周辺の自然分野も扱うようになったことで、全体の件数を押し上げていることがわかる。

内訳は、窓口が284件、電話が62件、メールが13件である。メールの件数は着実に増えていることから当年度から別立て集計することとした。

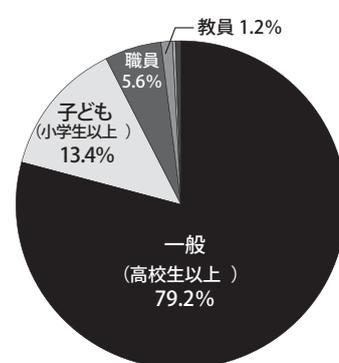
また内容、照会者ごとの内訳は、上のグラフの通りである。ただしこれにはレファレンス対応記録票の件数は加えていない。

当館では、ミッションに「[学び]の入口となる博物館」を掲げ、「学び」への欲求に応え支援していくことを目指している。レファレンスサービスはその個々の求めに直接応えていくものであり、それによって利用者の満足度を高め、博物館への親しみや信頼性を高めていきたい。

内容別



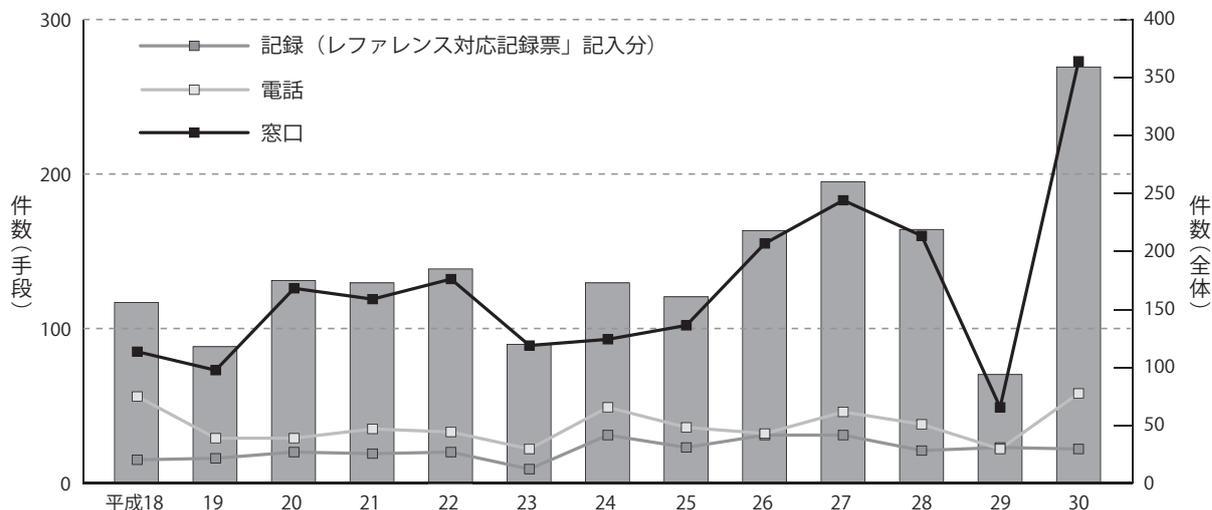
照会者別



◆地域についてのレファレンス・歴史と自然の割合推移

年度	歴史		自然		合計(件数)
	件数	割合	件数	割合	
平成27(2015)	172	95.6%	8	4.4%	180
平成28(2016)	124	86.7%	19	13.3%	143
平成29(2017)	61	98.4%	1	1.6%	62
平成30(2018)	171	74.7%	58	25.3%	229

平成18～30年度レファレンス対応件数の推移



講師派遣

講師派遣の件数、受講人数ともに前年度より減少し、増加傾向にひと区切り

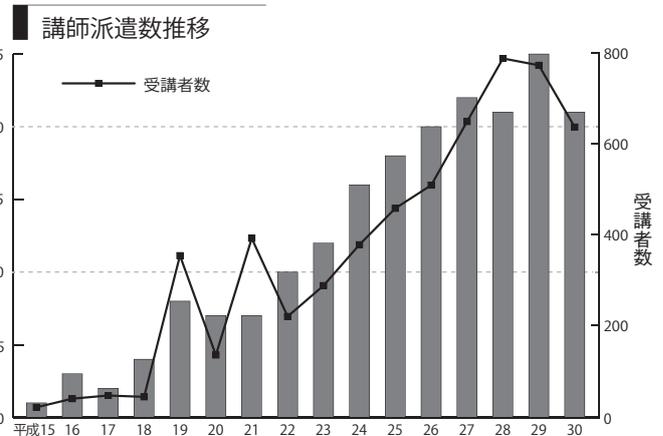
当館には、市内の自治会や学習団体をはじめ、市役所の各機関などから講師派遣や原稿執筆の依頼がある。こういった講師派遣の件数や依頼内容も、地域の文化・歴史を調査研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターの一つといえる。平成30年度は、前年度と比較し件数、受講者数ともに減少した。

またこの事業はこれまで来館経験のない市民に対し当館の存在を知ってもらうよい機会ともなっているので、受講者に占めるその割合（もしくは人数）も成果指標として加えるべきかもしれない。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項（43P）に掲載した。



六道自治会・六親会出前講座（危機管理室と共催）
「自然災害に備える」(No.13)



◆平成30年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	4/5(木)	14:30~16:25	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「職員として知っておくべき飯能の地理と歴史」	新規採用職員	16	飯能市役所本庁舎	尾崎
2	4/6(金)	13:15~15:10	(株)加藤建設工業	出前講座「飯能の地理と歴史」	新入社員ほか	10	(株)加藤建設工業本社	尾崎
3	4/15(日)	16:35~17:10	飯能市エコツアーリズム市民ガイドの会	出前講座「飯能市立博物館の使い方」	飯能市エコツアーリズム市民ガイドの会会員	20	富士見地区行政センター	尾崎
4	4/21(土)	15:00~16:30	飯能郷土史研究会	総会講演会「飯能市立博物館のリニューアル」	飯能郷土史研究会会員	33	当館学習研修室	尾崎
5	4/24(火)	10:00~11:30	出前講座で学ぶ会	出前講座で学ぶ会出前講座「武蔵野鉄道開通」	講座参加者	11	当館学習研修室	尾崎
6	4/26(木)	16:00~17:00	人間地区社会教育指導員連絡協議会	全体研修会「武蔵野鉄道の開通」	参加者	17	飯能市役所本庁舎別館	尾崎
7	5/19(土)	9:00~11:35	飯能中央公民館	飯能を知るウォーク「SAMURAI SPIRITS in 飯能」(武士の足跡をたどる)	講座参加者	24	当館・現地	尾崎
8	7/18(水)	13:30~16:00	埼玉県博物館連絡協議会	前期研究会・見学会「飯能市郷土館から飯能市立博物館へ」	加盟館職員	35	当館学習研修室	尾崎
9	8/4(土)	17:00~18:00	自治連南高麗支部	出前講座「土砂災害の現状と日頃の備え」(危機管理室と共催)	南高麗地区自治会長	22	清河園	尾崎
10	10/16(火)	10:10~12:00	持ち寄りサロン	出前講座「土砂災害の現状と日頃の備え」(危機管理室と共催)	講座参加者	29	当館学習研修室	尾崎
11	10/18(木)	13:40~14:30	埼玉県地域史料保存活用連絡協議会	主管課長研修会「自治体史編さんから博物館のリニューアルへ」	参加者	16	市民会館会議室202	尾崎
12	10/20(土)	14:00~15:00	飯能市退職校長会	「天覧山・多峯主山の自然」	退職校長会会員	23	当館学習研修室	長谷川
13	11/3(土)	14:10~15:50	六道自治会・六親会	出前講座「自然災害に備える」	参加者	26	旧岩沢北部区画整理事務所	尾崎
14	11/4(日)	9:05~14:00	日野ボルクス	天覧山・多峯主山自然散策ガイド	参加者	26	当館・現地	長谷川本橋
15	11/5(月)	13:35~14:35	飯能市老人クラブ連合会	出前講座「過去の災害からの教訓」	参加者	50	総合福祉センター	尾崎
16	11/29(木)	9:00~12:00	加治東公民館ほか	加治ふるさとハイキング「天空の城「リュウガイ城」を訪ねて」	参加者	19	現地	尾崎
17	12/8(土)	8:30~12:30	原市場地区体育協会 原市場地区行政センター	第5回キッズ&ファミリーウォークin原市場(リュウガイ城跡の見学)	参加者	171	現地	尾崎
18	12/19(水)	11:00~12:05	前田あさひ会	出前講座「飯能戦争について」	前田あさひ会会員	19	前田自治会館	尾崎
19	2/16(土)	10:00~11:50	自治連名栗支部	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と共催)	参加者	17	名栗地区行政センター	尾崎
20	2/17(日)	16:30~17:40	矢嵐自治会 自主防災会	出前講座「自然災害に備える」(危機管理室と共催)	矢嵐自治会自主防災会会員	25	矢嵐自治会館	尾崎
21	2/23(土)	13:30~15:30	生涯学習課	文化財めぐり「渋沢平九郎と飯能戦争」(講義)	参加者	28	飯能市役所本庁舎別館	尾崎

合計のべ人数 637人

当館の資料収集は、そのほとんどが市民からの寄贈によるものである。寄贈の申し出をいただいた場合、その資料を一度実見し、当館の収集方針に照らして受領するかお断りするかを判断している。当年度は50件の寄贈を受けた。

また、本市域の歴史や文化に関わる資史料のうち、特に貴重なものの劣化・散逸を防ぎ、後世に伝えていくため、所有権を所蔵者に残したまま当館でお預かりする寄託も行っている。当年度5件の寄託を受け入れ、受託資料は63件となった。受託期間は原則2年間である。

寄 贈 資 料

◆平成30年度寄贈資料一覧

(敬称略)

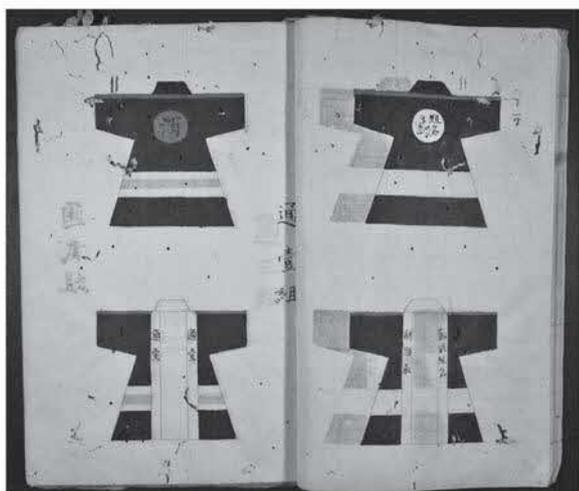
番号	資料名	点数	寄贈者名
1	図書『森からの手紙』など	23点	原田 恵子
2	図書『吉田靖著作集』『中山から生まれた飯能の歴史』	3点	吉田 靖
3	図書『北武蔵の和算家』	1点	山口 正義
4	図書『知って楽しい エコツーリズムのまち飯能』	2点	飯能市エコツーリズムの会 「エコツーリズムのまち飯能」編集会議
5	古文書・典籍など	63点	飯能市立東吾野小学校
6	手ぬぐい	1点	大久保 よ志子
7	リーフレット「鳶平(飯能)市民野営場」	1点	牛米 努
8	古文書	5箱	小能 啓佑
9	手ぬぐい	2点	佐野 繁
10	図書『川越の自然を訪ねて きのご編』『かわごえ環境活動報告書』	2点	かわごえ環境ネット
11	図書『「帝王切開術発祥の地」記念会誌』	1点	岡部 常高
12	「武運長久」国旗	1点	五十嵐 勉
13	古文書、飯能焼など	1式	嶋崎 友子
14	図書『あまがえるのかくれんぼ』『せみのこえ』	2点	川島 春子
15	図書『飯能の宝もの 飯能の山峡に歴史を訪ねる散歩道』	2点	石井健祐・相楽金志
16	飯能駅前通り線写真フィルム・東飯能駅写真フィルムなど	181点	飯能市役所まちづくり推進課
17	図書『山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花①』など	16点	山下 裕
18	高札(明和7年4月)	1点	丸田 芳一
19	本邦帝王切開術発祥の地記念碑除幕記念切手	2点	本橋 和夫
20	古文書	1箱	井上 貢一
21	木杯・提灯	2点	嶋崎 季子
22	図書『小学館の図鑑 NEO23 DVDつきイモムシとケムシ チョウ・ガの幼虫図鑑』	1点	原田 恵子
23	古文書	7箱	小島 宏之
24	図書『飯能スケッチ帖まちなか編2006-2016』	1点	根立 隆
25	額(飯能銘仙)・蚕盆など	1式	岩崎 良子
26	教科書『ヨミカタ一 ネン上』など	4点	小高 善吉
27	絵葉書「みんなが選んだ飯能十景」など	3点	菊池 好太郎
28	図書『川越の自然を尋ねて きのご編』	1点	かわごえ環境ネット
29	図書『飯能一丁目囃子保存会百周年記念』	1点	飯能一丁目囃子保存会

番号	資料名	点数	寄贈者名
30	図書『我野 ピンホールカメラが捉えた故郷』	1点	田嶋 晴美
31	図書『歌集 檜山路』	1点	原田 恵子
32	図書『一橋藩の農兵隊と高麗郡の村々』	2点	浅見 徳男
33	古文書	64点	安井 智幸
34	メガホン、消止札	3点	飯能消防団
35	板碑	22点	梶田 文明
36	図書『飯能市立吾野小学校閉校記念誌』	1点	飯能市立吾野小学校
37	西川小・吾野中学校合同閉校式、西川小閉校記念行事写真データ(CD)	1点	萩原 昭平
38	図書『東京江戸名所往来』	1点	小池 龍太郎
39	図書『飯能博物誌 第5集』	1点	穂波 理枝
40	写真、古文書など	1式	岩崎 良子
41	図書『キンダーブック3月すきま号 しぜん さとやま』	1点	かわしま はるこ
42	切符(人間馬車鉄道)	1点	白井 亮一
43	図書『吾野小学校閉校記念誌』	5点	東吾野小学校閉校記念事業実行委員会
44	古文書	2単位	小能 啓佑
45	「飯能名勝絵はがき」	1組	牛米 努
46	図書『飯能高等女学校卒業記念写真帖』	1点	高林 広子
47	旗「吾那青年学校」など	4点	飯能市立吾野中学校
48	学校写真アルバムなど	1式	飯能市立東吾野小学校
49	図書『災害アーカイブ』など	2点	白井 哲哉
50	節句人形、古文書	1式	井上 貢一

購入資料

平成30年度に下記の資料を購入した。

- ①(資料名)『改正補訂地方凡例録』(明治4年刊) 10巻20冊 たて18.2cm×よこ12.5cm
- ②(資料名)明治21年1月「消防組規約并人名簿」 たて24.5cm×よこ17.5cm



「消防組規約并人名簿」(購入資料②)

飯能町通壹(一丁目)消防組によって作成されたもので、飯能町の消防組規約や通壹消防組の幹部及びその役割などが記される。「規約」から飯能町消防組が原組78名、通壹組64名、通貳組63名、通三組80名、宮本組65名、河原組66名、本郷組48名の七組464名からなっていたことがわかる。また、消防夫が着用する半纏のデザインが、頭取・副頭取のほか各組それぞれ色付きで描かれており、さらに「纏」や「鳶」などの役割を担う人物には原籍と生年月日が記され、商店主の履歴がわかる点からも資料的価値は高い。

整理（情報化）

整理資料は251点にとどまる。民具・古文書は目標にも達せず、大きな課題に！

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々な「モノ」は、そのままでは博物館の資料とはなりません。整理とは、資料について価値ある情報を抽出し博物館資料として利用可能なものとする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。

当館では、紙媒体の資料カードを基本とし、それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段としていたが、平成29年10月より早稲田システム開発株式会社が提供する館内案内システムを含むクラウド型収蔵品管理システム「I.B.Museum Saas」を導入した。今のところ紙媒体の資料カードは従来通り作成する予定であるが、既に当館で既存のデータベースソフトを使って管理している文書や写真資料以外は、このシステムによる収蔵資料管理へと移行することになる。

また、当館では飯能河原・天覧山周辺の自然に関するビクターセンター的機能に関しては、標本類は原則収集しないことになっており、資料は写真が中心となる。これについても収蔵品管理システムによる管理となる。

なお、当館ではここ数年重点施策のひとつに収蔵資料の整理を挙げ、整理点数を達成指標として積極的に取り組んでいる（14P「平成30年度の重点施策とその評価」参照）。

●資料整理の概要

①民具

民具の場合、受け入れ台帳に登録されて資料番号が与えられる。そして資料カード（B5版）には、資料名・寄贈者氏名・住所・寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報が記録される。

民具については、新収蔵資料48点の整理を行った。また平成28年度より一般収蔵庫内の資料の確認と棚の清掃及びデジタルカメラでの資料撮影を開始し、今年度は300点を達成指標に設

◆平成30(2018)年度別文書整理実績

史料群名	整理点数	新・再	受入年度
平成29年度購入文書	1	購	平成29(2017)
山崎真実子家(阿須)	4	新	平成27(2015)
柳澤陽子家(山手町)	1	新	平成27(2015)
町田重雄家(下名栗)	1	新	平成26(2014)
深野英治家(岩淵)	2	新	平成27(2015)
原市場地区行政センター	2	新	平成27(2015)
糠信兌家(双柳)	1	新	平成27(2015)
地方創生推進室	2	新	平成29(2017)
高野博光家(さいたま市)	1	新	平成26(2014)
精明地区行政センター	1	新	平成26(2014)
西武鉄道株式会社	12	新	平成27(2015)
嶋崎博家(笠縫)	1	新	平成27(2015)
佐野敏夫家(久下分)	1	新	平成27(2015)
佐藤美知男家(世田谷区)	8	新	平成27(2015)
小島満也家(落合)	1	新	平成27(2015)
久米幹男家(横浜市)	7	新	平成27(2015)
菊池好太郎家(本町)	9	新	平成27(2015)
小槻成克家(本町)	1	新	平成27(2015)
小高善吉家(双柳)	71	新	平成27(2015)
大矢京家(南町)	11	新	平成27(2015)
新井一家(日高市)	1	新	平成27(2015)
朝日昌子家(下直竹)	1	新	平成27(2015)
合計	140		

◆当館収蔵資料の概要と点数

種別	資料の概要	収蔵点数
民具 (民俗資料)	人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具で、埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」などがある。他の分類に属さない資料もここに含めている。	5,832
古文書	紙に文字、記号、図像などが記録されている資料、典籍含む。ただし護符は民具に分類されている。	52,580
古写真	台紙付写真、紙焼き写真。個人や機関所蔵写真の複写物も含む。	6,098
絵画	軸装、額、屏風などに仕立てられた日本画及び白木正一、早瀬龍江、富山芳男、内田晃、小島喜八郎など本市に在住もしくはゆかりのある画家の油彩、デッサンなど	447
工芸	飯能焼(市指定文化財双木本家飯能焼コレクションなど)、刀剣、金工など	277
文学	詩人蔵原伸二郎、俳人石田波郷らの直筆短冊、軸装など	29
考古	飯能焼原窯表採資料、板碑など	1,764
映像	本市の機関が製作した映像作品のほか当館の調査や事業の記録映像など	275
音声	レコード及びテープ、CD	1,014
図書	他の博物館が発行した図録、報告書、要覧のほか自治体史、本市の行政刊行物など。図書室に開架している一般書も含む。	17,902
合計		86,218

*収蔵資料点数は、平成31年3月現在のカード作成もしくは目録登録済の点数。「絵画」は、絵画と古美術、「音声」は、レコードとテープ・CDを合わせた点数である。

定したが、実施できたのは187点にとどまった。

②古文書(典籍含む)

当館の古文書・典籍用の資料カードは、縦8.3cm、横12.7cmのもので、そこに史料群名・年代・表題・作成者・宛所・形態・劣化状況・史料の内容などを記している。カードに採録された情報は、データベースソフト(マイクロソフト社のアクセス)に入力され、目録が出力されることになる。また、それと並行して適宜、中性紙封筒、中性紙保存箱への詰め替えも行っている。

平成30年度は、53Pの表にあるとおり近年受け入れたものを中心に22の史料群、140点を整理した。達成指標を300点としたので、大きくそれに及ばなかった。

③古写真

写真資料も②と同様に所蔵者(旧所蔵者)を単

位に資料番号を与え、カード(A4版)には所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。

当該年度は、20点の達成指標に対し63点のカードを作成した。



資料カードが収納されている整理室のキャビネット

●資料の保全

①映像資料のメディア変換

前年度に続き、VHSやベータなど磁気テープに記録された映像記録30本のデジタル化(メディア変換)を、株式会社金聖堂情報システムに委託して行った。内訳は右表のとおりである。

利用と保存の両面に配慮し、閲覧用・保存用DVDを別々に作成し、保存用はバックアップ用としてハードディスクにも書き込んだ。

②日本刀の手入れ

工芸品のうち、収蔵・寄託されている日本刀は、年に1回油をぬぐって錆やキズなどがいないかを確認し、再び油をひく作業を行っている。当年度は7月2日に実施した。

◆平成30年度メディア変換した映像資料一覧

No.	タイトル	ビデオ種類
1	ひなまつり展 (1)展示風景	S-VHS
2	ひなまつり展 (2)展示風景	S-VHS
3	ニュースファイル(テレビ飯能) 特別展「絹は語る」・ミニ特別展「ひなまつり」	S-VHS
4	ニュースファイル オープニング&写真にみる幕末・明治	S-VHS
5	ニュースファイル(テレビ飯能)「絵図からの伝言」「飯能の広告展」	S-VHS
6	テレビ飯能ニュースファイル「飯能焼展」	S-VHS
7	テレビ飯能 特別展「ジャパン・マイセン人形展」	S-VHS
8	第235回ニュースファイルトピックス「郷土館特別展 猫・ねずみ 絵ぞうし展」	VHS
9	特別展「飯能の刀匠」記録ビデオ	VHS
10	「富山芳男寄贈作品展」会場において	VHS
11	講演会「飯能文化発行のころ」-1-	S-VHS
12	講演会「飯能文化発行のころ」-2-	S-VHS
13	収蔵品展講演会「蔵原伸二郎と飯能」 町田多加次氏	VHS
14	収蔵品展講演会「平山蘆江と飯能」 森 和夫氏	VHS
15	「八王子車人形飯能公演」飯能市市民会館大ホール	S-VHS
16	飯能市・名栗村合併記念式典 飯能市市民会館	VHS
17	あけぼの子どもの森公園秋・冬 2004・2005	VHS
18	平成7年度飯能大河原地区防災調節池(トンネル)工事記録	VHS
19	飯能大河原地区防災調節池トンネル工事貫通式典記録	S-VHS
20	平成4年度飯能大河原地区事業記録	VHS
21	飯能ビッグヒルズ	VHS
22	美杉台現況空撮Z①飯能	VHS
23	美杉台現況空撮Z②飯能	VHS
24	平成5年度ビッグヒルズ事業記録 ダイジェスト	VHS
25	平成6年度ビッグヒルズ事業記録 ダイジェスト	VHS
26	平成8年度ビッグヒルズ事業記録 ダイジェスト	VHS
27	平成9年度ビッグヒルズ事業記録 ダイジェスト 飯能大河原地区工事	VHS
28	「ビッグヒルズ」飯能ケーブルテレビ 平成5夏	VHS
29	記録シリーズ第3集 「おまつり編の1」昭和47、48、57年	VHS
30	小林聡記録シリーズ第4集 「街の出来事 その1」	VHS

保存

●新収蔵資料の燻蒸

当館では、新規に収集した資料を対象としビニールシートで覆う被覆燻蒸を年1回実施している。場所は荷解室である。

平成30年度は6月25日(月)午前11時から投棄を開始し、27日(水)午前11時までの48時間燻蒸処理をし、その後排気した。使用薬剤はエキヒュームSで、有限会社環境技術に委託して行われた。燻蒸に続き高圧電気ケーブル交換工事も行ったため、6月26日(火)から7月7日(土)までを臨時休館とした。

また、名栗民俗資料保管庫(旧名栗村森林組合事務所)では、ブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。9月24日(月)午前10時30分から噴霧を

始し、4時間充填放置したのち排気を行い、午後4時に終了した。



燻蒸後のガス残留濃度確認

●当館・名栗村史史料保管室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、昆虫生息調査55ヶ所(歩行性昆虫トラップ48・飛翔性昆虫トラップ7)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史史料保管室では、昆虫生息調査12ヶ所(歩行性昆虫トラップ10・飛翔性昆虫トラップ2)、空中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が2ヶ所である。

平成30年度は1回目を6月1日(金)から6月20日(水)まで、2回目を9月7日(金)から9月26日(水)

までの期間で実施した。

1回目の調査では、ステッキートラップ(歩行性昆虫を捕獲する床置き式粘着トラップ)により、チャタテムシが学芸研究室で、メイガが図書室と「飯能と西川材」コーナーで確認された。また2回目では、ステッキートラップによりチャタテムシが一般収蔵庫で、タバコシバンムシが整理室、荷解室、収蔵庫前室で確認された。また、シバンムシは飛翔性昆虫用のフェロモントラップでも荷解室で捕獲された。

これらの場所について経過観察を行ったが、資料への被害は確認されなかった。

●歴史公文書の収集と保存

当館では、飯能市文書管理規則第34条及び飯能市教育委員会文書管理規程第2条に基づき、廃棄対象となった公文書のうち、歴史資料として重要と評価した文書の収集を行っている。

当年度は、各所管課で廃棄決定された文書の選

別作業を2月25日(月)から3月11日(月)にかけて実施し10日間で79箱分(L4箱・S75箱)を収集した。廃棄文書に対する比率は4.8%であった。選別した文書は、旧図書館の地下書庫へ移動させた。

調査研究

当館ミッションでは、「飯能のあらたな魅力に出会える博物館」を目指し、資料の収集・保存及び調査研究活動により地域の新たな魅力の発見に努め、人々の好奇心に応えていくとしている。調査研究活動は、まさにその核となるものであるが、今のところ特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的なものにとどまっている。本来なら、中長期的な事業計画の視点、あるいは地域課題の観点から調査・研究のテーマが設定されるべきであり、それを着実に積み重ねていくことが、当館の存在意義を示すことにつながるはずである。

平成30年度は、資料寄贈に関わるものとして昔の生活道具や古文書などの調査を15件行った。また飯能戦争などの地域の歴史や文化に関わる調査を7件、古文書所在確認調査を1件実施した。その他、特別展開催にかかり、下記のとおり特別展「吾野」や市内大字虎秀に伝来する説経節の片瀬人形調査も行った。

特別展に関する調査

○特別展「吾野」

(平成29年度)

6/8 学習院大学史料館

3/17 吾野地区巡見(坂元～南川)

(平成30年度)

4/9 吾野地区巡見(北川～坂石町分)

6/15 吉田石間交流学習館・井上伝蔵邸ほか(秩父市)

6/19 岡部家(南川)

6/22 岩田家(高山)

6/26 旧北川小・南川小

6/27 旧高山小・旧坂石小

6/28 栗原家(長沢)

6/29 本橋家(坂元)

7/4 埼玉県立文書館

7/5 越生町役場・法恩寺

7/11 秩父神社

7/20 埼玉県立文書館

7/26 埼玉県立文書館

8/15 埼玉県立歴史と民俗の博物館

8/17 南川の獅子舞(花桐諏訪神社)

8/18 北川の獅子舞(岩井沢観音堂)

8/19 北川の獅子舞(藤原・喜多川神社)

8/21 (株)ワンビシアークाइブズ(寄居町)

8/25 入間市博物館



秩父神社(秩父市)

○特別展「説経節」(仮)

5/9 資料調査(当館)

5/10 資料調査(当館)

12/7 落合家(虎秀)

12/12 落合家(虎秀)

古文書詳細調査

当館では、平成16年度から21年度にかけて飯能市教育委員会で行われた古文書所在確認調査を引き継ぎ、その補足調査や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して関係史料の調査を行ってきた。

当該年度は、地方史料調査会と合同で大字坂元(旧武蔵国秩父郡坂元村・櫛平)に所在し、当館に

寄託されている采澤菊平家の文書調査を9月1日(土)・2日(日)及び3月23日(土)・24日(日)の2回実施した。

また、前年度に引き続き池田昇氏(元日の出町史編さん担当職員)にお願いし、受託史料である武蔵国高麗郡唐竹村鈴木家文書及び秩父郡高山村岩田家文書の整理及び内容分析を行った。

自然調査

当館では、利用者に自然情報を発信するために、天覧山・多峯主山の定期調査を行っている。

自然の場合、四季の移り変わりを確認するため、調査頻度はNPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会が実施しているモニタリングサイト1000里地調査の参加を含めて、1ヶ月に2回程度を目安とした。調査対象は主に植物相(維管束植物)とし、その開花・結実情報を集めた。



自然調査風景

◆平成30年度自然調査一覧

回	日にち	コース	目的
1	4/5	A諏訪沢入り～B谷津田	定期
2	4/6	B天覧入り～B谷津田	自然観察会
3	4/13	D本郷入り～E本郷・御嶽入り境	定期
4	5/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
5	5/16	B天覧入り～B谷津田	植物・夏編
6	5/25	F御嶽入り～A諏訪沢入り	定期
7	6/1	E本郷・御嶽入り境～A諏訪沢入り	定期
8	6/14	C天覧・本郷入り境～B谷津田	定期
9	6/20	B天覧入り～D本郷入り	植物・夏編
10	7/3	A諏訪沢入り～F御嶽入り	定期
11	7/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
12	7/13	飯能河原	散策マップ
13	7/18	B天覧入り～E本郷・御嶽入り境	植物・夏編
14	8/3	D本郷入り～B谷津田	定期
15	8/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
16	8/14	B天覧入り～B谷津田	植物・夏編



自然調査・調査区図

回	日にち	コース	目的
17	8/23	F御嶽入り～C天覧・本郷入り境	定期
18	8/29	A諏訪沢入り～B谷津田	植物・秋冬編
19	9/6	B天覧入り～D本郷入り	植物・秋冬編
20	9/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
21	10/3	A諏訪沢入り～D本郷入り	定期
22	10/3	天覧山	タカの渡り
23	10/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
24	10/17	B天覧入り～F御嶽入り	植物・秋冬編
25	11/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
26	11/17	天覧山	モニタリング1000
27	11/22	B天覧入り～D本郷入り	植物・秋冬編
28	11/30	E本郷・御嶽入り境～D本郷入り	定期
29	12/5	A諏訪沢入り～C天覧・本郷入り境	定期
30	12/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
31	1/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
32	2/5	F御嶽入り～D本郷入り	定期
33	2/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
34	2/14	B天覧入り～E本郷・御嶽入り境	植物・春編
35	3/8	A諏訪沢入り～B谷津田	植物・春編
36	3/11	B天覧入り～A東谷津トラスト地	モニタリング1000
37	3/19	A諏訪沢入り～B谷津田	植物・春編

調査方法は、モニタリングサイト1000里地調査マニュアル植物相(Ver.3.1)で使用しているトランセクト法とした。調査コースは、A諏訪沢入り、B天覧入り、C天覧・本郷入り境、D本郷入り、E本郷・御嶽入り境、F御嶽入りの6つとし、さらに植生や景観の違いから区分けした。各区ごとに植物相を調査用紙に記入し、成長段階(蕾、花、花終わり、実、種)も観察し、群生であった場合は特記した。また、確認した種は全体や部位の拡大などその種の特徴がわかるように写真撮影を行った。

当該年度は表のとおり37回実施した。なおモニタリング1000里地調査の対象は、11月17日のカヤネズミを除きすべて植物である。



自然調査風景

研究紀要第1号(通算9号)の刊行

研究紀要は地域の歴史・民俗・考古及び当館周辺の自然に関する調査・研究の成果等をまとめたもので、当館では隔年の発行となっている。執筆は当館学芸員だけでなく、教育委員会生涯学習課文化財担当職員や当館の収蔵資料の調査を行っている研究者などにも広く依頼している。

平成31年3月に発行された、飯能市立博物館としては最初の研究紀要(通算9号)の内容は以下のとおりである。本号には、駿河台大学メディア情報学部教授の野村正弘氏、ヴィジュアルフォークロアの遠藤協氏の玉稿2編を収録した。

◎飯能市立博物館研究紀要第1号(通算9号)の内容

タイトル	著者	ページ
CCD搭載の旧型デジタル一眼レフカメラを使用した墨書の赤外線撮影	野村 正弘 (駿河台大学メディア情報学部教授)	5～10
「落合西光寺双盤念仏」映像記録製作事業について —ディレクターの立場による覚書—	遠藤 協(ヴィジュアルフォークロア)	11～17
智観寺中山家墓域の形成過程	尾崎 泰弘(当館館長)	18～34
中藤中郷自治会文書から見えてくる高麗(入間)郡中藤村(下) —中郷を中心とした近世後期～近代—	池田 昇(当館古文書詳細調査員)	35～55

ホームページ・ソーシャルメディア(SNS)

トップページのアクセス件数は前年度の2.2倍に激増！
個々のメディアの特性を活かした情報発信が課題

○ホームページ

ホームページは、インターネットを使った情報発信の柱となるものである。平成29年2月に本市のホームページが新システムに移行し2年目を迎えた当年度は、旧システムから丸ごと移したままであった館の基本情報や刊行物情報、館トップページの各種項目のバナーの変更など基礎的な項目の整備を進めた(60P図参照)。この結果トップページに常に最新の展示情報が載るようになったほか、郷土館時代のままのデザインや、「郷土館」の語が残っていた部分も改められ、全て博物館仕様となった。また、各ページの更新作業もしやすくなった。

右の表は、当年度のトップページへのアクセス数をまとめたものである。1年間で19,298件という数字は、前年度と比べると約2.2倍、10,500件以上増加している。前年度はリニューアルによる休館期間が10ヶ月に及んだために特に

少なかったものと考えられるが、さらにその前の通常通り開館していた平成28年度と比べても、8,000件以上増加している。ただ、既述の通り整備を進めたとはいえコンテンツを変更したわけではないので、やはりリニューアルによる効果が大きかったと考えられよう。

◆平成30年ホームページアクセス件数

月	トップページ件数
4月	3,191
5月	1,864
6月	1,519
7月	1,947
8月	2,022
9月	1,283
10月	1,441
11月	1,407
12月	1,025
1月	1,001
2月	1,205
3月	1,393
合計	19,298
1ヶ月平均	1,608.2

○ソーシャルメディア

当館ではツイッターとフェイスブックの2媒体にて情報を発信している。

①ツイッター

飯能市の公式アカウントにて、発信部署を博物館とする形でツイートしている。内容は事業や臨時休館の案内である。当該年度も前年度に引き続き、事業の前や展示期間の終了近くにツイート数を増やすようにした。

市のアカウントを利用することについては、「普段博物館を利用しないが飯能市には興味がある」というフォロワー層へ情報を届けられる可能性が高まる半面、飯能市立博物館としての独自性を出しにくい、ツイッターの持つ即時性を活かすきれない、といった課題がある。

②フェイスブック

フェイスブックはホームページの新システム移行に伴って開設したもので、当館独自のアカウントにて運用している。展示・イベントの告知

や臨時休館の案内のほか、旧ホームページの「郷土館日誌」「麦づくり日記」を引き継いだ形で事業報告や日々の活動記録も掲載している。開設から1年以上が経過しフォロワーは100人を超えたが、当初と比べるとその伸び率は低くなっている。

60Pのグラフは、当該年度掲載した53件の記事の分野・分類・更新者の割合を表わしたものである。

更新者別でみると、「学芸員A」の更新が約半数を占めている。学芸員Aは主に「市民学芸員の活動」を更新しており、これは、旧「麦づくり日記」から引き継いだものである。

次に多いのが自然担当学芸員Bと自然担当職員Dが更新した自然関連記事であり、案内と報告はほぼ半々である。自然関連の記事は、当該年度リニューアルの目玉として意識的に頻度を上げて更新した。その他、分野別グラフにおける「歴史・民俗」はその関連の展示やイベントに係る記事、分類の「活動全般」は博物館の日常の様子

を伝えるものであり、自然関連の記事とあわせてその内容は旧「郷土館日誌」とほぼ同じスタイルである。

これらの結果からは、発信媒体が変わったにも関わらず依然として旧ホームページの内容の継続から抜け切れていない、という当館の現状が見えてくる。

なお、「歴史・民俗」及び館全体に関わる記事や「活動周知」の記事が少ないのは、主にこれらの記事を挙げている学芸員Cが当年度特別展を担当しており、その準備期間(7月~10月)中はほとんど更新できなかったことによるものである。当館ではここ数年学芸員Cが情報発信をほぼ一手に担っていたため、担当者が担当する業務によって館としての更新頻度に影響が出る結果となっていました。当館全般に関わる記事については、複数で更新する体制を整えていく必要がある。

●まとめ

以上、今年度行った情報発信をメディアごとに紹介した。

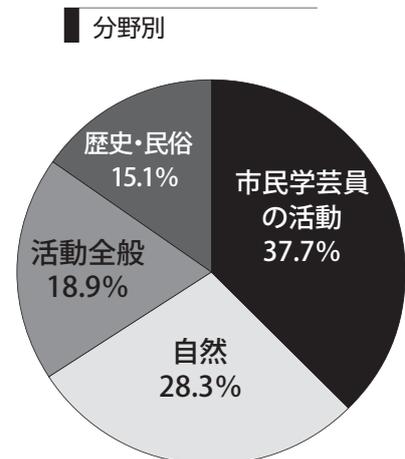
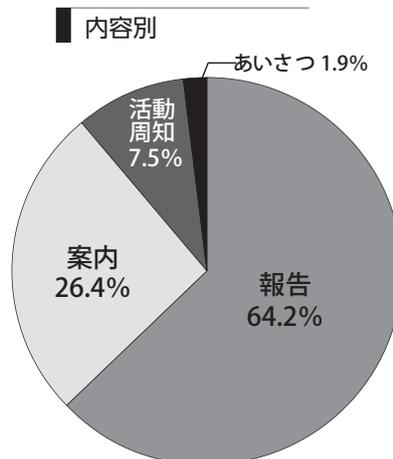
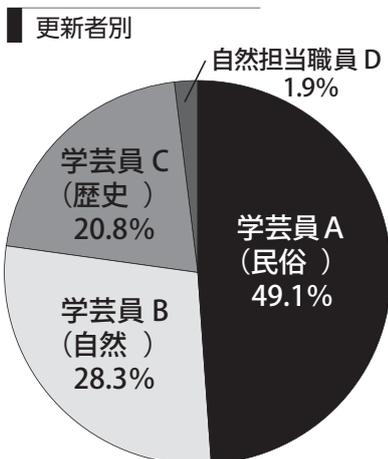
数字で見える成果として、それぞれのアクセス数やフォロワー数を増やすことは大切である。その点当年度はホームページのアクセス数が激増したほか、フェイスブックのフォロワーも増加し、概ね成果は良好だったと言えるだろう。次年度も、少なくともこのままの状態を維持し、可能ならば更なる増加に努める必要がある。

いっぽう、個々のメディアの特性を活かし、連携させた情報発信という点においては、方法や

戦略が定まっていない部分が大きくいまだ模索中であり、現在のところはそれぞれの媒体における積極的な情報発信を心がける、という段階で留まっている。個々のメディアの特性を理解してそれぞれのメディアに与える役割を定め、その上で館全体として目指すべき情報発信の姿勢を決めていくことが当面の課題といえよう。



2020年2月現在のホームページ (トップ)



That's! きつとす

「That's! 郷土館!」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、地域の歴史や文化、自然を紹介しているものである。リニューアルオープンに伴う名称変更により、平成30年度からは「That's! きつとす」として生まれ変わった。また周辺の自然のビジターセンター的機能が付け加わったことで、自然分野も網羅するようになった。

内容は、学芸員による資料研究の成果や地域の歴史事象のほか、資料の整理や調査など日常の活動の中で気づいたこと、感じたことなどを軽めのタッチで書いており、当館にとっては身近な話題を定期的に発信で

きる貴重な場となっている。

連載は平成13(2001)年5月から始まり、平成18(2006)年4月分より当館のホームページでも見ることができるようにした。当該年度の掲載内容は表のとおりである。

◆平成30年度「That's! きつとす」掲載記事一覧

月	内 容	担当学芸員
4月	(休み)	
5月	「きつとす」で未来にトス!	引間
6月	炭取引と飯能「町」の本店	尾崎
7月	目撃! 葉っぱの巻き物を作る虫、オトシブミ	本橋
8月	黒船来航に関わる文書	金澤
9月	どんぐりを落としたのはだれ?	本橋
10月	(休み)	
11月	これが獅子舞? これぞ獅子舞!	引間
12月	(休み)	
1月	吾那?我那?吾野?我野?~「あがの」を表す漢字たち~	金澤
2月	(休み)	
3月	スマイルに会いにでかけませんか	長谷川

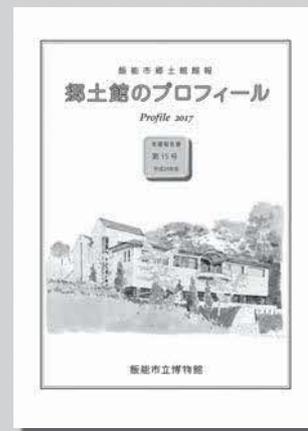
刊 行 図 書



特別展図録
「吾野 - 未来へつなぐ地域の記録 -」
A4判56頁(平成30年10月12日発行)



飯能市立博物館研究紀要
第1号(通算9号)
A4判56頁(平成31年3月28日発行)



飯能市郷土館館報
「郷土館のプロフィール」第15号
A4判76頁(平成31年3月29日発行)

今年度は、西武鉄道沿線の博物館スタンプラリーなど3件に協力！

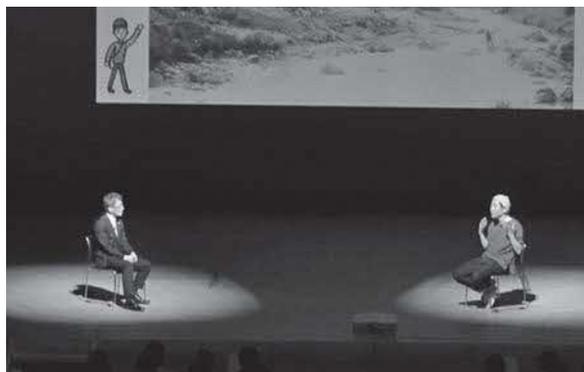
平成28年から37年までを対象とした飯能市第5次総合振興計画では、まちづくりの基本理念の1つとして「魅力・交流・賑わい創造と経済の好循環」が掲げられ、「古くから培われてきた本市の歴史や伝統、文化などの地域資源を、本市の単なる特性として継承してだけでなく、更に個性を引き出し、新感覚で新たな魅力創造へのステップアップを図る」としている。

こうした理念のもと、市役所内の様々な課所が地域資源を活用し、ブランド化をはかり、シビックプライドを醸成する事業を行っているが、これらの事業には、当館もっている地域の歴史・文化情報が不可欠である。これらの動きはともすると歴史文化情報資源の「使い捨て」にもつながりかねず注意が必要であるが、一方で歴史博物館の存在意義を市内で広く認識してもらうまたとない機会ともとらえられる。

以上の視点から、地域の魅力を発信し、ブランドづくりにつながる事業の支援も当館の業務として位置づけ、積極的に取り組んでいる。平成30年度は以下の3件である。このほか観光・エコツーリズム推進課の依頼を受け、新たに飯能駅改札口前に設置されたデジタルサイネージの内容確認などを行った。



「キン・シオタニはんのうさんぼライブ4」ポスター



「キン・シオタニはんのうさんぼライブ4」の様子

◆平成30年度事業支援実績

	支援先	利用期間	内 容
1	西武鉄道株式会社	7月21日(土) ～9月2日(日)	「西武線沿線涼しくアカデミックな夏休み！博物館スタンプラリー」は、スタンプラリースポットに設定された5つの博物館のうち、3箇所のスタンプを集めるとオリジナルノートがもらえるもので、当館にもスタンプが設置された。 ※オリジナルノート交換数:1,057冊
2	賑わい創出課	9月22日(土) ～12月2日(日)	飯能市内の『ヤマノススメ』シリーズのおもいで地のめぐるスタンプラリーにおいて、スタンプ設置場所とオリジナルステッカー交換場所として協力した。 ※ステッカー交換枚数:480枚
3	市民会館	3月2日(土)	市民会館主催の「キン・シオタニはんのうさんぼライブ4」に館長が出演したほか、職員が運営に協力した。 ※入場者数:406人

博物館協議会

博物館協議会は、飯能市立博物館条例第11条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任 期 平成28年7月1日～平成30年6月30日

第1回

平成30年6月12日(火)

午後2時～午後3時30分

(議 事)

協議事項

- ・平成29年度事業報告について
- ・平成30年度事業経過と今後の予定について

【委員名簿】

職名	氏名	役 職	備 考
会 長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
副会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委 員	伊藤 誠	飯能第一小学校長	
委 員	新井 均	吾野中学校長	平成29年3月31日退任
委 員	岡野 民嗣	吾野中学校長	平成29年4月1日就任
委 員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委 員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委 員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委 員	小槻 成克	飯能市文化財保護審議委員会委員	
委 員	馬場 憲一	法政大学教授	平成30年4月から名誉教授
委 員	平良 宣子	元毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

任 期 平成30年7月1日～令和2年6月30日

第2回 平成30年8月7日(火)

午後2時～3時30分

(議 事)

協議事項

- ・平成30年度事業経過について
- ・特別展「吾野の歴史」(仮称)について
- ・博物館評価について

第4回 平成31年3月27日(水)

午後2時～3時40分

(議 事)

協議事項

- ・平成30年度主要な事業報告について
- ・平成31年度主要な事業について

【委員名簿】

第3回 平成30年11月27日(火)

午後2時～3時30分

(議 事)

協議事項

- ・平成30年度主要な事業報告・予定について
- ・平成31年度主要な事業計画(案)について
- ※終了後、特別展「吾野」の展示解説を実施

職名	氏名	役 職	備 考
会 長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
副会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委 員	伊藤 誠	飯能第一小学校長	
委 員	岡野 民嗣	吾野中学校長	
委 員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委 員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委 員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委 員	小槻 成克	飯能市文化財保護審議委員会委員	
委 員	馬場 憲一	法政大学名誉教授	
委 員	平良 宣子	毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

博物館実習

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の1つとされており、登録博物館又は博物館相当施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。)における実習により修得されるものとなっている。文部科学省では平成21年4月の博物館法施行規則の改正を機に「博物館実習のガイドライン」を作成しているが、登録博物館である当館としては、これを参考にしながら博物館実習を実施している。「ガイドライン」では、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘しているが、合わせて実習を通して実習生とその周辺の人々に、当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも重要な目的の1つと考えている。

当年度より実習を行う年の1月にその年の実施要領をホームページ上で公開することとし、期間もこれまでの12日間から7日間とした。受け入れる学生は原則として、本市に本籍もしくは住所を有する方または本市内に所在する大学等に在学する方で、博物館概論の単位を修得済みで、実習を行う年度内に学芸員資格取得に必要な単位を全て修得可能であることを応募の条件にしている。申込みは実習の前年度末までに受け付け、概ね4人以内で実習生を決定している。

実習期間 平成30年7月27日(金)～8月3日(金) 7日間

実習生 嶋瀬沙耶佳・杉ひかり(以上駿河台大学)・橋本薫子(学習院大学)・山崎康平(大正大学)

◆平成30年度博物館実習カリキュラム

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7月27日	金	オリエンテーション・「当館の現状と運営方針」(尾崎)	自然観察会準備(長谷川・本橋)
2	7月28日	土	自然観察会運営(長谷川・本橋)	(台風のため中止)
3	7月29日	日	施設見学・民具整理(引間)	民具整理(引間)
4	7月31日	火	「今月の一品」展示(引間)	
5	8月1日	水	古文書整理(金澤)	夏休み子ども歴史教室準備(引間)
6	8月2日	木	夏休み子ども歴史教室「はじめまして、日本刀！」運営(引間)	
7	8月3日	金	古文書整理(金澤)	自然観察会、実習全体の振り返り・まとめ(尾崎ほか)
8	8月5日	日	市民学芸員(麦作文化探求)活動体験(引間)	民具整理(引間)

※8月5日は8月1日欠席者の補講

()は指導者名



民具整理 (7/29) の様子

1. 実際に博物館で業務に携わってみてわかったこと

- ・学芸員の仕事は多岐にわたり、限られた時間の中で様々な業務をこなしつつ、資料の収集、整理、保存や研究を行わなくてはならないということ。またキャプション作成や展示方法、照明などどれか一でも疎かにしてしまうと、博物館としての信用を失ってしまうため、作業はかなりの集中力を要するという事。



古文書整理 (8/1)

- ・飯能市の行事や施設に関わることがあまりなかったため、地域の歴史や自然に深く根ざした展示やワークショップを様々な形態で行っていることを初めて知りました。またリニューアルしてからよりいっそう観光などの地域活性化を目的とした役割も担っていることを知りました。

2. 博物館実習で楽しかったこと

- ・自分たちで「今月の一品」を選び、キャプション作成から展示までを行ったこと。「何と関連づけるか」といった資料の選定や、「何を伝えるのか」といった情報の取捨選択をしてキャプションを作成し、「何を見せるか」を考えて展示をする過程が、学芸員の仕事をしていることを一番実感して楽しかった。
- ・どの実習も初めての体験だったため、充実して楽しく行うことができましたが、特に楽しかったのは、自然観察会と夏休み子ども歴史教室

たのは、自然観察会と夏休み子ども歴史教室です。どちらも当日スタッフとしての仕事でしたが、子ども達が楽しそうに参加しているところを見られたことが一番嬉しかったです。また、今までの人生で何かに参加するという経験の方が多かったため、運営側としてイベントに参加できて新鮮でした。

- ・実習期間中に2回あった、子ども向けのイベントの運営に携わった事です。子どもたちといっしょに学べた事もありましたし、何より自分が知っている知識や前日の準備で教えていただいた事を実際に子どもたちに教え、喜んでもらえた事です。

3. 博物館実習でつらかった(大変だった)こと

- ・つらい、大変と特に思うことはありませんでしたが、自然観察会と夏休み子ども歴史教室では、子どもたちとは年齢が離れているため、どんな声かけをしたら勉強にもなり、楽しんでもらえるかという点が難しく大変だと思いました。また、夏休み子ども歴史教室では刀を扱うだけで緊張するのに、子どもが扱うということで、ケガや事故が起こるんじゃないかと見ていて更に緊張しました。この教室の午前に来た子どもたちはおしゃべりをする子が多く、注意して静かにさせることも大変でした。他に



自然観察会の準備 (7/27)

もどちらのイベントも子どもの質問に答えられない場面が何度かあったことです。

- ・夏休み子ども歴史教室で参加者の子どもたちが実際に日本刀に触れて観察を行う際の補助が、危ない持ち方をする子どもが多く、気疲れしました。また、子どもに注意をする時にどの程度叱っていいのかわからず、大変でした。
- ・全てが新鮮でとても充実した実習だったので、つらかった事はありませんでした。

4. 次年度の実習生に向けてのメッセージ (先輩として、実習を受けるにあたっての心構え、ここを楽しんでほしいなど)

- ・大学で学んでいるものはもちろんのこと、現場でないと分からないことの方が多いので、臨機応変に対応してほしい。
- ・貴重な体験をさせてもらっているということを忘れないで臨んでほしいです。博物館の方々は忙しい中で時間をつくって下さり、また収蔵庫の中や実習で扱う資料はどれも大切な館と地域の財産(学術的)だからです。他には、今まで学んできていたことの現場を見ることができるので、積極的に学んで体験していくことで、より良い実習になると思います。夏の暑い時期なので体調に気をつけて、できたら就活は一段落ついた状態だとお充実すると思います。
- ・自然観察会などのワークショップでは、質問に受け答えする場面があるので、答えられるように準備しておくこと、また、こちらからアプローチすることで参加者の学習を促進することも必要だと思います。
- ・大学での座学や学内実習では味わう事のできないものばかりです。博物館のリアルを知る

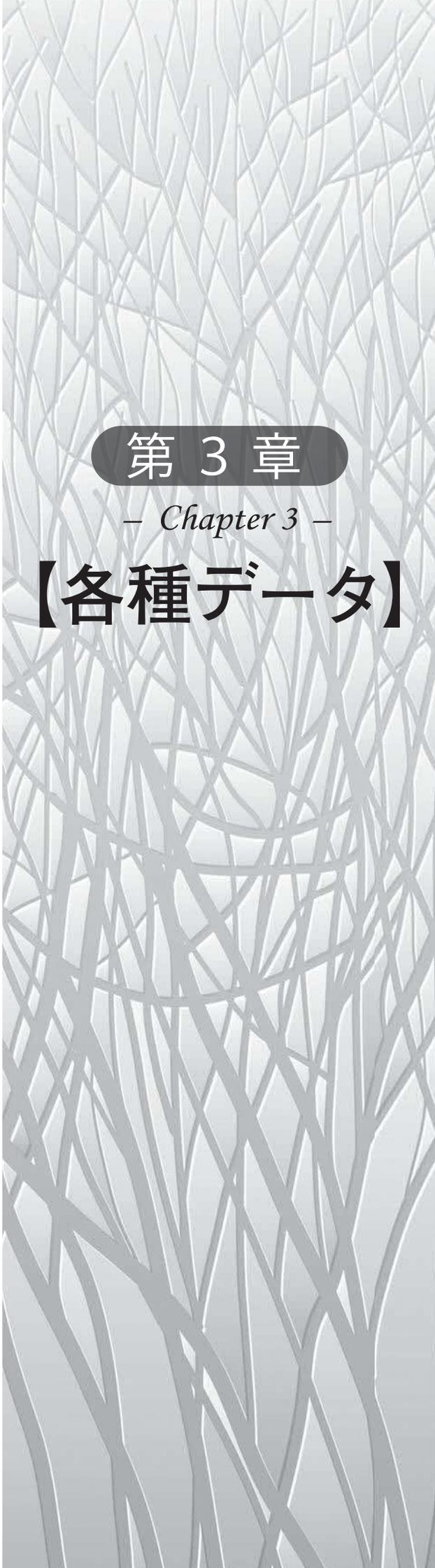
上でとても良い経験になると思います。また子ども向けイベントでは、大学で学んだ事以外にも必要な事があるので、是非頑張ってください。

5. 当館の博物館実習カリキュラムの内容などについて意見

- ・7日間は丁度よい日数だと思った。古文書整理や民具整理といったものは、博物館資料を実際に扱わせてもらえる内容だったので、緊張したがとても勉強になった。
- ・7日の間に資料整理、イベント等普通では中々できない体験があり、4年間学校で学んできたことが見られてとても充実していました。実習ノートは4人分、毎回コメントを下さり本当にありがとうございました。
- ・多種多様な体験をすることができて、勉強になりました。現在大学で受けている授業で学んでいることとは被らないことばかりだったので、新たな知識を得られました。
- ・実習期間中に通常の博物館業務の他に子ども向けのイベントの運営が2回あった事はとても良い経験となりました。



平成30年度博物館実習生



第 3 章

– Chapter 3 –

【各種データ】

利用者数

平成30年度利用者数

単位：人（明記したものを除く）

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数							利用者合計 に対する 割合(%)	利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料 利用者数	レファレンス 件数	講師派遣 受講者数	ホームページ アクセス 件数	合計			
4	27	5,412	200.4		8	47	107	3,191	3,353	38.3	8,765	
5	26	3,847	143.0		8	50	24	1,864	1,946	33.6	5,793	
6	21	2,684	127.8	47	8	26		1,519	1,600	37.3	4,284	
7	20	2,494	124.7	109	16	33	35	1,947	2,140	46.2	4,634	
8	27	2,671	98.9		12	46	22	2,022	2,102	44.0	4,773	
9	26	3,107	119.5		9	24		1,283	1,316	29.8	4,423	
10	26	3,869	148.8	85	14	24	68	1,441	1,632	29.7	5,501	
11	26	4,706	181.0	139	16	30	121	1,407	1,713	26.7	6,419	
12	23	2,631	114.4		12	16	190	1,025	1,243	32.1	3,874	
1	23	2,710	117.9		10	21		1,001	1,032	27.6	3,742	
2	24	3,395	141.7		8	23	70	1,205	1,306	27.8	4,701	
3	27	4,007	148.4		7	19		1,393	1,419	26.2	5,426	
合計	296	41,533	140.3	380	128	359	637	19,298	20,802	33.4	62,335	

開館(平成2年度)から平成30年度末までの

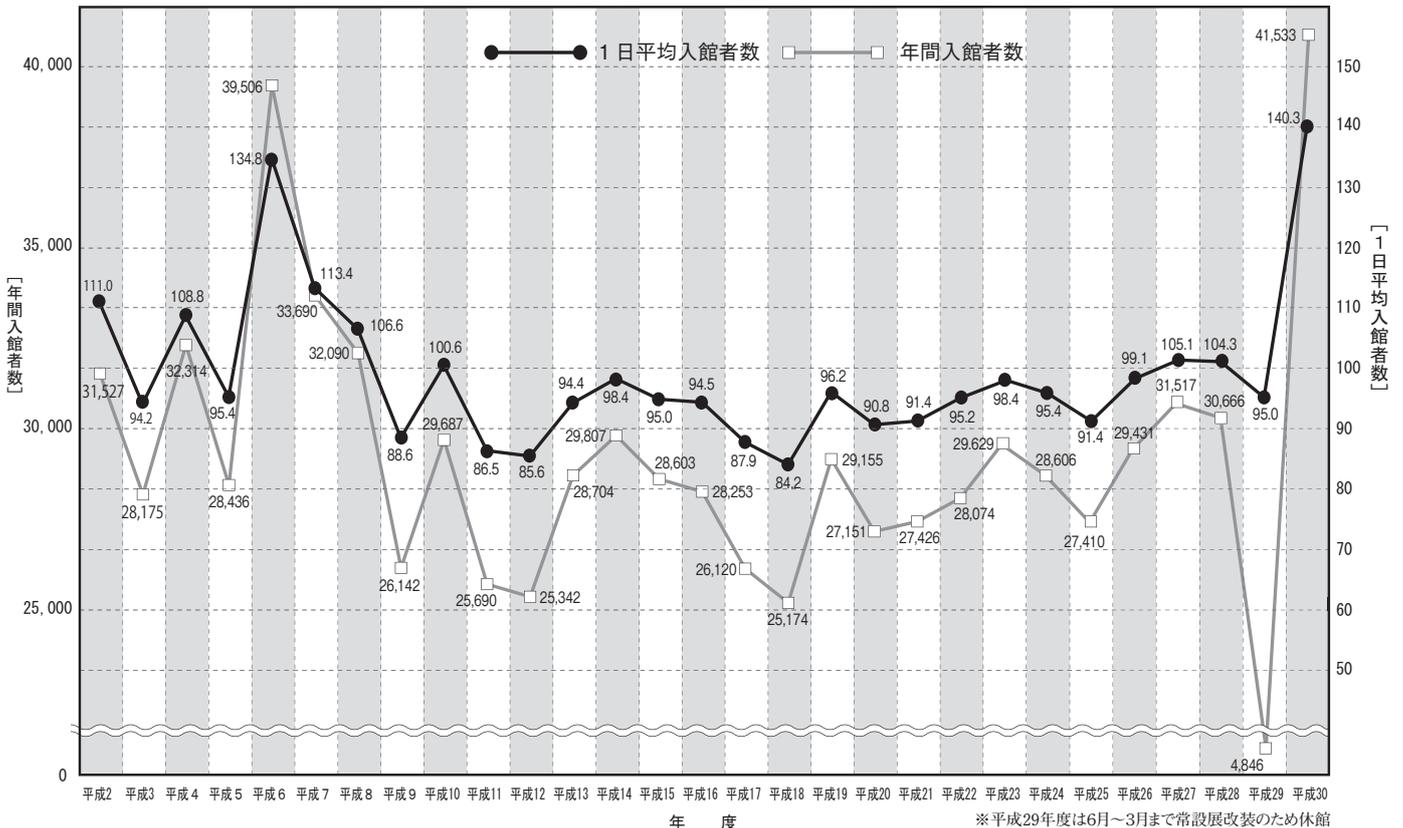
総入館者数 834,704人

開館日数 8,385日

1年平均入館者数 28,782.9人/年

1日平均入館者数 99.5人/日

入館者数の推移



歳出予算・決算

単位：円（明記したものを除く）

事業名 年度(平成)	郷土館(博物館) 事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・保存 事業	調査・研究事業	郷土館(博物館) 施設 管理事業	郷土館(博物館) 事業費 小計	常設展示 改装事業	郷土館 (博物館)費 合計	A(%)	B(円)	C(円)	
28	予算額	6,219,000	3,266,000	1,542,000	646,000	6,475,000	18,148,000	2,700,000	20,848,000	0.07	259.4	679.8
	割合	34.3%	18.0%	8.5%	3.6%	35.6%						
	決算額	5,824,218	2,470,895	1,240,184	550,715	5,739,880	15,825,892	2,700,000	18,525,892	0.06	230.5	604.1
	執行率	93.7%	75.7%	80.4%	85.3%	88.6%	87.2%	100.0%	88.9%			
29	予算額	7,673,000	3,888,000	2,061,000	266,000	19,771,000	33,659,000	50,000,000	83,659,000	0.26	1043.4	17263.5
	割合	22.8%	11.6%	6.1%	0.8%	58.7%						
	決算額	7,606,006	2,748,906	1,710,887	207,114	18,000,286	30,273,199	50,112,000	80,385,199	0.24	1002.6	16587.9
	執行率	99.1%	70.7%	83.0%	77.9%	91.0%	89.9%	—	96.1%			
30	予算額	7,913,000	3,554,000	1,371,000	697,000	9,641,000	23,176,000	0	23,176,000	0.08	290.1	558.0
	割合	34.1%	15.3%	5.9%	3.0%	41.6%						
	決算額	7,739,154	2,945,505	1,137,991	561,803	9,194,933	21,579,386	—	21,579,386	0.08	270.1	519.6
	執行率	97.8%	82.9%	83.0%	80.6%	95.4%	93.1%	—	93.1%			

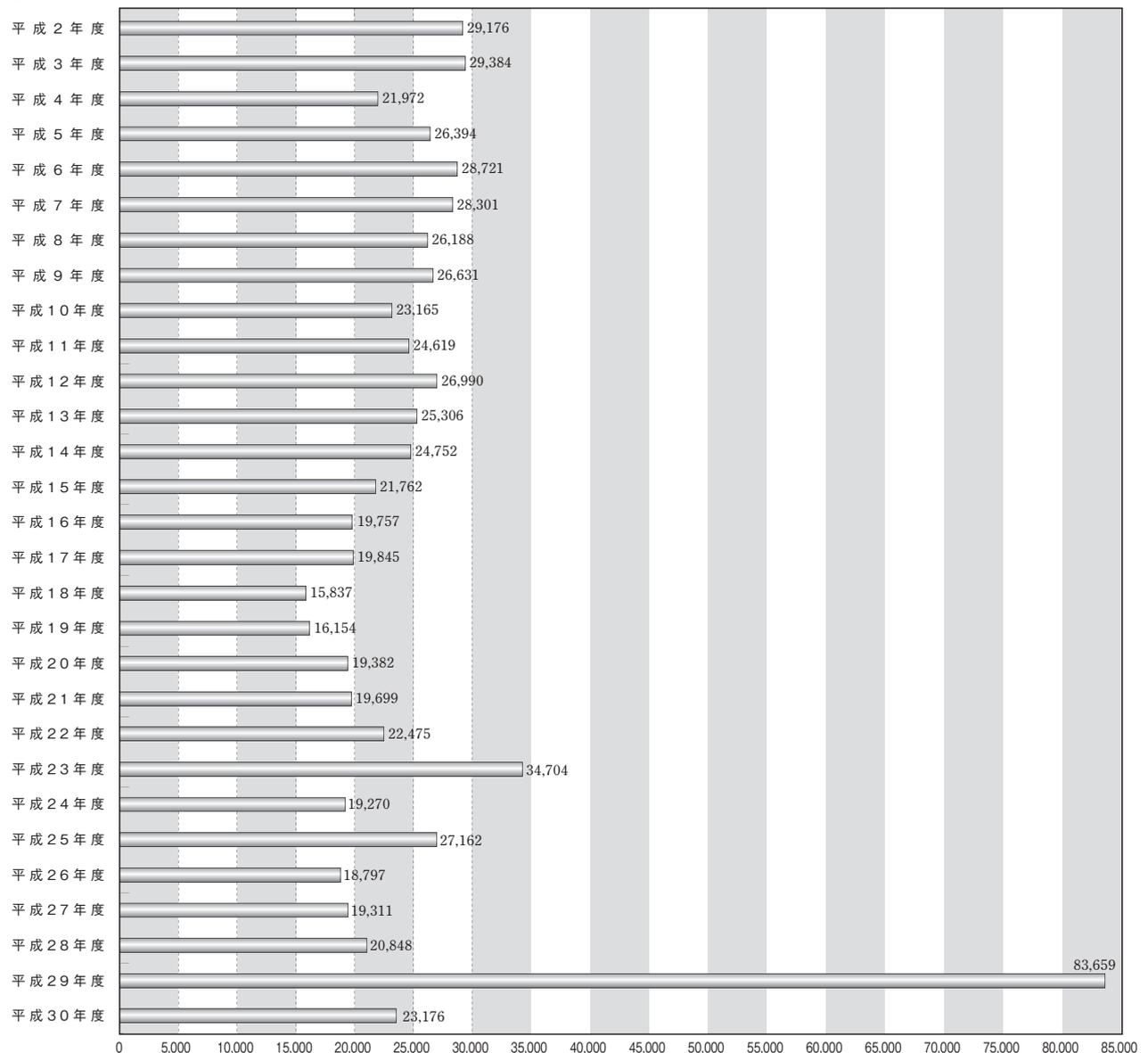
当館事業費決算額(人件費のぞく)

A：飯能市一般会計歳出決算額に対する割合 B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額

C：入館者1人あたりの金額 ※平成29年度は開館期間が2ヶ月間だったため、例年に比べ数値が非常に高くなっている。

飯能市郷土館（飯能市立博物館）当初予算額の推移

単位：千円



図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市教育委員会
朝霞市博物館
入間市教育委員会
入間市博物館
平成29年度入間市博物館・学校連携事業研究委員会
奥武蔵古文化研究会
越生町
越生町教育委員会
春日部市郷土資料館
加須市教育委員会
神川町教育委員会
川口市立科学館
かわごえ環境ネット
川越学舎
川越市立博物館
行田市郷土博物館
久喜市立郷土資料館
熊谷市
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
高貴の会（飯能第一小学校昭和二十三年卒業生）
高句麗文化展実行委員会
小江戸出版会
古代の入間を考える会
埼玉県
埼玉県入間地区公民館連絡協議会
埼玉県環境部自然環境課
埼玉県教育委員会
埼玉県郷土文化会
埼玉県生態系保護協会
埼玉県地域史料保存活用連絡協議会
埼玉県東松山県土整備事務所
埼玉県平和資料館
埼玉県立川の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
さいたま市
さいたま市大宮盆栽美術館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
埼玉文化懇話会
公益財団法人さいたま緑のトラスト協会
坂戸市教育委員会・国分寺市教育委員会
サトエ記念21世紀美術館

狭山古文書勉強会
城西大学水田美術館
杉戸町
精明郷土史研究会
第16回全国雑木林会議in飯能実行委員会
秩父市
鶴ヶ島市遺跡調査会
鉄道博物館
通二丁目親和会
所沢市
所沢市生涯学習推進センター
戸田市立郷土博物館
財団法人トトロのふるさと財団
新座市教育委員会
日本工業大学工業技術博物館
認定NPO法人ぬくもり福祉たんぽぽ
博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会
「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」実行委員会
飯能織物協同組合大島紬部
飯能絵画連盟
飯能市
飯能市教育委員会
飯能市児童生徒体力向上推進委員会
飯能市役所
飯能市役所ホッケー部
飯能市役所ホッケー部OB会
飯能市立各小・中学校
飯能町立第一小学校昭和二十三年卒業生有志一同
富士見市立難波田城資料館
富士見市立水子貝塚資料館
ふじみ野市教育委員会
ふじみ野市立大井郷土資料館
本庄市教育委員会文化財保護課
三郷市
宮代町郷土資料館
三芳町立歴史民俗資料館
吉見町教育委員会
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
桜美林大学
青梅市教育委員会
大田区立郷土博物館
学習院大学史料館
葛飾区郷土と天文の博物館
北区教育委員会
清瀬市郷土博物館

国家公務員共済組合連合会
駒澤大学大学院史学会
財団法人洪沢栄一記念財団
洪沢史料館
学校法人上智学院
新宿区文化観光産業部文化観光課文化資源係
杉並区立郷土博物館分館
説経節の会
創価学会
大正大学教務課学芸員課程
台東区教育委員会
財団法人たましん地域文化財団
調布市郷土博物館
社団法人電力土木技術協会
東京電力
東京都江戸東京博物館
東京都三多摩公立博物館協議会
東京都多摩環境事務所自然環境課
豊島区
西東京郷土史研究会
公益財団法人日本陶磁協会
公益財団法人日本博物館協会
一般財団法人日本真綿協会
日本林業調査会
練馬区立石神井公園ふるさと文化館
練馬区立石神井公園ふるさと文化館分室
八王子市教育委員会
バルテノン多摩
公益財団法人東日本鉄道文化財団
東村山市
東村山ふるさと歴史館
東大和市教育委員会
日野市
福生市教育委員会
福生市郷土資料室
府中市
府中市郷土の森博物館
文京区
町田市教育委員会
三鷹市山本有三記念館
港区教育委員会
港区立港郷土資料館
ミュージアムメディア研究所
武蔵大学学芸員課程
武蔵村山市教育委員会・武蔵村山市立歴史民俗資料館
明治大学学芸員養成課程
メンドール早稲田マンション建替組合
立正大学博物館

その他

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

我孫子市鳥の博物館
安中市学習の森ふるさと学習館
稲敷市立歴史民俗資料館
岩宿博物館
小山市立博物館
各務原市
各務原市教育委員会
神奈川大学日本常民文化研究所
かみつけの里博物館
菊川市教育委員会
近世村落史研究会
群馬県立歴史博物館
国立歴史民俗博物館
寒川町
滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
市立大町山岳博物館
全国カヤネズミ・ネットワーク
高崎市観音塚考古資料館
館林市教育委員会文化振興課文化財係
田原市教育委員会
田原市博物館
地学団体研究会
千葉県文書館
土浦市民ギャラリー
土浦市立博物館
津山市
津山郷土博物館
電気の史料館
濤沸湖水鳥・湿地センター
栃木県教育委員会
長久保赤水顕彰会
長野市教育委員会文化財課松代文化施設等管理事務所
中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」
流山市教育委員会
流山市教育委員会・流山市立博物館
流山市立博物館
野田市郷土博物館
阪南市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進室
平塚市博物館
藤沢市文書館
富士吉田市教育委員会
富士吉田市歴史民俗博物館
松戸市立博物館
学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議
公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団
立命館大学国際平和ミュージアム

飯能市立博物館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、飯能市立博物館(以下「博物館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(管理)

第2条 博物館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第3条 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第4条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。))である場合を除く。

(2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)

(3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第5条 博物館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、博物館の利用を制限することができる。

(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(入館料)

第7条 博物館の入館料は、無料とする。ただし、市長は、博物館が期間を定めて特別の資料の展示をした場合は、入館料として当該展示に係る必要な対価を徴収することができる。

(入館料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めるときは、入館料を減額し、又は免除することができる。

(入館料の還付)

第9条 既に納めた入館料は、還付しない。ただし、市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することができる。

(1) 利用者の責めに帰することができない理由により博物館を利用することができないとき。

(2) その他市長がやむを得ない理由があると認めるとき。

(損害賠償)

第10条 博物館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、博物館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第11条 法第20条第1項の規定に基づき、飯能市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第12条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者

(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者

(3) 学識経験者

(委員の任期)

第13条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第14条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第15条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第16条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

附 則 (平成24年条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

附 則 (平成29年条例第20号)

(施行期日)

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市立博物館条例の規定により任命された飯能市立博物館協議会の委員とみなす。(飯能市情報公開条例の一部改正)

3 飯能市情報公開条例(平成11年条例第1号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

飯能市立博物館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市立博物館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市立博物館(以下「博物館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、博物館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、博物館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市立博物館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市立博物館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(博物館資料の利用及び許可)

第5条 博物館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市立博物館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市立博物館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(入館手続)

第7条 条例第7条ただし書に掲げる入館料が定められた展示を観覧しようとする者は、入館前にその定められた入館料を納付し、入館券の交付を受けなければならない。

(入館料の減免)

第8条 条例第8条の規定による入館料の減免は、次に定めるところによる。

(1) 本市が直接利用するとき 免除

(2) 本市の区域内に設置された学校又は保育所が利用するとき 免除

(3) 国又は本市以外の地方公共団体が利用するとき 免除

(4) その他教育委員会が特に必要と認めるとき 教育委員会が別に定める割合

2 入館料の減免を受けようとする者は、教育委員会に申請し、その承認を受けなければならない。

(入館料の還付)

第9条 条例第9条ただし書の規定により還付する入館料の額は、次に定めるところによる。

(1) 利用者の責めに帰することができない理由により利用することができないとき 全額

(2) その他教育委員会がやむを得ない理由があると認めるとき 教育委員会が定める額

(資料の寄贈及び寄託)

第10条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市立博物館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市立博物館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市立博物館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市立博物館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、博物館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第11条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成30年教委規則第3号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(74ページ)、様式第2・4・6・7号省略

様式第1号(第4条関係)

担 当	館 長

熊本市立博物館施設利用許可申請書

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

団 体 名 _____

住 所 _____

申 請 者 氏 名 _____

電 話 番 号 () _____

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住 所	氏 名	電 話 番 号 ()
利用目的			
利用日時	年 月 日 時 分～ 年 月 日 時 分		
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室 人		
	<input type="checkbox"/> 特別展示室 展示品() 点		
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機 <input type="checkbox"/> ビデオ機器 <input type="checkbox"/> 展示パネル <input type="checkbox"/> 展示ケース <input type="checkbox"/> 展示台 <input type="checkbox"/> その他()		
その他 特記事項			

※ □内は、該当するところに印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号(第10条関係)

担 当	館 長

熊本市立博物館資料寄贈申請書

第 号

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

住 所 _____

申 請 者 氏 名 _____

電 話 番 号 () _____

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

資 料 名	数 量	備 考

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号(第5条関係)

担 当	館 長

熊本市立博物館資料利用許可申請書

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

団 体 名 _____

住 所 _____

申 請 者 氏 名 _____

電 話 番 号 () _____

下記のとおり博物館資料を利用したいので申請します。

利用目的				
利用期間	年 月 日から 年 月 日まで			
利用場所	館 内 ・ 館 外 ()			
利用方法				
利用資料	分類番号	資 料 名	数 量	備 考
輸送方法	館外利用のみ()			
利用責任者				
特記事項				

返却日	受 領 者

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号(第10条関係)

担 当	館 長

熊本市立博物館資料寄託申請書

第 号

年 月 日

(宛先)熊本市立博物館長

住 所 _____

申 請 者 氏 名 _____

電 話 番 号 () _____

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

寄 託 期 間	年 月 日 から	年 月 日 まで	資 料 名	数 量	備 考
寄 託 資 料					

様式第6号 資料寄託申請書

職員

平成30年度

教育長	今井 直己	非常勤(自然調査)	本橋 綾香
生涯学習スポーツ部長	益子 恵子	非常勤(資料整理・展示準備ほか)	
館長(学芸員)	尾崎 泰弘		石田 朋子
主査(学芸員)	引間 隆文		加藤 緑
主任(学芸員)	長谷川裕子		入子美佐子
主事(学芸員)	金澤花陽乃	派遣(施設管理)	野口 修

● 市民学芸員(敬称略)

池田勝造	石原紀子	石森実三	板津沙耶香	伊藤孝文	伊藤美津江	宇津木繁生
大野さく子	大野正一	久津輪 社	小暮 進	小林豊子	子安修二	子安裕子
坂本利二	佐々木初江	篠宮敏次	嶋崎季子	嶋田恭子	清水芙美子	杉山玉子
関根秀俊	遠山光保	富澤武男	永田幸雄	仲舘祐子	中藤栄寿	中野和子
中山 功	双木幸三	西久保治子	根立範子	長谷川志保子	馬場朱美	原田恵子
福嶋信子	別府 愛	松田早苗	村岡裕子	柳戸淳吉	山川貞治	山岸忠義
山崎和永	山田栄子	和島和恵	渡邊栄子	渡邊雅子	(以上47名)	

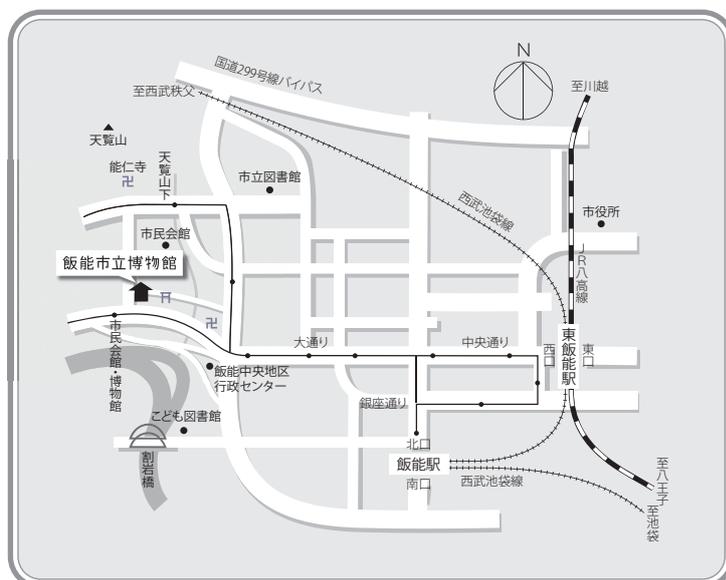


利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日(ただしこの日が休日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料：無料

交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：飯能駅北口より徒歩約15分または東飯能駅西口より徒歩約20分
飯能駅北口または東飯能駅西口より国際興業バス名栗方面「市民会館・博物館」バス停下車徒歩3分、または西武飯能日高行「天覧山下」バス停徒歩5分



飯能市立博物館館報 きっとすレポート

第1号 (通巻第16号)

令和2年3月29日発行

発行 飯能市立博物館
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431
E-mail: museum@city.hanno.lg.jp
http://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4
TEL (042) 974-5260

〈印刷の仕様〉

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 版 型 | A 4 版 |
| 2 | 紙 質 | (表紙) マットコート紙 菊判111kg
(本文) クリームキンマリ菊判62.5kg |
| 3 | 印刷方法 | オフセット印刷 1色刷り (本文) 76ページ |
| 4 | 印刷内容 | モノクロ写真 84枚 |
| 5 | スクリーン線数 | 175線 |
| 6 | 製 本 | 無線綴じ |



 **飯能市立博物館**
Hanno Municipal Museum

埼玉県飯能市大字飯能 258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431